

330

49分

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



36.11.16



解題叢書

全





解題叢書

緒言

世態多端にして古書舊籍漸く散佚せんとするの虞尠からず。本會こゝに本輯を編して、古群書の亡逸を防ぎ、後學の古遺篇保存を慫慂せんとす。

經籍訪古志八卷 安政三年成 澠江全善著 原本 森立之寫本

本書は、我國に傳はりたる漢籍の古寫本、古版本を記したるものにして、留眞譜と合せ見るべし。留眞譜は、本書に載せたる古本の重なるもの、首尾等を摸寫して出版したるなり。本書もと六卷、後二卷を補遺して全冊を成せり。今編者の一人なる森立之の子約之の自筆本によりて收載し、之に參するに上海開版の唐本を以てして異同を註せり。書中補註と署せるは約之の註せるものなり。

按ずるに、支那は東洋に於てはやく文化の開けたる地にして、典籍の數千年を経て今に存するもの多し。然れども近代流布の本には、訛誤少しとせず、又かの本土に於ても散佚して傳はらざるものあり。而して本書には、彼に佚して我に存するものを載せ、流布の本を訂正するに足る善本を掲げ、各其所藏者、傳來、體裁等を詳にせり。眞に學事に益あるものなり。本書に載せたる他、なほ古寫本、古版本の近年世にあらはれたるもの夥し。希くは好事の士を得て、遠くは秦漢唐宋の遺篇を訪ね、近くは本書著者の盛意を續いで全うせんことを。而してかの徐福の齎したるもの、王仁、段揚爾の傳へたるものをも發見する時あらんことを。

抑支那は革命の國にして、元首の興亡一ならず、先年清朝滅びて共和の制となりしに、近日また帝政に復せんとすと聞く。帝政か共和か、我其の可否を知らず。もし彼國の事情に通じ、東洋の歴史を知

らんとするものあらば、まづこの本書に記載せるが如き古書に深く意を留めて、其の源に遡り、其の本を究めなば、其の所説に於て正しきを得て、始めて誤なかるべし。根柢を古書におかざるもの、其の説決して採るに足らざるなり。

近年古書を尊重するもの多けれども、よく之に通ずるものは少し。是に於てか、自ら古本に明かなりと稱して、世を欺き人を詐るもの、往々聞ゆ。其の所爲甚悪むべく、誠に斯道の恨事なり。古書を好むもの、まづこの書に精通せざるべからず、自省みて彼の輩に欺かるる事なかれ。

官版書籍解題略二卷

本書は、舊幕府殊に昌平坂學問所に於て刊行したる書籍の解題なり。この諸本の版木は、明治維新の後多くは散佚せり。其の残りたるもの數種は、近年昌平叢書の名を以て新しく摺りたるものあり。

諸藩藏版書目筆記四卷 東條耕著

本書は、徳川時代に諸大名并に其の家臣の刊行したる書の解題にして、官版書籍解題略と併せ見るべきものなり。

古經題跋二卷 文久三年成 鵜養徹定著 原本木活字版

續古經題跋一卷 明治十六年成 同著 原本寫本

本書は、佛書の我國に古く傳はれるものを記載したるなり。

彼の教にては、經文を書寫し、護持し、流通するを以て、最大の功德となす。故に其の功德の爲に、書寫し、印行して、之を諸寺に寄せ、之を金櫃に實れ、石室を築きて、名山に納むること、歴世絶えず。みなこれ五十六億六千萬年の後に永く傳へんことを期するなり。隨ひて古經文の多く今に存することは、もとより珍とするに足らざるなり。その古本に據りて、流布の經文を校訂し、字句の誤を正さんことを勤めたるもの、近世靈雲寺の淨嚴、葛城の慈雲、鹿谷の忍徴、西來寺の

宗淵等の諸師世に著はる。古經堂の主人も亦よく搜索し、廣く涉獵して、この二書に載するところ、後學に益多し。而してなほ東大寺の聖語藏を見るに及ばず、燉煌石室の發見を聞くに至らざりしは、其の人の爲に遺憾なきにあらず。

近年北京、安南、印度、西藏其の他より各傳本を將來せるものありて、佛教各種の經文は、今やほゞ我國に完備せり。眞に盛代の美事にして、古今内外にかつて聞かざるところ、印度の本國にも見ざるところなり。これ古經堂主人の遺意を、今日に成さしめたるものと云ふべし。加之縮刷藏經、~~正藏藏經~~藏經、日本大藏經等刊行の舉ありて、之を東西に頒布し、盡未來際に遺す。其の盛なること、前世の寫經、納經に超えたり。其の功德の廣大、果して如何ぞや。

冀くは、上は古より我國に傳來したるところ、近來各國より將來したるところの諸本を集め、之に據りて、廣く翻譯の系統を正し、遠

く金口の古にも遡りて、文句を究め意義を明らめ、南北諸教の分るところ、顯密諸宗の説くところ、大小諸乘の立つるところ、みな悉く之を詳にし、且は之に依りて、一大事の因縁を悟り、諸佛出世の本懷を周く世に知らしめむ。又望むらくは、弘濟の本誓に違はずして、歐米の衆生をも救ひ、かの止むとき無き鬪争を和げ、限りなき怨念を斷たしめ、かの苦しみを除きて、この樂を與へ、速に迷津を出でて、各みな覺路に歸し、疾く苦界を去りて、相共に眞如に入らむ。古經堂主人の本意もまた正にかくの如くなるべし。

譯場列位壹卷 文久三年成鶴養徹定著

原本本
活字本

本書は、古本の經文の卷尾に載せたる翻譯者の名を集めたるものなり。これ宋版以後の版本には、みな省略して掲げざるところのものなり。是を以て前の遺落を補ふもの多し。

因に曰ふ、右三書中字格一ならざるもの往々あり、此等はその誤

れるは訂し、檢校檢校等の如きは原本のまゝを存せり。

和版書籍考十卷 幸島宗意著

本書は、題名の示す如く、慶長より元祿年間に至る本邦印行の群書を列載し、其の卷數及び著者を明かにし、各一編の梗概を記したるものにして、神書・儒書・武書・史傳・雜記・醫書・諸子百家・詩文・尺牘・倭歌・倭字諸書・字書・法帖の十一門に分類し、總て七百五十七種を蒐收せり。元祿十五年の版本なり。古群書を涉獵するに便し、斯學に志すもの資する所多かるべし。

經籍答問二卷 松澤老泉著

本書は、書肆松澤老泉の筆記にして、精撰の作にあらざれども、目錄の學に益あり。依りてこゝに附す。

大正五年一月

國書刊行會識

解題叢書

目次

經籍訪古志	一頁
官版書籍解題略	一七二
諸藩藏版書目筆記	三三四
古經題跋	二七五
續古經題跋	三三七
譯場列位	三七五
倭版書籍考	四〇二
經籍答問	四九九

目次終

解題叢書

經籍訪古志序

目錄之學自劉歆七略始、漢書藝文志因之、隋唐諸史沿襲其例、宋以來私家著錄者尤夥、晁公武讀書志、陳振孫書錄解題其卓卓者也、學古之士藉以驗存佚、辨真贋、核同異、益匪鮮、然如通志藝文略標舉名目無所詮釋、別

開尤袤、遂初堂一派讀者病其太簡焉、日本與我同文、海程甚近、以故祕書珍帙往往流傳、日人藤佐世嘗著見在書目、距今百年書皆散佚不可復問、近澠江全善森立之復作經籍訪古志繼之、分經史子集四部、醫書別為部增於後、凡七卷、大抵論繕寫刊刻之工拙、於考證不甚留意、然海東群籍總匯於斯、固集古者所取資、采風者所必錄也、予銜命東來、公暇訪蒐古籍、姚君子梁為道此書、

獲之深喜、亟命以聚珍版印行、公諸世之同好者、工既竟、爰書緣起於簡端、

峇

大清光緒十一年歲在旃蒙作噩兩月上澣十六日徐承祖序
◎此序原本ナシ



經籍訪古志序

讀書必先剖析其書之所淵源、擇其最古且善者而從之、然後六載經傳以至百氏、始可得而誦習焉、不然則書之流傳既久、彼此乖異之不定、而何由能求古人之意、於言語文字之間、而莫所失乎、此漢儒校讐之學、所以涉萬世而不可廢也、意者書之最古且善者、固世所罕觀、而天祿石渠之祕、人間所不獲覩、其僅存乎、名山谷剎之間者亦無由致之、乃唯天下之好之至篤、擇之至精、而且有力者、獨能不憚寒裳之艱幽討之勞、而獲之於兵火風霜之餘、於是乎絕無僅有之佳本、始稍稍得傳人間、而學者得據以定彼此之乖異、則其有功於天下後世抑亦偉矣、我朝先達知貴古本者、蓋以篁墩吉田學生為首唱、而藏書亦頗富、繼而起者為掖齋狩谷卿雲、而卿雲鑒別尤精、凡其傳鈔之源委流別與彙刻之同異得失一一考核、其所以然之故靡不明确、而插架亦極富、蓋所

謂好之至篤擇之至精、而且有力者歟、篁墩同時有若桂山丹波君廉夫、卿雲所友則又有若迷庵市野光彥、有若寶素小島君學古及伊澤蘭軒、相與上下其議論、而藏書亦皆頗富、惜諸老先生者相繼歸道山、而其所收儲各種古本者、學者欲髣髴其面目而不可得、莫不以為憾事焉、從卿雲游者澀江道純、森立夫、並親受其指授、具有鑒識之明、而菑庭丹波君亦柔、亦嘗與卿雲交最親、深慨書之存佚顯晦有數、則迄今為之收錄以貽學者、庶幾乎足以見舊本面目、其亦諸老先生之志也、夫遂德德道純立夫及小島君抱沖、俾撰成目錄、於是相與考據舊聞、著為經籍訪古志六卷、其書體例與乾隆天祿瑯書目、張金吾愛日精廬藏書志在昆季之間、而古籍之繁富、與決擇之精且確、則更遠出乎二書之上何、其偉哉、蓋我邦所傳古鈔本具存隋唐之舊、真為宋元人所不能覩、而歸然獨為靈光之存此為絕佳之種、皆出宋元古本之上、而向之諸老先生者亦嘗竭力搜討、能獲之於兵火風霜之餘、蓋不下數十百種、他至於宋元板及朝鮮刊本、亦往

經籍訪古志附言

往為明清諸家所不及睹、而各家儲藏指不勝屈、則是錄所登載古籍之繁富、所以遠出乎清人書目之上也、嗚呼自藤佐世現在書目以至通憲藏書目等、所收概皆散佚湮滅不可復問、欲觀所謂金澤印記本者、蓋既僅僅如晨星、即足利學所藏亦唯不過存什一於千百、迨至於近日、掖齋諸家及薦紳學士所藏、比年以來間亦歸不知何人之手、則日後之存佚聚散復當如何、此好古君子所以感慨歎惜不措者、而是錄之所以由作、其豈得已哉、抑亦推是而上海內讀書之士、人人知古本之可貴、而校讐點勘之不可廢、則其藉此以求古人之意於言語文字之間也不難矣、余諡陋寡識不足望諸老先生之後塵、而是錄之成也、亦時得寓目一二竊嘉其用力之勤摯、而於學者校讐點勘之功、最有深望焉、茲揭之以書於卷端、

安政丙辰長夏月

海保元備鄉老識

是書編錄發端於狩谷掖翁在日、凡辨鈔刻之源委流別、得之其指授者為多、厥後小島君寶素又屢加搜討、而仍未完、丹波菑庭先生、深慨古本之日就湮晦、督促余二人者俾亟從事于斯、復獲寶素君嗣子抱沖君、以其所得庭聞互相攷數、用功精密、每倍從余二人者以故不久就緒、又有伊澤磐安、以所聞其先人蘭軒先生、相商推既成就、正于海保鄉老點訂之、可以得而傳焉、諸所考證一作按語以置後、各家之說不復識別、蓋前後凡三易稿始釐為六卷、其讎校之勞則堀川未濟與有力焉、其題曰經籍訪古志者、菑庭先生所命云、書中所收概以元以上為斷、而凡皆止其見存者間有出于傳聞、非目睹者亦附記之、若明清諸本必審擇其絕佳者載之、

凡所臚列舊鈔舊刻、每必先標其時代、次注儲藏之家、次

下廿二字イナシ
載撰人名氏、卷帙完缺、及其行數字數、界欄分寸、諱字、缺筆、舊藏印記等逐一錄之、蓋全書體例一遵依天祿琳瑯書目、及愛日精廬藏書志云、

官庫所儲祕笈浩如煙海、非人間所得而窺、今據前人所記恭為登錄、蓋所以表章、列代好學之一斑亦庶乎足以鳴今日、

右文之治、或者以為、官書不宜暴著於人間、或者又以為、官本與私書同列為不倫、此皆私見不足語、昌代如海之大也、

近世以藏書名者、前有佐伯毛利氏紅粟齋、浪華木世肅、孔恭、兼葭堂、後京師有福井榕亭、崇蘭館、最後有新見賀州君賜蘆文庫、此錄所載各古本、大抵諸家儲藏之功也、木氏之藏早獻之昌平學、近日毛利氏亦獻之官、今皆現存、但木氏醫書獻醫序者、燼于丙寅之火、榕亭之藏亦罹甲寅之災、聞新見氏之藏亦漸就散佚、均可為浩歎、

從來著錄家於醫書多略、而是編比他家殊詳者我邦所傳醫籍最稱繁富、而樸齋丹波先生竭力收集、柳浩菴庭二先生皆能繼其志儲蓄益夥、而柳浩先生著有

醫籍攷一書、其於醫家一類靡不網羅、此錄之成其闢曉湖君孫棠邊君為之綿絕、更有寶素酌源二藏並錄入之、而菴庭先生加之訂正、是以所記獨為完全也、但體例既異則別為一類、以置于後焉、

凡所收錄各古本係目睹者、詳影寫前後頁數行及印記等、為數巨冊、取河間獻王傳語、題曰留真譜、庶乎學者一瞥乃得知古本面目、

近日書估其鑒識者、前有慶元堂泉莊、後有萬笈堂英遵、每獲古本必攜行以鬻與好古之士、諸家藏書之富、二人之力居多焉、茲連綴書之欲不沒其功也、

澀江全善道純
森立之立夫
同識

經籍訪古志卷第一

經部上

易類

周易六卷明應問鈔本 狩谷氏求古樓藏

魏王弼注、第一卷缺、第二卷首題、周易上經泰傳第

二、王弼注、每卷末不書經注字數、欄上層格內有國字鈔記、每卷末朱書誓譽二字、蓋即卷中朱點人云、每半葉七行、行十六字、界長六寸八分、幅四寸九分、

又永正問鈔本 求古樓藏

卷首第一行題周易上經乾傳第一、次行王弼注、第三行三三乾下、乾元亨利貞、貞字缺筆、每卷尾記經注字

數、蓋從北宋板鈔者、欄外有層格、錄纂圖互註、每半葉九行、行十七字、界長六寸八分強、幅六寸三分半、五六兩卷八行、行十六字、

又大永享祿問鈔本 求古樓藏

首尾體式及貞字缺筆、一同前本、卦畫用木印、每半葉七行、行十六字、界長六寸七分半、幅五寸二分強、

又天正問鈔本 小島氏寶素堂藏

首尾體式同前本、但每卷首第幾下雙行小書、注卷內卦名、貞字不缺筆、一與崇蘭館所藏卷子改摺十卷本合、皆足以見李唐舊本之遺云、卷三卷四以別本補足、每半葉六行、行十七字、界長六寸七分弱、幅五寸弱、

又慶長元和問鈔本 曲直瀨氏慎仙樓藏

首尾體式一同永正本、而貞字不缺筆、蓋鈔寫時補足一畫者、每半葉六行、行「每行」經十六字或十七字、注二十一字或二十二字、界長七寸一分、幅四寸五分、

纂圖互註周易六卷天正問鈔本 山田氏九折堂藏
補註約之按、此本丙午火災為烏有、

第二第三兩卷缺、卷首第一行題纂圖互註周易上經乾傳第一、次行夾注、載陸德明音義、第五行上空二字、王弼註下雙行載釋音、第六行上空二字乾下、乾、元

亨利貞貞字末畫、第六卷末有經注字數餘卷皆缺、欄外層格內有標記、每半葉六行、行十七字、界長八寸六

分、幅六寸六分、

按、此本字畫率略訛謬儘多不足據、以校經注異同、其互註唯乾坤二卦、數見餘卦罕載、豈亦略去歟、攷慶長十年釋閑室奉神祖命校重言重意本周易活字印行、體例與此本同、但無互註、其重言重意、此本附各句下、而慶長活板、則附之每卦之末、稍為異耳、蓋此本不詳出何人、朱彝尊經義攷載纂圖互註毛詩二十卷、引陸元輔之言曰、此書不知何人編輯、首之以毛詩學要圖二十五、觀此則知是本不載圖者、蓋略去之也、元輔又曰、各圖或引注疏或引禮書詳注其下、攷琳瑯書目、載纂圖互註周禮十二冊、稱宋陳祥道有周禮纂圖其書已佚、此書圖說多引禮書之言、或本祥道書據此、豈纂圖本之祥道書、其重言重意本之唐宋人帖括書歟、其合編為一書者、殆出元人經義、攷載周禮附音重言重意互註十二卷條、引繆泳之言、以為元人所輯、蓋得其實矣、又按、周易六卷本舊鈔尤多、中有二種取源自異一為

傳鈔李唐本多存古字、一為臨寫北宋本貞恆等字缺筆、曩歲會求古樓展觀古籍實文化乙亥五月七日也、時、屋代輪池出其所藏周易六卷本以相示、其書每半葉八行、行十六字、界長六寸九分、幅五寸四分半、每卷末有經注字數、卷首有照善院墨印、但未詳其鈔寫年月、事錄在卿雲輪困錄中、不知其書今歸于何人、聞崇蘭館又藏六卷本二通、一為舊鈔本、一為活字附釋音重言重意本、卷首有字治惠心院藏宋印、屋代輪池亦嘗藏活字六八字、界長七寸五釐、幅五寸一分、四周雙邊、每注末附釋音重言重意、卷末有慶長十年鹿苑承兌跋、蓋亦與此本同種、他鈔本數通散在諸家、今未遑枚舉、攷清人著錄家不載一部六卷本者何耶、意者究海外未有出于南宋十卷附釋音本之右者、視之皇國以唐本為第一、以北宋本為第二、以南宋本為第三、昌平學所藏九卷本、其高下優劣抑何如哉、此不可以不志焉、

周易九卷略例一卷舊鈔卷子改摺本 京師福井氏崇蘭館藏

繫辭以下晉韓康伯注、略例魏王弼撰、卷首第一行題周易上經乾傳第一、下夾注卷內卦名、次行王弼注、

第三行乾下、乾元亨利貞、每卷末有經注字數、第八卷末有本云永仁元年十一月十七日點了、同廿四日點了、長英記、每行十四字、乾九四或躍在淵或作惑、而略例無序及注文、與宋槧本不同、其為李唐傳來舊鈔蓋不疑矣、

按、藤原佐世見在書目云、周易十卷、魏尚書郎王弼注六十四卦六卷、韓康伯注繫辭以下三卷、王弼又撰易略例一卷、此本卷數與此合、可以證其為唐本也、見在書目又云、周易略例一卷、唐刑部刑部注、知唐時刑注略例本自別行、至宋遂合刻之、大失古色、清人錢遵王以後知古本可貴重、於是募海內以集奇籍、嚮有天祿琳瑯書目、而近日張金吾又著愛日精廬藏書志、載琳瑯之未及收錄者、乃鈔本零卷亦兼併無遺、則破壁斷璋固為可貴、然其所採者、亦未有出于宋槧元鈔之外、至皇國所存古本、原之李唐傳鈔經文異同有七經孟子考文、未及收載、當以訂正今本之誤者甚多、間與陸氏釋文所引一本符、且其文字多存六朝俗體、

乃徵諸當時碑帖、及干祿字書、往往而合、是誠皇國之一大美事、而此書著錄之所由起也、

又大永三年鈔本 崇蘭館藏

卷首第一行題、周易上經乾傳第一、次行王弼、第三行乾下、乾元亨利貞、第一卷末有永仁六年少納言清原朝臣記、大永三年侍從三位清原宣賢記、及天師明經儒清原宣口等朱印、卷首篋子內有朱書東字、則可證此本為大永中清原宣賢所手鈔、最可貴重也、每半葉八行、行十四字、界長六寸七分、幅五寸五分、按、此本經文與今本異者、需六四象曰需于血順以聽命也、多一命字、据正義載文恐諸本並脫也、其注異者隨九五注履中居正各本中正二字互錯、据正義載文、又知此本獨得而諸本並失之也、震注云、故曰震來虩虩恐致福也、諸本並脫曰字、艮九三注至中則列夤矣、諸本並脫夤字、唯此本及慶長舊鈔本有之、既濟象注以既濟為象者、象字或誤作安、又或誤作家、唯此本及慶長鈔本作象、如此之類皆卓卓可以訂今本之誤、并

可以補阮氏校勘記之遺云、

澠江全善又藏一本、攷字體紙質、蓋為大永享祿間鈔本、體式行款及跋文並同此本、卷首亦有東字朱記、蓋影鈔此本者、又有吉氏家藏印記、則又知其為稱意館舊物也、吉氏家藏印記、為妄人截去、然其痕仍可驗也、

又文明歷問鈔本 增島氏竹陰書屋藏

體式同前本、卷末有經注字數、每半葉九行、行十七字、界長六寸七分強、幅五寸二分、

按、以上二通取源於北宋本、卷末有經注字數、可以證也、十卷本活字板、皆以此為藍本焉、

周易九卷纂圖互註周易略例一卷明歷文龜問鈔本 求古樓藏

卷首體式亦同前本、卦畫用木印、每卷末有經注字數、略例首題纂圖互註周易略例序、但注下唯附釋音無纂圖互註、次行唐四門助教邢璣註、每半葉七行、行十五六字、注十七八字、界長七寸一分、幅五寸七分弱、卷首有良枝印、

按、此本經文與今本異者、无妄六二象不耕而穫、多

一而字與唐石經初刻合、大永鈔本、天繫辭力小而任重小作少、序卦傷於外者必反其家其作於亦、與唐石經合、物不可以終動必止之故受之以艮、各本無動必二字、釋文亦未之及、必是唐以前舊帙其注與今本異者、蒙家傳注云、若无剛決中諸本並脫若字、唯此本及大永六卷本有之、小畜家傳注、何由知其未能為雨其字諸本並脫、唯此本及大永鈔本天正鈔本有之、隨九五注履中居正諸本皆誤作履正居中、唯此本及大永鈔本與正義合、困象注唯履正而能體大者也唯字諸本無、此本及慶長鈔本有、鼎初六象注、倒趾以出否故未悖也出字諸本作寫、艮九三注至中則列夤矣夤字、此本及大永慶長鈔本並有、今本皆脫、節九五注所往有尚也所字各本皆脫、唯此本及大永本有、既濟象注、以既濟為象者、此本及大永慶長鈔本並作象、永正本誤作家、與宋本同、蓋永正本取諸宋本、而此本則取源諸宋以前舊帙也、

又元龜天正問鈔本 昌平學藏

體式同前本、但邢璣邢字作刑為異、每半葉八行、行十七字、界長七寸一分弱、幅五寸五分弱、首有江雲渭樹印、末有羅山印、知係道春先生舊藏也、

周易九卷周易略例一卷南宋葉巾箱本 昌平學藏

卷一至卷六體式並同前諸本、卷七至卷九繫辭上下說卦韓康伯注附釋音及重言重意、每卷不題經注字數、略例有注、題云周易略例序唐四門助教邢璣註、每半葉九行、行十七字、注雙行、行十八字、四周雙邊、界長三寸一分、幅二寸、左方欄邊記卦名若篇名、略例內脫末簡一葉、

按、戴埴鼠璞曰、今之刊印小冊謂巾箱本、起於南齊衡陽王鈞手寫五經置巾箱中、賀玠曰、家有墳素何須蠅頭細書、答曰檢閱既易且手寫不忘、諸王從而效之、古未有刊本、雖親王亦手自抄錄、今巾箱刊本無所不備、嘉定間從學官楊璠之奏禁毀小板、近又盛行、第挾書非備巾箱之藏也、又見邵瑛七修類藁

周易正義十四卷歷永問鈔本 求古樓藏

首載周易正義序、次周易正義卷第一、國子祭酒上護軍曲阜縣開國子臣孔穎達奉勅撰定、第二卷以下並同、但無定字經文大書、正義小字雙行、每半葉九行、行二十一字、界長六寸三分、幅四寸五分、

又弘治永祿問鈔本 求古樓藏

經文大書、正義雙行、體式一同前本、無界欄、每半葉八行、行二十一字、長七寸強、幅五寸二分、序及第一卷以他本補、八行、行十七八字、長五寸五分、幅四寸八分、

又弘治永祿問鈔本 竹陰書屋藏

現存第五至第十四凡十卷、此本正義大書與經文同、每半葉十二行、行二十字、界長五寸九分、幅四寸四分、有層格、吉篁墩近聞偶筆稱、孔穎達正義十四卷、永祿問鈔本、柴學士邦彥家藏、繫辭以下缺、增島子篤信道家亦有鈔本、余合二家本謄寫成足本、即此本也、

又元龜天正間鈔本 澀江氏容安書院藏

此本亦正義與經文同大書、孔穎達題銜二十一字在卷首、周易正義序下特與諸本異、豈寫者做每卷例移于此與、每半葉十三行、行二十字、界長六寸六分弱、幅四寸九分、每卷有江戶市野光彥藏書記朱印、光彥藏書極富、此其一也、

又元龜天正間鈔本 求古樓藏

卷首有長孫無忌等五經正義表、表後接孔序、序後接正文、正義大書、無界欄、每半葉十七行、行二十五字、長七寸六分、幅五寸八分、有白山義學及吉氏家藏、正齋藏等印記、

又元龜天正間鈔本 昌平學藏

體式一同前本、但卷首無長孫無忌等表、卷尾記大明王氏月軒謹書、天正十年壬午孟冬吉月吉日、在武州川越郡抄書也、又記云、持主修養道人永好齋永雲之、已下損壞、每半葉十一行、行二十字、界長六寸六分弱、幅五寸、卷首有江雲渭樹印記、按、王氏月軒蓋歸化明

人、聿修堂所載、宋劉信甫類要圖注本草及莊綽膏肓臉穴法亦並為月軒所書、臉穴法卷末署天正二年甲戌春三月日書月軒、書樣一與此書同、豈月軒以備書為生與、

按、以上六通並係單疏本、前二通則正義分注、後四通則正義同、經文大書、意者分注者蓋即為唐本舊式、古人情樸實、無改單行為雙行之理、且句末長有之矣等字亦絕與諸卷子古本類、其正義為大書者、蓋從北宋本鈔、其體與楓山官庫所藏尙書正義北宋本相符合、以二本相比校自當知其所謂源也、

周易注疏十三卷 南宋本 足利學藏

每冊首署上杉右京亮藤原憲忠寄進、下有花押、末錄宋人標閱年月、云、端平改元冬十二月廿三日陸子通三山寫易東臆標閱、每卷文少異、十三卷末書端平二年正月十日鏡湖嗣陸子通遵先君手標以朱點傳之時大雪始晴謹記、字體行楷、筆力遒勁、句讀及段落批點皆用朱筆、其塗抹文字則用雌黃、亦具見謹嚴、攷陸

每冊首題圭瑞叟三字、又有源輝朱印、

按、以上二通共影寫、足利學所藏北宋本者、固非南宋十行附釋音本比也、

周易新講義十卷 北宋本 昌平學藏

宋龔原深甫撰、首有進周易新講義自序、十行、行十七字、貞玄恆等字缺筆、紙質堅厚即純楮之精者、字畫遒勁墨色妍好、北宋本中尤佳者也、每半葉十一行、行二十二字、注二十六字、左右雙邊、界長五寸四分、幅三寸七分、卷首有興學亭篆字朱印、狩谷望之、云宋時物、上杉氏所藏宋

藥本史記亦有此印記、

周易傳義十卷 元本 昌平學藏 (靜節山房藏)

首題程朱二先生周易上經傳義卷之一、伊川先生程頤傳、晦庵先生朱熹本義、前有程頤序及朱子易圖、圖後有延祐甲寅孟冬翠巖精舍新刊木記、卷首有嚴瑤朱印、卷末亦有一朱印、印文、未改、四周雙邊、每半葉十一行、行二十一字、注二十五字、界長六寸七分半、幅四寸二分半、

子適乃放翁第六子、先君指放翁也、近藤守重云、三山在山陰縣鏡湖中、放翁中年卜居地、東臆翁詩中數見所謂東偏得山多者是也、蓋此本以宋葉經宋人手

校、最可貴重者矣、近聞、崇蘭館藏宋葉十行本、五六兩卷缺、詳其板式、或是建安余仁仲所刊、未詳與此本同種否、姑錄備後改、

又天文間鈔本 求古樓藏

卷十已下缺、無序及八論、首題周易注疏卷第一、次行

低二字題國子祭酒上護軍曲阜縣開國子臣孔穎達奉

勅撰、奉勅問第三行三三乾下、乾、元亨利貞、注疏並雙

行、坤卦在第一卷內、每半葉八行、行十九字、界長七

寸八分、幅五寸五分、每冊首有蟠桃院朱印、又存簽

一葉、題云洗心、經下有惠洪朱印、蓋為惠洪所手鈔、

但惜惠洪今無所考、

又弘治永祿間鈔本 昌平學藏

無序及八論、體式同前本、但坤卦在第二卷內、每半葉八行、行十九字、無界欄、長七寸一分、幅五寸五分、般匡恆胤敬貞等字並缺筆、字傍朱點古色斑然、

周易本義啓蒙翼傳上中下三篇外篇元槧本 昌平學藏

元新安前鄉貢進士胡一桂學、前有皇慶癸丑自序、卷末題男思紹校正、蓋爲胡氏原本、四周雙邊、每半葉十一行、行二十一字、界長六寸五分、幅四寸二分、有寶勝院朱印、

直音傍訓周易句解十卷元槧本 昌平學藏

元廬陵朱祖義子由撰、末題敏德書堂新刊泰定丙寅菊月印行、每半葉十二行、行二十三字、左右雙邊、界長五寸五分、幅三寸五分弱、首有玄昌朱印、

書類

尙書孔氏傳零本一卷元亨三年卷子鈔本 京師東寺觀智院藏

現存第十一卷、卷末有元亨三年九月十六日左衛門權佐長賴記、又有文曆貞應仁治建長弘安正應永仁元亨文和貞和各記、

又舊鈔卷子本 堀氏溫放堂藏

界長八寸五分、每行幅一寸強、行十四字、注雙行、字體奇古、所謂隸古文者、相紙質墨光、當是四五百年

外書本、惜僅存洪範篇末一張耳、

尙書孔氏傳十三卷舊鈔卷子本 伊勢林崎文庫藏

卷尾有正應正和記、求古樓藏摸本二卷、餘卷未見、

又舊鈔卷子本 伊勢豐宮崎文庫藏

卷末有仁平元年應保二年建保六年建長八年各記及正和三年明經得業生清原長隆記、又有貞享元年四月島原城主從四位下主殿頭源忠房奉納神庫記、

又永享三年鈔本 求古樓藏 (靜節山房藏)

每卷末有經注字數、卷末有寬喜貞永建長弘安弘長應安正嘉嘉曆永享各記、知爲永享三年賀茂朝臣在盛手鈔本也、卷八卷九末有應永廿三年賀茂朝臣在貞、以常磐井親王御本寫點記、卷首有吉氏家藏印、

又舊鈔本 求古樓藏

卷末有天正六年六月吉日秀圓題記及花押、每半葉九行、每行字數不同、

容安書院又藏零本五卷、第七第八第十一卷末有經注字數、又有天正六年秀圓記、每半葉九行、行二十字、注

雙行、界長六寸餘、幅四寸六分、

又舊鈔本 求古樓藏

每半葉八行、行二十字、行間有朱墨細書、

又林羅山手鈔本 昌平學藏

每卷末有經注字數、每半葉九行、行二十字、界長六寸九分強、幅五寸五分強、卷末記慶長八年秋七月以清家祕本寫墨點者也信勝、又有林恕跋、稱書傳三冊爲顯考文敏先生從清家本所贖、孫愨十二時先生親附此本以授句讀、又稱先生壯歲官事無暇、子姪輩無親受句讀者、愨幸逮其告老日、故先既受毛詩、後又得賜周易、禮記左氏傳舊本云云、未署寬文丙午仲夏二十五糞之夜、弘文學士院林爺識、所稱周易毛詩舊鈔本今亦現存昌平學、而禮記左傳未之見此可惜也、

又舊鈔零本 求古樓藏

現存第一第二兩卷、卷末有經注字數、又有元應二年觀智記、及應永卅四年沙門孝憲記、每半葉六行、行十

六字、無界欄、長九寸、幅七寸四分弱、

又舊鈔零本 求古樓藏

現存第一第二兩卷、每半葉九行、行二十字、

尙書正義二十卷北宋槧本 楓山官庫藏

首有端拱元年三月日臣秦爽等上表、後題軒轅節胡令問解貞吉胡迪解損李覺袁逢吉孔維八人銜名、又有永徽四年二月二十四日、太尉揚州都督上柱國趙國公臣無忌等上表、及尙書正義序、卷端題尙書正義卷第一、次行署國子祭酒上護軍曲阜縣開國子臣孔穎達奉勅撰、國上空四字、玄胤讓敬弘等字缺筆、每半版十五行、行二十四字、左右雙邊、界長七寸六分、幅五寸六分、卷中間有朱墨古點、卷三末書嘉元二年暮春廿五朝約句讀了圓種、有金澤文庫印、又有歸源墨印、按、寬政丙辰歲樸憲先生得此書宋粟零本獻之、官併搜索餘卷所在以聞、遂成全帙、卽此本也、

尙書注疏二十卷宋槧本 足利學藏

前有端拱元年孔維等上表、永徽四年無忌等上五經

正義表、及孔穎達尙書正義序、卷首題尙書正義卷第一國子祭酒上護軍曲阜縣開國子臣孔穎達等奉勅撰、二卷以下題云、尙書注疏卷第幾、卷末記六經疏義自京監蜀本皆省正文及注、又篇章散亂、覽者病焉、本司舊刊易書周禮正經注疏、萃見一書便於披釋、它經獨闕、紹熙辛亥仲冬唐備員司庾遂取毛詩禮記疏義、如前三經編彙、精加讎正、用鈐諸木、庶廣前人之所未備、乃若春秋一經顧力未暇、姑以貽同志云、壬子秋八月三山黃唐謹識、每半版八行、行十七八字、注雙行十九字、界長七寸一分、幅五寸四分、卷首有松竹清風印記、欄外有此書不許出學校闌外憲實花押、及足利學校公用數字、又行間題上杉安房守藤原憲實寄進、俱係憲實真蹟、

書集傳六卷 元槧麻沙本 昌平學藏

首載書序題晦庵先生訂定門人蔡沈集傳、每半版十一字、次有慶元己未武夷蔡沈序、十一行、行文公親帖、陳淳安卿記文公語、十一行、行臣抗議語、低頭、瘦序、行款字八行、書序、與本

文、卷端題書卷第一晦庵先生訂定、門人蔡沈集傳、每半版十一行、行二十四字、注雙行、界長七寸或六寸八九分、幅四寸二三分、蔡_(沈)序後有麻沙劉氏南澗書堂新刊木記、冊皮裏面有義俊印、卷末有願蓮社仰譽二印、

書集傳音釋六卷 元槧本 寶素堂藏

五六兩卷缺、無序及跋文、每卷首題書卷第幾、蔡氏集傳鄱陽鄒季友音釋、每半版十二行、行二十二字、注雙行、界長六寸三分、幅四寸四分弱、每卷首有仁和寺真光院及真光院二印、昌平學有足本正與此本同、

書集傳纂疏六卷 元槧本 昌平學藏

首有嘉定己巳武夷蔡沈序、每半版九行、泰定四年陳櫟序、十行、行十八字、次有讀尙書綱領、十一行、行纂疏凡例、八行、行二書序、行款與、卷首題書卷第一朱子訂定、蔡氏集傳、後學新安陳櫟纂疏、每半版十一行、行二十一字、注雙行、界長六寸八分弱、幅四寸三分弱、四

周雙邊、蔡序後有泰定丁卯陽月梅溪書院新刊木記、書蔡傳旁通六卷 元槧本 昌平學藏

首有至治元年陳師凱序、每半版十一行、行二十字、及引用書目、隱字審音、卷端題書蔡傳旁通卷之一上、後學東匯澤陳師凱撰、後學豫章朱萬初校正、每半版十三行、行二十五字、界長六寸五分、幅四寸四分、左右雙邊、

尙書通考十卷 元槧本 昌平學藏

首有至正丁亥建安雷機子樞父序、行書七行、天曆三年黃鎮成敘意及目錄、卷端題尙書通考卷之一昭武存齋黃鎮成元鎮父編輯、每半版十二行、行二十字、界長六寸四分、幅四寸二分、

詩類

毛詩二十卷 舊鈔單經本 求古樓藏

卷首周南關雎詁訓傳第一、下題金陵余謙音考、有鹿苑寺及水本墨印、或云鹿苑寺僧水本所書、桂林漫錄以爲醍醐水本院非是、此本背以故紙、中有詩稿、書法撫趙文敏遒勁可賞、

毛詩鄭氏箋二十卷 舊鈔卷子本 京師押小路大外記藏

未見、

又舊鈔本 足利學藏

係慶長以前書、本每冊末記下野州足利學校常住洛之相國卜隱軒主心甫傳西堂寄附、慶長二十稔乙卯上已後二日董席鐵子叟塞松野釋龍派禪珠誌、足利學又藏舊鈔本一通、未見、

又舊鈔本 求古樓藏

卷首題毛詩卷第一、次行周南關雎詁訓傳第一、毛詩國風鄭氏箋、第十卷末有經注字數、第二十卷末有篇數章數句數字數、每半葉九行、行二十字、界長六寸強、幅四寸六分、每紙有層格、格內抄音義及正義、卷尾記四國與州宇和之庄_(莊)多田長壽寺宗訓書之、卷首有龍口碧口二印、

又舊鈔本 成島氏藏

第一卷首行毛詩卷第一、次行周南關雎詁訓傳第一、第三行毛詩國風鄭氏箋、每半葉五行、行十四字、無

界欄、卷首有吉氏家藏印、第三卷以下每卷末記鈔校歲月、第二十卷後有識語、更詳稱其從先李部英房傳本鈔^制於延文二年丁酉畢於四年己亥、點校精密字畫具存遒勁蕭散之致、卷中往往有背記、蓋從卷子本鈔、其間文字異構、與六朝隋唐間碑帖合、知其所從來者遠矣、

又舊鈔本 昌平學藏

體式一同前本、第二十卷末有經注字數、末又有寬文丙午弘文學士院林恕跋、稱、此本為顯考文敏先生讀本舊帙、又稱、先生謂余云、頃歲學者徒信宋儒而輕視漢儒、肆談義理而濶略訓詁得無躐等之弊乎、宜先講舊說後窺朱傳、則訓詁義理兼通云云、觀此亦可見先生雖以宋學名家而始未嘗廢漢注也、此本無界欄、長七寸三分、幅五寸三分、每半葉七行、行十六字、卷首有江雲渭樹不免亭及林氏藏書朱印、

又舊鈔本 求古樓藏

巾箱本、每半葉八行、行二十字、缺第三第四第十三

第十四凡四卷、

又舊鈔零本 求古樓藏

現存第三第四第五第六第十五第十六第十九第二十凡八卷、卷末記經注字數、又有學侶之時於足利書記、每半葉九行、行二十字、注雙行、界長六寸一分、幅五寸餘、

又舊板本 求古樓藏

不記刻梓歲月、板式似世稱五山板者、活字本恐原于此本、

纂圖互註毛詩二十卷應永三十年鈔本 伊勢林崎文庫藏

體式一同前諸本、但卷首題目冠纂圖互註四字、二十卷末記篇數章數句數字數、又題于時應永三十年九月廿七日、按此本為京師人村井古巖所寄附、文化中市野光彥校閱一過、記異同于其藏本、詳載重言重意文、其本現存容安書院云、

毛詩正義零本口卷舊鈔本 求古樓藏

未見、

毛詩注疏零本八卷舊鈔本 求古樓藏

原二十卷、今存卷一上卷四上下卷五卷六上下卷十二上下凡五冊、有多福文庫朱印、此本係影寫宋本、其體裁正與足利學所藏宋本易書禮記注疏符、山井鼎作七經考文曰、未得此種本、故於詩春秋唯以南宋附釋音本校之耳、則此本雖曰殘缺亦最可貴珍也、

附釋音毛詩注疏二十卷南宋本 昌平學藏

首載毛詩正義序、^{屬明代補刊}次有詩譜序、序後有劉氏文府叔剛桂軒式經堂記、卷端首行題附釋音毛詩注疏卷第一、次行毛詩國風鄭氏箋孔穎達疏、每半葉十行、行十八字、注雙行、界長六寸二分、幅四寸二分、左右雙邊、烏絲外標題、

詩集傳音釋二十卷元槧本 昌平學藏

卷首題詩卷第一、次行朱子集傳東陽許謙音釋、每半葉十三行、行二十三字、四周雙邊、不記梓行年月、攷字體恐是至正間刊本、

詩集傳通釋二十卷元槧本 昌平學藏

卷端首行題詩卷第一、次行朱子集傳、第三行後學安

成劉瑾通釋一、卷末有至正壬辰仲春日新書堂刻梓木記、卷首有備前州豐原縣靈松山瑞雲寺常住記、

呂氏家塾讀詩記三十二卷宋槧本 昌平學藏

宋呂祖謙撰、首有目錄、每半板十二行、行二十二字、界長六寸一分強、幅四寸一分、有普門院良岳院二朱印、按、愛日精廬藏書志亦載宋板殘本云、每頁二十四行、行二十二字、朱子序抄補豈即此本與、

詩童子問十卷元槧本 崇蘭館藏

宋輔廣撰、首有至正癸未會稽胡一中序、卷末有感淳七年嗣孫之望跋、又有崇化余志安刻于勤有堂記、及至正甲申上元印記、卷首有善慧軒印、

韓詩外傳十卷朝鮮國刊本 求古樓藏

每卷題詩外傳無韓字、首載至正十五年曲江錢惟善序、序後有吳郡沈辨之野竹齋校雕記、在亞字形內、蓋依元板重雕者、此本校之毛晉本小有異同、按、漢魏叢書本脫落一板^計、他誤謬亦夥、當以此本校訂矣、

禮類

儀禮十七卷宋槧單經本 昌平學藏

首有儀禮篇目、每半葉十行、行二十字、界長六寸、幅四寸、左右雙邊、板心有雕工名氏、中多有明人補刊、依板式攷之、疑與儀禮圖同刊者、

又明正德重修元刊本 伊佐氏藏

每半板十行、行二十字、此本與儀禮圖合刻者、

儀禮鄭氏注十七卷明正德辛巳陳鳳梧刊本 求古樓藏

首有廬陵陳鳳梧序、此本比校之今注疏本極有異同、蓋絕佳之本也、

儀禮疏零本口卷舊鈔卷子本 京師東寺觀智院藏

文章生英房書本、未見、

儀禮注疏十七卷明汪文盛高澂傳汝舟刊本 寶素堂藏

每卷首題漢鄭玄注、唐賈公彥疏、明汪文盛高澂傳汝舟編校、每半板十行、行二十字、注文雙行、

按、清張敦仁校刻此書、參稽唐石經、宋景德官本、嚴州刊本、明嘉靖本合而編之、据景德本分爲五十卷、

以後賈氏之舊、校訂詳密、真可依據耳、

儀禮圖十七卷宋槧本 昌平學藏

宋楊復撰、首載晦庵朱文公乞修三禮奏簡、次紹定戊子楊復自序、序後有陳普序陳序每行上三字、行書、及目錄、每半板十行、行二十一字、界長六寸、幅四寸、明代補刊亦甚多、補刊板心上方有校正名氏、下方有刻工名氏、

又明正德重修元刊本 伊佐氏藏

卷端有朱文公乞修三禮奏簡及楊陳二序、每半板十行、行二十字、卷首有必端堂圖書記及八分十勿記、知爲烏洪卿舊藏、未附旁通圖一卷、

又朝鮮國刊本 求古樓藏

嘉靖十五年國子祭酒呂柟序、次漢泐童承敍序、

右儀禮

周禮鄭氏注零本一卷舊鈔卷子本 求古樓藏

現存考工記夾其陰陽以設其比已下至五采之侯則遠國屬凡七十二行、界長六寸五分、幅八分、每行十四五字、注雙行、行十八九字、此本用潢紙鈔寫、其塗抹

文字則用雌黃、攷紙質墨光當是八九百年外書、本背記承和三年延喜十八年請追贈諡號于空海狀、末有教隆之三字、

周禮鄭氏注十二卷宋槧巾箱本 足利學藏

此本附音重言重意、每半板九行、行十七字或十五六字、注雙行、行十八字、左右雙邊、界長三寸一分、幅二寸、烏絲外標題、乃與昌平學所藏周易禮記同種板式正符、首題萬秀山正宗寺公用、尾題正宗寺書院、欄上記下野州足利庄學校常住文安六年己巳六月晦洛陽僧砒愚置之、据此當推知其所傳來矣、

又舊鈔本 求古樓藏

此本附釋音、卷一尾共有相臺岳氏刻梓荆谿家塾記、在亞字形內、知依岳珂本傳鈔者、卷首有吉氏家藏印、

纂圖互註周禮十二卷朝鮮國活字刊本 楓山官庫藏

未見、

附釋音周禮注疏四十二卷南宋槧本、(自イア)卷一至七缺卷

昌平學藏

每卷首題附釋音周禮注疏卷第幾、次行中央鄭氏註、下方賈公彥疏、每半板十行、每行經十七字、注疏並雙行二十三字、每注末爲方圍大書疏字、以界注文、每疏首冠釋曰二字、左右雙邊、烏絲外標記篇名、界長六寸六分、幅四寸、板式一與毛詩注疏同、阮元校勘記所謂十行本者卽此、

右周禮

禮記鄭氏注二十卷舊鈔本 新見氏賜廬文庫藏

每卷末記經注字數、此傳鈔清原賴業書本者、末有清氏奕世校讀題記、

按、京師吉田氏臣鈴鹿某又藏清原秀賢手校本、及足利學所藏舊鈔本、係九華叟遺物、俱未見、

求古樓又藏舊鈔粘葉零片一張、無界欄、每半葉五行、行十二字、注字數不定、長六寸六七分、幅四寸、首行題曲禮上第一、中央禮記、下方鄭氏注、蓋亦唐本之遺、雖寥寥零片固爲可貴重也、

又舊鈔本 求古樓藏

每半葉九行、字數不定、裱背有法雲寺題記、又活字刊本

世傳活字本凡二通、俱卷末不記經注字數、求古樓所藏係慶長五年校點本、第一卷首有養和嘉祿文永建治各記、

又宋槧巾箱本 昌平學藏

每卷首行題禮記卷第幾、次行篇名、第三行上方禮記、下方鄭氏注、注後係以釋音及重言重意、與足利學所藏周禮注、及本學所藏周易注同種、則行款字數板式正符、卷首有黃雪園印、係仁正侯市橋長昭舊藏、

求古樓又藏一本、題曰京本點校附音重言重意互註禮記、亦為南宋槧巾箱本一種、惜僅存第六一卷、蓋亦据前本稍大板式、改題目者、每半板口行、行二十字、界長四寸三分、幅口寸四分、四周雙邊、

禮記正義零本口卷舊鈔本 桐山元仲藏 未見、

禮記注疏六十三卷宋槧本 足利學藏

紹熙壬子刊本、卷末有三山黃唐刊行跋文、卷首有松竹清風印、係上杉憲實所置、卷三十三至卷四十缺逸、豐後僧一華以附釋音本鈔補此本、昌平學有傳鈔本、

禮記集說十六卷元槧本 求古樓藏

每半葉十一行、行二十一字、界長六寸八分、幅四寸一分、四周雙邊、卷一末有天曆戊辰建安鄭明德宅新刊木記、聞足利學又藏元槧本、卷末有延德二年記、不知與此同種否、

又應永十一年鈔本 有缺 容安書院藏

每半葉十一行、行二十一字、無界欄、長六寸、幅四寸三分、卷末記於足利庄今福鄉書應永十一年季陽二句九日誌、

右禮記

禮書零本三卷宋槧本 寶素堂藏

原百五十卷、現存序目一二三三卷、首有進禮書表并

敍、建中靖國元年筭子目錄、首署左宣義郎太常博士臣陳祥道上進、每卷首載子目、每半板十三行、行二十一字、板心記大小字數、此本板頗刳缺、中多有明代補刊、板式一與昌平學所藏樂書同、惜所存不多耳、卷端有吳門王氏之章印、

儀禮經傳通解零本一卷宋槧本 昌平學藏

宋朱熹撰、原二十三卷、今存第十七、中庸一篇注與今章句全同、但首章注為小異、蓋未定本也、此本款格寬裕、字殆錢大、每半板七行、行十五字、界長六寸三分、幅四寸六分、左右雙邊、字畫端勁頗有歐柳筆意、慎樹等字闕筆、板心上方草書記大小字數、下方有刻工名氏、鐫手精良、紙墨共佳、信為宋槧中最清絕者、中間有後人補刊、此條書目共、

右通禮

安政四丁巳初夏十五日校比一過卒終

棧庭石士約之

經籍訪古志卷第一終

經籍訪古志卷第二

經部下

春秋類

春秋經傳集解三十卷舊鈔卷子本 楓山官庫藏

澤文庫內有左傳卷本三十卷、有中
原師光跋、見人見卜幽東見記、

首有春秋左氏傳序、每卷首題春秋經傳集解某公第幾、杜氏盡幾年、其體例一與釋文所載合、界長七寸一分、幅一寸、張別十六行、每行經十四五六字、注雙行、行二十一二字、字體雅古、點校詳密、朱墨爛然、卷末有建長中越後守實時、參河守教隆、文永中清原俊隆、正嘉中清原直隆、弘安中左近衛將監顯時跋、皆係親筆題署、又有延久保延仁平久壽應保長寬嘉應治承養和壽永元曆建保承久延應各記、三十卷末有應永十六年八月一覽了跋、每卷捺金澤文庫印、又舊鈔卷子零本 石山寺藏

現存一卷、傳云李唐人所書、未見、

又舊鈔卷子零本 押小路大外記家藏

現存一卷、係清原賴業手鈔、未見、

又舊鈔卷子零本 崇蘭館藏

現存桓公第二、莊公第三兩卷、第二卷首題春秋經傳集解桓公第二、次行署杜氏盡十八年、無界欄、每行十七字、長六寸六七分、兩卷末並題云、云寶壽院^{贈三賢、法名常宗、}御自點本加朱墨訖、侍從三位入道清原朝臣、有花押、^{俗名宣賢、法名宗心、號環翠軒、}

按、以上三通俱零殘不全、而官庫所儲獨爲足本、眞爲絕無僅有之珍函也、凡皇國舊鈔裝成卷軸者皆李唐遺本、竹帛之餘馨僅存于今日者、其爲可貴重亦固非南北宋槧比也、

又舊板覆宋大字本

體式同前本、每半板八行、行十七字、注雙行、界長七寸、幅五寸、左右雙邊、致此本蓋依蜀大字本重刊者、與李鵠本爾雅同種、其刻當在應永已前也、求古樓所

藏本卷尾有文安年記、亦可以推知其刻時矣、活板諸本以此爲藍本也、

又宋淳熙丙申刊本 賜齋文庫藏

體式亦同前本、但以釋文附入、前有釋文序、春秋圖、地理圖、春秋諸侯世子表、歷代世系表、春秋名號、歸一圖二卷、卷尾有木記、云、謹依監本寫作大字附以釋文、三復校正刊行如履通衢了亡窒礙處誠可嘉矣、兼列圖表于卷首、迹夫唐虞三代之本末源流、雖千歲之久豁然如一日矣、其明經之指南歟、以是衍傳願垂清鑑、淳熙柔兆涒灘中夏初吉閩山阮仲猷種德堂刊、每半板十行、行十八字、注雙行、行二十二字、界長五寸一分、幅三寸五分、左右雙邊、青歸書屋所藏明刊本即覆刻此本者、卷末木記亦全同、但淳熙以下十九字、改作□□丙戌孟冬之吉書林宗文堂樂齋鄭希善刊已、

又宋嘉定癸酉刊本 足利學藏

卷末有嘉定六年閏月上澣三衢江公亮跋、首有足利

學校正傳院常住記、求古樓藏舊鈔本、乃依此本重鈔者、

又宋嘉定丙子刊本 楓山官庫藏

嘉定丙子與國軍學刊本、文字鮮明、紙質堅固、實宋刻之佳者、每卷首有淡海鶴鷗氏之後印、卷三首有牀頭一壺酒能更幾回、建芳馨兮廡門二印、卷末有文炳珍藏子孫永保印、首有井口氏圖書印、此本係毛利高翰舊藏、

又明嘉靖間刊本 (靜節山房藏)

即覆刻宋岳珂本者、注末附釋音、每半板八行、行十七字、注雙行、界長六寸五分、幅四寸二分、四周雙邊、烏絲外標題、

春秋正義三十六卷影舊鈔本 求古樓藏

首有上五經正義表及春秋正義序、本文首題春秋正義卷第一、國子祭酒上護軍曲阜縣開國子臣孔穎達等奉勅撰、每半葉十五行、行二十五字、每卷末書字數、原本爲常陸國久慈郡增井村萬秀山正住寺所藏、

此係近藤正齋所借鈔、每卷有正齋藏印、又有水府儒員小澤章跋、稱、原本係天文中鈔本、第十五卷有金澤文庫記、又稱、別有集解十五本、豈孔氏所據集解舊本歟、惜未見、

附釋音春秋左傳注疏六十卷宋槧本 足利學藏

宋建安劉叔剛父錢梓、本學所藏毛詩注疏亦與此同種、

音注全文春秋括例始末左傳句讀直解七十卷 宣德六年朝鮮國刊本

宋林堯叟撰、每卷首題梅谿林堯叟唐翁、每半板十二行、行二十三字、界長四寸八分、幅三寸四分強、四周單邊、烏絲外標題、末有宣德六年辛亥五月日都事金致明跋、致板式疑覆刻元板者、

又朝鮮國大字刊本

體式一與前本同、每半板八行、行十七字、春秋集傳釋義大成十二卷元槧本 求古樓藏
泰定丁卯吳徵序、序後有臨川吳徵、及白青父印記、凡

例後筐中有至元後戊寅日新堂棊行十字、讀書敏求記所載蓋此本也、每半板十行、行二十字、注二十七字、界長六寸六分、幅四寸七分、四周雙邊、烏絲外標題、每卷有官庫及佐野氏珍藏印、

春秋公羊傳十二卷舊鈔本 尾府藏

何休注、第三卷缺、此係金澤文庫舊物、按、羅山文集載金澤學本公羊傳正義、蓋亦與此本並行者、

春秋公羊傳注疏二十八卷元槧本 求古樓藏

元大定四年刻十三經之一、明正德補刊、所謂十行本者、此係晉漢官舊藏、後歸求古樓、昌平學所藏亦與此同種、但較此本補刊轉多、

春秋穀梁傳十二卷宋槧本 阿波侯藏

晉范寧集解、每半板十一行、行十八九字、注雙行二十七字、每章附音義、每卷末有經傳注及音義字數、又記仁仲比校訖、余仁仲刊于家塾、第十二卷末記國學進士余仁仲校正、國學進士劉子庚陳幾張甫同校、奉議郎簽書武安軍節度判官廳公事陳應行參校、癸

丑仲秋重校訖、又有紹熙辛亥孟冬朔日建安余仁仲跋、序後及卷尾有余氏萬卷堂藏書記、卷端捺金澤文庫印、此本係柴學士邦彥舊藏、往年狩谷望之與松崎明復謀、就阿波國學俾一書生影鈔、毫髮盡肖宛然如宋槧、今猶藏在求古樓、攷清楊州汪氏重刊宋本公羊傳亦仁仲所校刊、與此同種、

春秋胡氏傳三十卷朝鮮國刊本

首有春秋胡氏傳序及諸國輿廢說、每卷首題春秋胡氏傳卷之幾、下夾書附林堯叟音註括例始末、每半板□行、行十九字、界長七寸八分、幅□寸□分、

春秋胡氏傳附錄纂疏三十卷元槧本

首有至元戊寅汪澤民序、先儒格言、凡例、引用諸儒姓氏書目、至正元年虞集序、及春秋胡氏傳序、胡氏春秋總論、每卷首題春秋卷第幾、次行胡氏傳後學新安汪克寬附錄纂疏、每半板□行、行二十一字、注雙行、先儒格言首有新安汪氏、啓淑信印、唐寅私印三印、補註約之按、新安汪啓淑、叔者飛鴻堂印譜之作者引用書目首有孫愛、錢孺館

讀書記二印、

國語二十一卷清刊宋天聖明道間本

嘉慶五年吳門黃丕烈影刻、末附札記一卷、

又元龜天正間鈔本 容安書院藏

卷首有吉氏家藏印、每半葉十行、行二十字、無界欄、長七寸、幅六寸、卷末有光彥及林下一人印記、乃係市野光彥舊物、

又明嘉靖刊本 求古樓藏

卷首有嘉靖五年蘭谿漁石子唐龍序、又有東萊趙仲序、云海內梓行無慮數十餘種、然字苦音腹簡脫句斷、學者讀之恆病焉、侍御郭公雨山風紀于斯究心遂古、一日諭之予曰、八國之語裨益六經一時爭相崇尚、蓋刻之以傳乃出諸善本式焉、予遂請之提學、漁石唐公曰、吾方有事于斯不可也已、于是檄華州吳學正嘉祥、韓城縣魏教諭琦枕、于正學書院默聽覃力逾三月而始校成云云、此本附宋庠補音三卷、

孝經類

古文孝經一卷舊鈔單經本 懷仙樓藏

首古文孝經序、序後本文題云古文孝經孔氏傳開宗明義章第一、下夾注百二十四字、每半葉七行、行十六字、無界欄、文字或用隸古文、每章下有經注字數、卷末有慶五云云記、漫漶不可讀、慶五蓋謂慶長五年也、又有周筮赭色方印、關白壽如南山福如東海圓印、傳云圓印為豐太閣手印、未詳然否、

又舊鈔單經本 足利學藏

寒松師遺物、有睦子印記、

孝經孔氏傳一卷弘安二年鈔卷子本 福山城主(阿部氏イナリ)藏

首存孔序二行、次孝經孔氏傳、次開宗明義章第一、卷末空一行書孝經一卷、次空二行署弘安二年九月十三日書寫之畢、有花押、每章下有經文字數、界長八寸一分至八寸三分、每行經十四字、注十八字至二十二字、文政癸未年福山侯覆刻以行于世、卷末有侯手跋云、此書梁末亡逸而顯於隋、故隋唐諸儒多疑此傳假託、然隋代至盛唐此傳與鄭注並著令式、皇

國先王亦著之大寶學令、貞觀中有詔立玄宗注、然此傳仍不為所廢、享保中清商來長碕者訪求以歸、鮑廷博雕梓之、而盧文弨序之、引用唐代諸書以證其為隋代舊本、四庫全書總目乃以為宋元已後、所影附之書固屬臆斷、殆由未見正本歟、林祭酒述齋先生悲正本湮滅、以弘安鈔本活字刷印、弘安鈔本近日歸余插架、紙質精堅筆蹟沈澹、裝成卷子、實為五百年前之舊本、於是影摸以刻於家、原本序文僅存二行、今以元亨中清原良枝本補繕之、以做百衲史記之釁耳、

又正安四年鈔卷子本 京師三角某藏

正安四年直學士清原政秀書、本未見、

又舊鈔卷子本 高野山藏

四五百年外舊鈔、字體奇古、多與弘安本符而小異、

又元德二年鈔卷子本 粟田青蓮院藏

首古文孝經序、序後本文題孝經孔氏傳開宗明義章第一、下小書一百廿四字、卷末記云、元德二年五月二日書寫畢良賢花押、同十四日朱點、又有永久四

年、寬治三年朝散大夫江通景、及保安八年、仁平元年、弘安二年散位藤原忠長、保延二年東市正清原賴清、保延四年賴業等記、每章下有經文字數、界長七寸三分半、幅一寸、每行十三字、此本字體奇古、亦多與弘安本同、界上記述議文、

又元亨元年鈔卷子本 古筆了伴藏

此本比前本則字體稍劣、首題古文孝經序孔安國、末題元亨元年十一月廿一日以家祕說奉授式部大夫殿畢散位清原良枝、界長七寸三分五釐、幅四分、每行十三字、

又舊鈔卷子本 崇蘭館藏

首題古文孝經序孔安國傳、序後本文題古文孝經孔氏傳、卷末有文明五年九月金剛佛子守惠記、按、此本標古文二字、則與弘安本別自異源、要之不能出弘安本之右也、

又舊鈔本 求古樓藏

每半葉十行、行十七字、注文大書一字低書、卷末有

建保七年、曆應二年記及貞和二年桑門雙明跋、按、求古樓又藏舊鈔本三通、一大字本、每半葉七行、一簽上有稱意館印者、每半葉六行、一有宋恕朱印者、每半葉九行、行二俱不記鈔寫年月、

古文孝經孔序直解一卷舊鈔本 求古樓藏

首題孝經直解卷第一、次行題古文孝經序、所謂直解者、皆就孔序為注、每半葉九行、行二十字、注雙行、卷末有勝貞墨書、勝直朱書、四字、

求古樓又藏舊鈔二通、亦皆注孔序者、題云魏劉炫、魏字為隋、誤無論已、但劉炫作述義五卷、見隋志無直解之目、他書亦絕無所攷、姑俟後考、

御注孝經一卷 李唐人草書本 京師陽明家藏

卷末記建隆二年冬十月重粘裝賀監墨蹟、

又享祿辛卯內府實隆公手書卷子本

首題御注孝經序、次行署左散騎常侍軍麗正殿循國史柱國武強縣開國公臣元行冲奉勅撰、序後本文題云孝經御注、次行平頭題開宗明義章第一、卷末間一

行題御注孝經、界長七寸六分、幅九分、每行十四五字、注雙行十五字至十七字、卷尾有文明十八年桑門祥空跋、稱、後小松帝御讀時、其高祖後押小路內府公忠、所奉進之本、後傳至其先考後三條入道左府、禪空、又有享祿辛卯苾芻堯空跋、稱從龍翔院右府本抄、則知此本為逍遙院內府實隆公真蹟、寬政中屋代弘賢摸刻以傳世、弘賢跋曰、御注之成在開元十年、而石臺之經奏於天寶之初、相距二十餘歲、試取石臺之本校之、正義以為舊注者咸合、而石臺改竄之迹昭然明矣、邢昺序乃謂天寶二年注成頒行天下、蓋似不知有舊注者矣、惜未見元疏原本、雖然今之正義多存元疏之舊、若感應章長幼順故上下治疏與注不合、今見此本益知今疏全用元疏而不改作也、辨亦甚詳、按、京師清岡氏所藏有承久三年清原宣景本、元行冲序、前半第九章末至第十六章末及卷尾並缺、開元初注本西土無傳、天下特存此二本而已、不亦奇乎、

又北宋槧本 求古樓藏

卷首題孝經序、次行上空四字、題御製序并注、序後上空四字、題開宗明義章第一、卷末間一行題御注孝經一、卷後間一行載孝經音略、每半板十五行、行二十三字至二十四五字、界長六寸九分、幅五寸、左右雙邊、卷首有脩竹陰印、文政九年狩谷望之翻雕以行于世、望之跋曰、是本敬匡胤恆竟炫通七字闕肇、按、敬宋翼祖諱、匡胤太祖諱、恆真宗諱、竟翼祖嫌名、炫太祖嫌名、太祖諱、通、係章獻明肅皇太后家諱、太后劉氏、天聖元年臨朝稱制、令天下皆避父諱、明道二年太后崩復舊、又稱、貞觀二年十月制立玄宗注於學官教授充試、自是以來 天皇 太子御讀孝經必奉授玄宗注、而舊無刻本、近時源弘賢摹刻逍遙內府本開元御注、「是本」西土失傳、足稱最奇、然天寶四載九月以重注本刻石於大學、則今日授業理宜用天寶重定本、而世猶未有刻本、嚮有依開元本增益改竄、以天寶本刻于京師者不知校書之法亦甚矣、所幸篋衍中有北宋天聖明道間刻本、精意摹雕以公世、伏冀家藏日誦、欽遵天平寶字詔天下之聖意、

恭奉貞觀立御注之明制云、

四書類

論語十卷 天文癸巳阿佐井野刊單經本〔靜節山房藏〕

卷末有天文癸巳金紫光祿大夫拾遺清原宣賢朝臣跋、

又舊鈔單經本 足利學藏

冊上題魯論二字、未見、

又舊鈔單經本 京師錦小路家藏

未見、

又天正四年鈔單經本 容安書院藏

卷後有天正四年寫附與松木善五郎記、未詳出何人、又清氏點本

吉漢官云、賢賢易色一章與兼好徒然草所載讀法正同、足見昔時明經讀法、

論語集解十卷 舊鈔卷子本 梅尾高山寺藏

卷末有弘安十年俞仁子良念跋、及僧正持圓跋、第四卷末有寬元元年大學權助中原師有跋、安貞二年德

治二年各記、第八卷末亦有寬元元年大學權助中原師有跋、及安貞二年嘉元元年各記、

按、此本蓋係安貞二年鈔、而寬元元年中原師有又加校正、弘安十年寄之高山蘭若、德治二年又復加點校也、但據嘉元元年跋亦似是本全部為嘉元中所鈔、否則第八一卷為嘉元補鈔、記質博雅、

又舊鈔卷子本 津侯〔藤堂氏イア〕藏

首題論語序、序後論語學而第一何晏集解凡十六章、每卷末記經注字數、界長七寸四分、幅一寸弱、上層及行間細字標記、依疏釋文校勘異同、第三卷末有手自書寫畢字樣既得其正子孫可寶之丞相記、卷尾有極樂院主順乘記、及貞和二年釋深尊記、按、此本傳為菅相手書、今審其筆蹟絕不似菅公書法、三卷末記丞相二字、當後人妄添者矣、

又舊鈔卷子本 高野山藏

未見、

又舊鈔卷子改摺本 某氏藏

體式一與前本同、界長七寸二分、幅九分、每行十四字、此本末卷與首卷書法自別、蓋後來補鈔者、末記觀應元年五月廿二日非夫人之為書而誰為書、柳下惠則可、吾則不可、本住院權律師豪俊書、按、此本卷首至雅也、體式一與諸卷子古本同、實為六朝舊本轉傳之真、而述而以下蓋從宋時改竄本補鈔者、注中所引諸說、但記其姓不及名、句末也乎矣已等字大半刪去、是其證也、

又應永九年鈔卷子改摺本 求古樓藏

每行十七字、卷首有左中將藤宗重記、卷末有應永九年八月廿二日天台住侶兼英記、及醫王丸題名、每卷末有鹽穴寺印、鹽穴寺在泉州堺新在家町、出泉州志、和名鈔云、和泉國大鳥郡鹽穴之保乃阿奈是也、今呼為之波奈、

又正平甲辰刊本〔靜節山房藏〕

跋云、堺浦道祐居士重新命工鏤梓正平甲辰五月吉日謹誌、攷道祐者足利左馬頭義氏朝臣第四子、名祐、

氏幼哭父、隨母居泉州大烏、後歸釋氏改名道祐、爲
堺浦西本願寺別院祖、事見泉州志、又有影刻此本
者、跋云、學古神德楷法日下逸人貫書、此本藏在屋代
弘賢所、又有一本刪去正平跋文者、版今尙藏在日本
橋書肆千鍾房、又有明應板本、亦摸刻此本者、刪去
正平跋文、換以明應己未西周平武道敬重刊記、

又嘉曆三年鈔本 楓山官庫藏

嘉曆二年釋禪澄在加州白山八幡院玉泉坊所鈔識語
散見各卷、又有仁治弘長正安延慶間明經博士清原
氏舊跋、知取原于清氏傳本、第九卷末記嘉曆三年九
月十八日於燈下亥刻書之畢、筆者禪澄押字、同夜與
宵莫加朱點了、此編爲研幼童之愚眼先挑五常之燈、
寄庄老之教誨令滯釋門之規矩矣、

又大永甲申鈔本 求古樓藏

卷首有大永甲申記、此本合釘爲三冊、上一冊缺、以
別本補之、吉漢官考異稱爲大永本是也、原係藤貞幹
舊物、每冊有左京藤原貞幹藏書之印、貞幹歿後歸求

古樓、

又舊鈔本 容安書院藏

每半葉八行、行十五字、注雙行二十字或二十一字、
界長七寸二三分、幅五寸一分、經注異同多與正平本
合、市野光彥所謂六朝遺本蓋亦是類、

又天文二十一年鈔本 求古樓藏

每半葉八行、行十八字、合釘五冊、內缺一冊、卷尾有
天文廿一年小澤忠圓記、冊皮有宥鏡題名、

又舊鈔本 求古樓藏

每半葉五行、行十四字、字傍朱點斑然并詳記反切、
卷末題稱右清氏點本、雪庵道白寫、三十郎盛政、有
花押、

求古樓又藏舊鈔七通、一冊皮有宥俊題名、每半葉十一
行、行二十
字、一冊皮有俊仁題名、九行、行二
十一字、一冊皮題魯論有盜嚴
院、及有辨題署、八行、每行
字數不定、一有外格無界欄者、六行、行
末有水享三年題署、一卷首無序、冊皮裏、有恕通墨印、
蓋係淺人妄補、一冊皮題元清房俊仁、八行、行
九行、行
二十字、一冊皮題元清房俊仁、八行、行
十七字、一冊皮有一寸明

珠題字并列書篇名、行界上有雙欄者、八行、行
十五字、俱不記
鈔寫時月、

論語義疏十卷舊鈔本 求古樓藏

梁國子助教吳郡皇侃撰、此書今有刻本、乃係寬延中
根本伯修做邢昺疏例改換體式、不足據也、此本真爲
皇氏原本、舊爲吉篁墩藏本、考異所引義疏指此也、
今歸求古樓、

又舊鈔本 容安書院藏

每半面九行、行二十字、注文雙行、此本字體奇古、當
是應永間鈔本、舊爲市野光彥藏、今歸容安書院、
光彥手跋曰、古鈔本論語義疏十卷、審其筆跡係於應
永前後之謄寫也、寬延中根本伯修刻義疏、做邢昺本
而變亂舊章、亦可痛惜矣、此後人所爲也、削而去之
則皇氏之舊可復矣、予欲從事于謄寫老而不能書、以
告世之善讀者、文化十四年歲次丁丑夏六月望日江
戶市野光彥謹識、
六朝經書其傳者世無幾、但有義疏一通、李充繆播等

十三家之經說、依此而僅傳、若無此書則何由得伺魏
晉之經學焉、辛丑二月廿日迷庵再識、

又舊鈔本 弘前星野某藏

每半面八行、行二十字、注雙行、第一卷末有知寺真
慶題字、此本攷紙質字樣當永祿間鈔本、按世傳舊鈔
義疏每篇首皆引邢疏文、不能無疑焉、比見此本、第
二卷八節子曰射不主皮條、馬融注射有五善下、及以
熊虎豹皮爲之下、引邢疏文俱冠裏云字、乃知舊鈔義
疏原于唐卷子本、承學者以邢疏文錄之背紙、而後人
傳寫誤混之正文、遂又記裏字以爲識別、於是益知此
本之爲最可貴重也、

又舊鈔本 足利學藏

卷首有轟文庫墨印、及睦子印記、根本伯修校刻本以
此爲原本、

又舊鈔本 九折堂藏

每半面九行、行二十字、末有慧極印永普記、攷字樣
當是天正以前鈔本、

論語注疏解經二十卷 北宋槧本 楓山官庫藏

不記版鏤年月、然撫刻極精、北宋槧本之佳者、欽宗以上廟諱皆闕末筆、有攜李願熙離藏書、願氏定齋藏書誌、書精舍定齋辛丑數印、

又元泰定四年刊本 昌平學藏

首有邢序、本文首題論語注疏解經卷第一學而第一、何晏集解邢昺疏、每半葉十行、行十八字、注二十三字、界長六寸、幅四寸一分、左右雙邊、烏絲外標題、板心上方有大小字數、下方記泰定四年并刻工名氏、間有明正德補刊、

論語集注十卷 元槧本 昌平學藏

首載朱子序、次朱子集註序說、後學胡炳文通、每半板口行、行二十一字、烏絲外標題、朱序後有建安劉氏南瀾書堂新刊本記、

又元延祐戊午刊本 京師三角氏藏

大板大字、每半版七行、行十五字、序說後有讀論語孟子法九則、又有趙鳳儀行書題辭、稱余官京師時、

士大夫之仕于溫者、以泮宮四書見贈、會建稽古閣

成、乃俾學錄周習甫詳加校正、大字繕寫、聚工鏤梓通三百九十餘板、度列于閣、願摹者聽焉云云、末記延祐戊午長至日古汴趙鳳儀書、

又明正德丁卯刊本 求古樓藏

卷首有正德丁卯孟春餘氏鳳山精舍新刊記、未有正德丁卯余有堂新刊記、

孟子十四卷 舊鈔卷子本 加賀侯(前田氏イナリ)藏

漢趙岐註、未見、

又舊鈔本 足利學藏

「卷首題孟子注疏解經卷第一上、趙氏註孫奭疏、次行疏一字大書夾注梁惠王章句上、正義曰自此云云、第十四卷下」卷末記于時長享二年臘月日書之、與州天輔置焉、

又舊鈔本 求古樓藏

書長七寸九分、幅六寸二分、每半葉七行、行十六字、末卷附篇後、合釘爲五冊、每冊末有廣隆寺總持院

印、

又舊鈔本 昌平學藏

未見、

音注孟子十四卷 舊板覆宋小字本 昌平學藏

闕一至五、每卷首題音注孟子卷之幾、次行書篇名并章數、每注末附釋音、每半板口行、行十八字至二十字、注雙行二十七字、界長六寸一分、幅四寸四分、左右雙邊、桓恆徵等字闕筆、聞崇蘭館又藏舊刻音注、未知與此同種否、

孟子注疏解經口卷 舊鈔單疏本

未見、

孟子集注十四卷 元槧本 求古樓藏

首載朱熹集注序說、本文首題孟子卷之一朱熹集註、每半板十二行、行二十四字、界長六寸七分強、幅四寸三分強、四周雙邊、序說後有延祐甲寅良月麻沙萬卷堂刊本記、

又朝鮮國活字刊本

卷七以下闕、每半版十行、行十八字、序說五行、行十二字、界長八寸八分、幅五寸六分、四周雙邊、

孟子集註輯釋十四卷 元槧本 昌平學藏

朱子集註後學新安倪士毅輯釋、每半板十三行、每行大中小字數互異、界長七寸二分、幅四寸五分、四周雙邊、

論語十卷、孟子十四卷、大學一卷、中庸一卷 慶長己亥勅板

活字單經本

此本論孟依古注本、學庸依朱注本、各經首木格內大書某經慶長己亥刊行八字、每半板口行、行口口字、文字遒勁、活板之尤佳絕者也、

論語集解十卷、孟子趙岐注十四卷、大學章句一卷、中庸章句一卷 舊鈔本 容安書院藏

孟子缺、論語第一第十兩卷末有永正九年少納言清原朝臣、永正十七年給事中清原宣賢記、第十卷末有大永三年林安盛記、大學卷末有文龜三年清三位入道常益、永正二年左大史小槻宿禰、給事中宣賢記、

中庸卷末有永正八年少納言清原朝臣及宣賢枝賢記、

按、崇蘭館藏清原經賢手書卷子本中庸章句一卷、卷末識語一與此本合、知取源不異、

又活字刊本

每半板^{七一}行、行^{十七}口^七字、不記刊行時月、

按、此刊以字體攷之、恐慶長年間所刊、決不下於寬永間、^レリヤ

大學或問一卷元槧本 昌平學藏

標題大字、正文細字雙行、

中庸說六卷宋槧本 普門院藏

宋張九成撰、每卷首題中庸說卷第幾、次行書無垢先生范陽張九成、卷末有寶永三年丙戌八月龍昌首座代龍爽修楷記、

四書章圖纂釋二十卷元槧本 昌平學藏〔靜節山房藏〕

前有凡例朝貴題贈序文總目、及大德壬寅程復心大字行書序、每卷首題新安林隱程復心子見經進朝貴

觀之書、豈可不貴重乎、攷現在書目樂家類載雜琴譜百廿卷、亦或此類、

按、蔡邕琴操曰、古琴曲有歌詩五曲、又有一十二操、二曰猗蘭操、又稱猗蘭操者孔子所作也、孔子歷聘諸侯、諸侯莫能任、自衛至魯過隱谷之中、見薊蘭獨茂喟然歎曰、夫蘭當爲王者香、今乃獨茂與衆草爲伍、譬猶賢者不逢時與鄙夫爲倫也、乃止車援琴鼓之云、習習谷風以陰以雨、之子于歸遠送于野、何彼蒼天不得其所、逍遙九州無所定處、世人闇蔽不知賢者、年紀逝邁一身將老、自傷不逢時託辭於薊蘭云、^{薊蘭}據此倚蘭乃猗蘭操也、又唐吳兢樂府古題要解載碣石篇、右晉樂奏魏武帝詞、首章言東臨碣石見蒼海廣、日月出入其中、二章言農功畢而商賈往來、三章言鄉土不同人性各異、四章言老驥伏櫪志在千里、烈士莫年壯心不已也、

樂書要錄零本三卷

唐武后撰、原十卷、現存五六七三卷、每卷首有子目、

題贈、序文後有富沙碧灣吳氏德新書堂印行木記、大學卷末有至元歲次丁丑菊節德新堂印木記、

按、楓山祕府又藏元代刊本、與此同種、

又朝鮮國刊本 足利學藏

未見、

樂類

碣石調幽蘭一卷影寫唐人書本 寶素堂藏

標背題口譜丘公傳、蓋琴譜中一卷也、首有小序、稱

碣石調幽蘭序、一名倚蘭、丘公字明、會稽人也、梁末隱於九疑山、妙絕楚調、於幽蘭一曲尤特精絕、以其聲微而志遠、而不堪授人、以陳植明三年授宜都王叔明、^隋隨開皇十年於丹陽縣卒、年九十七、無子、傳之其聲遂簡耳、次題幽蘭第五、卷尾又題碣石調幽蘭第五、注云此弄宜後消息彈之後記楚調千金調云云、原本京師某氏所藏、界長七寸八分、幅六分、每行二十二字、書法遒勁字字飛動、行間細楷亦妙絕、審是李唐人真蹟、蓋昔時樂家傳藏祕卷、雖非完帙實爲罕

此書世久失傳、寬政己未林祭酒以活字印行、收在佚存叢書第一集、林跋云、史稱吉備真備靈龜二年爲遣唐留學生入唐、天平七年歸獻樂書要錄十卷、傳於皇國此時爲始、年代邈遠佚亡過半、予嘗得抄本一通、無復他本可以勘對、則誤以傳誤耳、

樂書二百卷宋槧本 昌平學藏

首載慶元庚申楊萬里序、建中靖國元年禮部劄子進表并序、表首署宣德郎祕書省正字臣陳陽上進、目錄首題迪功郎建昌軍南豐縣主簿林宇冲校勘字、每半版十三行、行二十一字、中間多元明補刊、

小學類

爾雅三卷舊板覆宋大字本 京師高階氏藏

晉郭璞注、首載郭璞序、每卷首題爾雅卷幾、郭璞注、次行列書篇目、每半板八行、行十六字、注雙行二十一字、界長七寸五分、幅五寸四分、文字豐肥楷法端勁、敬驚弘殷匡胤玄朗恆植貞^眞徵等字闕筆、間有南宋孝宗時補刊、桓邁慎三字闕筆、下卷末有經凡一萬八

百九言、注凡一萬七千六百二十八言二行、及將仕郎守國子四門博士李鶚書一行、又有日承題名及花押、日承蓋係舊藏人、未詳何人、

按、五代會要云、後唐長興三年中書門下奏請、依石經文字刻九經印板、召能書人端楷寫出、旋附匠人雕刻每日五紙、宋王明清揮塵錄云、後唐平蜀、明宗命大學博士李鶚書五經、倣其製作刊板於國子監、監中印書之始、今則盛行於天下、蜀中為最、明清家有鐫書五經印本存焉、後題長興二年也、據此則是本卷末題李鶚名銜者、蓋即後唐蜀本面目之僅存者、可知北宋時有覆刻李本者、博播皇國、當時影刻以行世也、然則此本雖為宋本而實亦為唐本也、豈不最可貴重乎、但鐫作鶚、則未詳孰是耳、

又宋槧本 崇蘭館藏〔靜節山房藏〕

北宋仁宗時刻本、體式與前本同、但卷首郭璞注三字退在次行、帝諱闕筆皆同前本、間有南宋高宗時補刊、桓邁二字闕筆、板心有重刊重開記、每半板九

行、每行字數不定、界長七寸二分弱、幅四寸六分強、左右雙邊、每卷末附音釋、卷首有光源院印、此本往歲狩谷望之借鈔藏于家、而天保甲辰松琦明復入之刻、又作校譌以附後、

又明弘治間刊本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

此本不記刊板歲月、攷字體蓋為弘治間所刻、經注異同類音圖本而小異、每卷末附音釋、亦與音圖本所載異、敏求記載郭璞注爾雅三卷云、此本逐卷後附音釋、殊便覽者蓋言此本與、博古全雅所收疑亦原此本、

又明景泰七年刊本 昌平學藏

首載郭璞序及目錄、卷首體式亦同前諸本、但標目冠新刊字、每卷末附釋音、每半板十一行、行二十二字、注雙行、卷末有景泰七年八月和陽馬諒校刊後序、

爾雅音圖三卷清刊本

嘉慶六年南城會煥依元人影宋抄本摹雕、大板大字、經注異同、勘之邵氏正義所引宋本大同小異、其音釋

散見經文各處下、中卷釋宮以下每篇後附繪圖、極精微、

爾雅注疏十一卷元槧本 昌平學藏

卷首題爾雅注疏卷第一、爾雅序、郭璞序、邢昺疏、次爾雅兼義一卷上、郭璞注、每半板九行、行十九字、注二十一字、界長五寸九分、幅三寸九分、左右雙邊匡胤恆桓等字闕筆、蓋取原於宋本者、本學又藏明正德補刊本、未見、

又朝鮮國活字刊本 求古樓藏

首有天順八年富順胡深序、又有吉水周齊已後序、卷端有宣賜之記、疎庵、輔臣弼仲、西河後人四印、共為朝鮮國人印、又有讀耕齋之家藏印、冊皮皆題云嘉靖十六年十月日內賜益陽君懷爾雅一件命降謝恩、卷末護頁有辛丑之歲七月信勝記、信勝即道春先生也、

又明刊本 竹陰書屋藏

熊九岳熊九勅校本、未見、
釋名八卷明嘉靖甲申仿宋刊本 懷仙樓藏

首有嘉靖甲申儲良材刊行序、尾有嘉靖三年呂枏重刊後序、云、是書南宋時刻於臨安、尋燬不傳今、侍御谷泉儲公邦掄得之於嵩山、僉憲李公乃命枏校正、附絳州守程君鴻刊布焉、又有跋、末缺僅存半頁、

按、小學之書亞于爾雅者、是書為最古、而善本至渺、清乾隆中畢沅疏證校訂精密、然所參異本胡文煥郎奎金吳瑄等本纔二三種、未及見此本、但孫星衍張金吾書目載宋陳道人刊行零本、致是本劉成國序後有識語云、臨安府陳道人書籍鋪刊行、則取其原於宋本、可知呂枏後序所謂宋時刻於臨安者即是、每卷首題劉熙字成國撰篇目釋、第幾、今本劉熙上添漢字刪字字、及第幾字皆從刪去、釋飲食脍也夏月赴疾作之久則臭也、諸本臭誤與、釋綵帛絮胥也胥久故解落也、諸本故作能、釋兵封刀鉸刀削刀皆隨時名之也、諸本脫削刀二字、釋疾病瞽鼓也瞽瞑然目不合如鼓皮也、諸本如誤于、畢效欽本不誤、釋喪制槌而死曰掠、諸本死下衍者字、是類皆可以正俗本之譌、且釋兵、舊校

云、徐本 矛長九尺者也、矜霍也、所中霍然即破裂也、
 矜字字書不收、攷即矜字之壞移、亦殺字之誤、然矜
 殺字並說文不載、蓋古用椹字、椹撞樓也、一曰燒麥
 杓、椹从木役聲、農具耩耨轉注為小矛、故徐錯釋椹
 字云、字書又小矛也、凡文字義轉形亦隨變、故變木
 从金作鎡、集韻鎡或从役、省才作銳、廣韻銳从矛
 作殺、篇韻殺矛也、集韻殺小矛、或从再變金从矛
 殺、矛也、又云殺矛屬長殺、謂之勃盧、諧聲作杓、集韻杓或作
 殺、或作杓、廣韻杓、誤从分作矜、玉篇矜、殺、長矛也、廣韻矛
短兵亦作殺、集又作矜、即矜字再誤作矜、廣雅釋器矜矛也、
集韻矜、博雅矜展轉訛謬竟至叵解、故畢沅校本遂削此
 條、何不考之甚、它所脫三四條、又釋書契詰啓也、當
 作榮詣也、畢校未及此、釋船綱矜也、矜短也、矜正作
 鴉、以短衣之義轉注而畢校作貂、未得其義、釋疾病
 瘥揚也、瘥正作蚌、而畢校作養、頗可謂疏矣、但呂柟
 跋稱正過八十餘字闕疑、未改十一字、其所闕有未必
 須疑者、則其所改亦得失奈何、今不可辨、乃不見宋
 葉原本、特是為憾耳、

埤雅二十卷明成化九年刊本 容安書院藏
 首有重刊埤雅序、序末記是歲天運庚申八月中秋京
 口後學張存性中敘、次有宣和七年六月男陸宰序及
 目錄、卷首題重刊埤雅卷之一、中大夫守尚書左丞上
 柱國吳郡開國公賜紫金魚袋陸佃撰、陸宰序後有成
 化九年歲次癸巳葉氏廣勤書堂新刊木記、此本為市
 野光彥舊藏、卷首有吉氏家藏及稱意館藏書記印、又
 有自演方印、
 又明嘉靖二年刊本 求古樓藏
 首有成化十五年新喻胡榮序、末有嘉靖二年長洲王
 俸跋、云、右埤雅一編處州板刻、久而湮裂、學者病
 之、予竊錄于此、懼典籍之弗傳也、因屬麗水程學諭
 靈完其殘剝正其譌舛而梓之、卷首有瑯玕亭印、知係
 日向陶庵藏書、
 爾雅翼零本八卷明刊本 寶素堂藏
 現存八至十五凡八卷、每卷首題爾雅翼卷第幾、次列
 目錄、每半面十行、行十九字、板心記大小字數及刻

工名氏、相板式疑依宋本重刊者、卷首有小野節家藏
 書、宜爾子孫二印、

右訓詁

急就篇一卷

此篇有數本、一玉煙堂法帖所收本、所存僅三之一、
 乃影摸石本者極為善本也、一顏師古注本、凡三十二
 章、無齊國山陽二章、王應麟作補注以付玉海後、一
 宋太宗定本、凡三十四章、有齊國山陽二章、見王應
 麟所引王氏以為二章、並為後漢人所續也、一高野
 大師真蹟本、為讚州善通寺藏、凡三十三章、有齊國
 一章、與顏本或本多合、其為摹唐本審矣、而有齊國
 章全存、則可知太宗所据亦係唐本也、一皇本、凡三
 十三章、無焦滅胡一章、即吳皇為所書、宋時石刻猶
 完、王應麟引以校同異者、
 按、學者在今日可觀古史書之舊者、蓋僅存此篇、而
 草體傳寫訛謬不少、澀江全善愛之、天保中刻定本以
 傳于世、其正文一從顏本、又從太宗本錄齊國山陽二

章凡三十四章、依皇本及讚州本為之校正、小島知足
 徵唐石經體正楷書之、學者宜據此以起正名之學也、
 聞知足又作急就篇文字攷、稿既成未上梓、好古之士
 宜傳鈔藏之也、

注千字文三卷舊鈔本 求古樓藏

前有梁大夫司馬李暹注千字文序、卷首題纂圖附音
 集註千字文上、次行勅員外散騎侍郎周興嗣次韻、其
 中下卷首題云纂圖附音增廣古註、無界欄、每半葉十
 二行、行二十一字、無界欄、長六寸七分、幅四寸七
 分、又有活字板本、取原於舊鈔者、每卷題云纂圖附
 音增廣古註、又有整板本、依活字板、
 按、見在書目載千字文一卷李暹注、今本作暹者恐暹
 訛、但今本卷數不合、蓋編目錄時各為卷軸、則不稱
 一卷中小目也、周發殷湯注云、姐已變作九尾狐狸、
 他書所不載、凡如此類不少、其為李唐以前之遺編無
 疑也、
 朱注千字文 寶素堂藏 (靜節山房藏)
 又舊板本

首題漸板增廣附音釋文千字文註、其注與前諸本不同、疑宋元間人所撰、相板式當是應永前後刻本、聞崇蘭館藏元刊本、恐是本所原、

玉篇零本一卷舊鈔卷子本 石山寺藏

現存第二十七卷系部第四百二十五至索部第四百三十一凡七部四百二十二字為一卷、每行長六寸強、字數不定、卷末有梵字及訓釋數行、又有石山寺經藏墨印、又高山(寺)東大寺、崇蘭館及佐佐木宗四郎家並藏殘本、今鈔錄為三冊、一、言部第九十一至幸部第一百十七、中間有缺、此為一冊、即第九卷、一、卷第十八之後分放部第二百七十一至方部二百八十四凡十四部、此為一冊、一、水部(爲)溼字(爲)至洗字、中有紙質損壞處、此為一冊、即第十九卷、

按、清康熙中張士俊翻刻宋板玉篇、天保甲午昌平學重雕以行於世、固已為希世之珍、然已非唐孫強增字之舊、卷首題云大廣益會玉篇一部并序、凡三十卷、而合為上中下三卷、朱彝尊所謂釋慧力撰、象文道士

趙利正撰解義、至宋陳彭年吳銳丘雍輩又重修之、於是廣益者衆而玉篇又非顧氏之舊者是也、若此本之傳則遠在孫強增字已前、真為顧氏原帙也、每注中有野王按語、與慧琳經音及弘決外典鈔等所引合、其為可貴珍、亦非宋本所得而比肩也、

重脩玉篇零本口卷宋槧本 尾張真福寺藏

板式行款一與昌平學所藏宋槧廣韻同、張士俊所翻雕亦即此本、惜殘闕不完、

重修玉篇三十卷元至正丙申刊本 求古樓藏 (靜節山房藏)

目錄及第一卷末有至正丙申孟夏翠巖精舍新刊記、卷首有千手眼大士璽寶印、上有龍形、如北條虎印、又有下谷金杉壽永寺印、

又元槧本 (靜節山房藏)

首有大中祥符六年牒、新編正誤玉篇廣韻指南及總目、卷首題大廣益會玉篇卷第一、凡八部、一部第一凡八字、此本比前本板樣縮小、指南後有百三十餘字行草識語、總目末有梅坡鼎印、及建安蔡氏鼎新綉梓

木記、卷尾有建安蔡氏鼎新刊行八字、按、以上二本比宋本、注中刪略更夥、且每部文字次第多錯亂、又有明初刊本及慶長中重刻元本、並與前本略同、

新雕入篆說文正字一卷北宋槧本 懷仙樓藏

始一終亥、篆文下注說文訓解及反切、每半板十一行、行小字二十四字、凡篆文一字排列小字四字、首尾題目併二行大書、界長五寸四分強、幅三寸七分強、卷首有經筵朱印、卷末有高麗國十四葉辛巳歲藏書、大宋建中靖國元年、大遼乾統元年印、小島學古云、此書及御注孝經文中子通典姓解、並有經筵高麗國十四葉二印、細玩其紙質墨色、別自為一種、北宋板殆出當時、朝鮮國所開雕歟、學古精鑒絕人、此言當不誤矣、

漢隸字源零本口卷元槧本 求古樓藏

未見、

龍龕手鑑八卷朝鮮國刊本 求古樓藏

遼僧行均字廣濟集、有統和五年沙門智光序、每卷首有全州鄉校上五字、又有一印、文字漫滅、不可識、共出韓人、又有蟠桃院印、及如實庵圖書記印、此本原係能登石動山僧大惠舊物、大惠歿後歸求古樓、

右字書

大宋重修廣韻五卷宋槧本 昌平學藏 (靜節山房藏)

首題大宋重修廣韻、一部凡二萬六千一百九十四言、注一十九萬一千六百九十二字、准景德四年十一月十五日勅云云、卷首題廣韻上平聲卷第一、卷尾題廣韻入聲、卷第五末又別載雙聲疊韻法、六書八體辨字、五音法辨、十四聲例法辨、四聲輕清重濁法、每半板十行、每行小字二十六七字至三十字、大字不定、界長六寸八分強、幅五寸、左右雙邊、崇蘭館容安書院所藏俱同此本、清康熙中張士俊所翻刻亦即是本、我天保二年昌平學摸刊行于世、

按、見在書目所載韻書凡二十餘部、今無一存者、真可惜也、中有唐韻正義五卷、蓋今廣韻原書未經重修

者、重修本中以此為最善也、

鉅宋重修廣韻五卷宋槧本 昌平學藏〔靜節山房藏〕

首記鉅宋重修廣韻、一部凡二萬六千一百九十四言、注一十九萬一千六百九十二字、次陸法言撰本、長孫訥言箋注、儀同三司劉臻云云、卷首題鉅宋廣韻上平聲卷第一、卷末題鉅宋廣韻、卷第五大字併二行書、末載雙聲疊韻六書八體共在卷內、每半板十二行、行二十一字、注雙行三十四字、界長六寸七分強、幅四寸八分、左右雙邊、板心記大小字數、玄敬弘匡胤等字闕筆、序末題己丑建寧府黃三二郎書鋪印行十三字、每卷首有兼葭堂藏書印及兼葭藏書二印、每冊上有兼葭堂祕不許闖外印、

按、此本冊上題云、皇祐元年刊本、蓋後人据序末己丑語記者、今就紙質字樣攷之、絕不似北宋本、攷宋本文第二十欣同用欣第二十一、此本作文第二十、獨用段第二十一獨用、又桓字不闕筆、並與元板合、殆元至元二十六年己丑所刊與、元人以好古自居、遂改

文欣為文段、尙忘去鉅宋字、抑亦何也、時宋亡僅十年、宋板元印當在此際、故致此掛漏歟、俟再攷之、

廣韻五卷金槧本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

有泰定乙丑菊節圓沙書院刊行木記、

又元槧本 昌平學藏

每卷首題大宋重修廣韻某聲卷第幾、每半板十一行、每行注二十六字至七八字、界長六寸二分、幅四寸四分、四周雙邊、卷末有紀陽南斗寄附之記、

又元至正丙午刊本 昌平學藏〔靜節山房藏〕

首有陳州司馬孫恂唐韻序、卷首題廣韻上平聲卷第一、二十文獨用二十一段獨用、亦與前宋本同、每半板十二行、行二十字、注雙行二十七字、界長七寸一分強、幅五寸四分、四周雙邊、孫序後有至正丙午菊節南山書院刊行木記、卷五缺、以至順庚午刊本補足、

又明永樂甲辰刊本 昌平學藏

此係翻刻前本、序末木記改題永樂甲辰良月廣成書堂新刊、

又明弘治壬子刊本〔靜節山房藏〕

此再翻雕前本者、序末木記亦改題弘治壬子詹氏進德精舍新刊、

又元槧本 昌平學藏

首有景德四年大中祥符元年牒、卷首題明本正誤足註廣韻卷之一、下有上平聲三字、白文摸出、每半板十四行、行二十字、注雙行三十字、界長六寸九分、幅四寸七分、四周雙邊、

按、元刊本皆不載景德大中祥符二牒、此刻特存、可謂奇矣、

又元至順庚午刊本 容安書院藏〔靜節山房藏〕

體式一與至正刊本同、每半板十三行、行十九字、注雙行三十字、界長六寸一分、幅四寸、左右雙邊、序末有至順庚午敏德堂刊木記、又有辛未菊節後十日印七字、

又元槧本 寶素堂藏

體式亦與至正刊本同、但板樣縮小、注中刪略尤多、

每半板十三行、行十七字、注雙行三十字、界長五寸

九分、幅四寸弱、四周雙邊、不記刊行歲月、卷末有建安余氏雙桂書堂鼎新校梓木記、卷首有雲伯古潭、昌清無聞、鹿苑寺、酒水園之印數印、

又元槧本 京師高階氏藏

未見、

禮部韻略零本三卷北宋槧本 尾張真福寺藏

此元祐五年孫諤等詳定本也、現存第一第三第五三卷、卷首題禮部韻略平聲上第一、末附元祐庚午禮部條制、貢院條制、名諱、及景祐四年六月牒、每半板十三行、行二十二字、注雙行二十九字、此本比之紹興增修本體式迥異、惜殘缺不完、

增修互註禮部韻略五卷元至正乙未刊本 容安書院藏

首有擬進增修互註禮部韻略表、第一卷末有至正乙未仲夏日新書堂重刊木記、楓山官庫及足利學亦藏此本、

又舊板本 寶素堂藏〔靜節山房藏〕

即翻雕前本者、刪去一卷末木記、但存空格、第五卷五六七八四頁欄外記日本永春刀五字、又朝鮮國刊本

未見、

集韻十卷宋槧本

楓山官庫藏

南宋淳熙間刊本、大板大字、四方寬廣、紙質完厚、卷末有田世卿跋曰、此版久已磨滅不復有也、前年蒙恩將屯安康、偶得蜀本、字多舛誤間亦脫漏、嘗從暇日委官校正、又記淳熙乙巳九月至丁未五月僅能畢工、每卷有金澤文庫及蟠桃院印記、

韻鏡一卷享祿戊子覆宋本

首有紹興辛巳三山張麟之子儀識語、其略云、反切之要莫妙於此不出、四十三轉而天下無遺音、因撰字母括要圖、復解數例以爲^沿流求源者之端、又有嘉泰三年麟之序、云、韻鏡之作其妙矣、夫余年二十始得此學字音、往昔相傳類曰洪韻釋子之所撰也、有沙門神珙號知音韻、嘗著切韻圖載玉篇卷末、竊意是書作

於此僧、世俗訛呼珙爲洪爾、次調韻指微、次三字六^{十一}字母歸納助紐字、次歸字例、次橫呼韻、五音清濁、四聲定位列圖、末題韻鑑序例終、次本文自內轉第一至第四十三、識語後有慶元丁巳重刊木記、卷末有享祿戊子清原朝臣宣賢跋、謂泉南宗仲論鑠梓始末、聞又有永祿刊本、未見、

古今韻會舉要三十卷元槧本

（靜節山房藏）

首有劉辰翁熊忠二序、陳^榮案繡梓識語、元統乙亥字尤魯獅序、又有至順三年余謙識語、又有凡例及禮部韻略七音三十六母通攷、

又有朝鮮國刊本、即重雕此本者、又有舊板本、復翻雕朝鮮本者、末記應永五歲姑洗日藤氏權僧都聖壽重刊、又有活字刊本整板本、並以應永本爲原、

明本排字九經直音二卷元槧本

此書分前後二集、卷端木格題熊氏博雅堂刊五字、不著撰人名氏、首載孝經音、卷末有至正丁酉日新書堂綉梓印記、卷首有天師明經儒印、知係清氏舊藏、

右韻書

安政四丁巳初夏十五日校比一過卒終

稔庭石士約之

經籍訪古志卷第三

史部

正史類

史記零本一卷舊鈔卷子本 京師□□□

漢司馬遷撰、宋裴駰集解、現存河渠書一卷、末題河渠書第七史記廿九、界長六寸五分、幅八分、每行十六七字、注雙行二十四五字、致紙質字樣當是八百年前鈔本、卷尾有藤字朱印及押字、係右大臣藤原忠平公手印、延喜二十年公家牒亦用此印、

又舊鈔卷子本 求古樓藏

現存夏本紀一卷、末題夏本紀第二史記二、界長七寸七分餘、幅八分、每行十三四字、注十八九字、卷末有文和三年大監物惟宗守俊記、寶治二年大史大丞安倍時貞記、建長八年匠作少尹安倍爲貞記、又有菅淳高菅在時舊跋、及承久二年菅原龜丸、嘉祿中在江、

經籍訪古志卷第二終

仁治三年菅原在匡、弘安十一年陰陽大屬安倍有雄、

正安二年主殿權助安倍重章各記、

「立之」按、此卷實治二年書寫、建長八年（所）再校（而）文和

三年後人所記、筆跡甚拙、一目可知矣、承久嘉祿云

云、以一本校正之時（抄寫）以其跋文提于此者也、

又舊鈔卷子本 求古樓藏

現存孝景本紀一卷、末題孝景本紀第十一、末有延五

暮春學生大江家國記、延五蓋謂延久五年癸丑也、又有康和三年記、

建久七年記、

又舊鈔卷子本 求古樓藏

現存孝文本記一卷、未見、

又正和五年惟宗康俊鈔卷子本 崇蘭館藏

現存五帝周秦孝武本紀四卷、未見、

又舊鈔卷子本 （屋代氏イナリ）不忍文庫藏

現存一卷、未見、

史記零本二卷舊鈔卷子本 高山寺藏

唐司馬貞索隱、現存周秦本紀二卷、未見、

史記七十卷宋槧本 京師飛鳥井家藏

唐司馬貞索隱、載正文全文、未見、

又元槧本 昌平學藏

注文載集解、索隱不載正義、首有中統二年董浦序、次

史記集解序補、史記目錄、三皇本紀史記正義序、史

記索隱序、史記正義論例、謚法解、首並題豐城游明

大昇校正新增十字、卷首題五帝本紀第一卷史記一、

每半板十四行、行二十五字、董序首有完山李氏圖書

印、或云韓人所印、又有佐伯侯毛利高標字培松藏書

畫之印記、即爲佐伯侯獻本之一、按、足利學及大和

八木村人谷新助亦藏元槧本、俱未見、疑與此本同

種、

史記一百三十卷宋槧本 米澤上杉氏藏

宋裴駰集解、唐司馬貞索隱、張守節正義、首載目錄、

集解序補、史記序補、史記三皇本紀索隱序、正義序、

正義論例、謚法解、卷首題五帝本紀第一史記一、每

半板十行、行十八字、注二十三字、序目錄每半版九

行、行十五字、注二十字、界長六寸五分、幅四寸一
分、四周雙邊、烏絲外標題、玄真讓慎般微弘等字闕
筆、每卷末記史注字數、集解序後有建安黃善夫刊于
家塾之敬堂木記、目錄末（有）缺、以元板補鈔、檢求古樓本
完具、有建安黃氏
刻梓篆字木記、謚法解首有興學亭朱印、昌平學所藏北宋槧
亦採、又有水光卯青印、交採、傳稱此本及宋槧前後漢
書俱係直江兼續舊物、求古樓亦藏宋槧不全本、與此
同種、現存七十二卷、缺十三至十八、三十一至三十八、六
十八至七十二、九十一至百二十九凡五十八卷、

又明王延詰翻刻宋本 求古樓藏

體式行款一與前本同、即翻雕前本者、但目錄末篆字
木記改題震澤王氏刻梓、卷尾有吉田坦手跋、直以此
本爲宋板誤、每卷有倉姓藏書印、知爲笠倉平八舊物
也、

池北偶談云、明尙寶少卿王延詰文恪少子也、其母張
氏壽寧侯鶴齡之妹、昭聖皇后同產、延詰少以椒房入
宮中、性豪侈、一日有持宋槧史記求粥者、索價三百
金、延詰（謂）其人曰、姑留此一月後可來取直、乃鳩集善

工、就宋板本摸刻、甫一月而畢工、其人如期至索直、
故給之曰、以原書還汝、其人不辨真贋持去、既而復
來曰、此亦宋槧而紙差不如吾書豈誤耶、延詰大笑告
以故、因取新雕本數十部、散置堂上示之曰、君意在獲
三百金耳、今如數予君、且爲君書幻千萬億化身矣、
其人大喜過望、今所傳有震澤王氏摹刻印即此本也、
十七史商榷四庫全書
等、亦稱此本之佳、

又元至元戊子刊本 求古樓藏

現存四十二本、缺三十一卷、首有中統二年董浦序
補、史記序、集解序、索隱序、論例、謚法解、目錄、卷
首體例與前本同、但注文間加刪略、每半板十行、行
十六字至十七八字、界長六寸一二分、幅四寸一二
分、左右雙邊、目錄末雙邊、筐中題安成郡彭寅翁刊菜
于崇道精舍、列傳第十三卷末又題皆至元戊子安成
彭寅翁新刊年表、第二卷末題安成郡彭寅翁鼎新刊
行、正義序後有口同寅翁翠峯彭氏三印、每卷有定房
鼎印、卷一標背題云、右本蓋聽松村庵老師藏書室中

至寶也、然明月夜光不獨耀于隨掌郢握天下寶、當為天下用之、是今斯本之所以歸於梅岳雅伯掌握也、深韜匱寶諸之可矣、寅闇翁謹識、末有常庵印、致村庵名靈元、字希世、為細川勝元猶子、南禪寺聽松院第四世、長享二年六月寂、寅闇名龍崇、又稱角虎、東里建仁寺靈泉院僧也、此書及宋槧殘本漢書出于妙心寺大龍院、乃知鐵山和尚遺本也、鐵山名宗鈍、號默軒、又號懶齋、元和三年十月八日寂、見延寶傳燈錄、按、楓山官庫亦藏元槧足本、卷末有至元戊子苒節吉州安福彭寅翁新刊于崇道精舍木記、即與此同種、朝鮮國刊本及今行活字板俱原此本、

漢書零本一卷 李唐人撰 藏卷子本 尾張真福寺藏

漢班固撰、唐顏師古注、現存食貨志一卷、卷首題食貨志第四漢書廿四、次行署祕書監上護軍琅邪縣開國子顏師古注、界長六寸九分、幅七分、每行十三四字、注十六七字、文字遒勁、卷中民字闕末筆、史注文句校之宋元諸本極有異同、真李唐原卷也、卷末有式

部之印朱印、背書阿彌陀經疏一卷、有嘉保二年九月書寫釋慧海記、

又舊鈔卷子本 不忍文庫藏

現存鄧通傳、六行九十三字、

又舊鈔卷子本 石山寺藏

現存二卷、未見、

又舊鈔卷子本 掛川侯藏

現存一卷、未見、

漢書一百二十卷宋槧本 米澤上杉氏藏

目錄末有識語、云、集諸儒校本三十餘家及予五六友、澄思靜慮讎對同異是正舛訛、始甲寅之春畢丙辰之夏云云、末記建安黃宗仁善夫謹咨、又有校字人黃頤陳熙虞應仲劉之間葉黃列名、引用書目後有慶元嗣歲端陽日建安劉之間謹識記、依此文甲寅蓋即紹熙五年、而丙辰即慶元二年也、列傳第一卷末有建安黃善夫刊于家塾之敬室記、卷第一末云、右宋景文公以諸本參校手所是正、及數家辨疑並附古注之末、每卷末有此記、但字句小異、此本行款體式一與

前史記同、求古樓所藏與此同種、但殘闕不完、現存三卷、缺二至十二、十五、十六、十九、二十一、二十七、二十八、三十九、四十一、五十一、五十二、五十八、五十九、六十九、七十七、七十六、八十五、八十六、每卷有成恩寺題字、成恩寺本名西願寺、有山崎家門知行分、又有少寄進地、見一條禪閣兼良公桃花蕊葉、今仍為京福寺派云、

又宋槧元修本 崇蘭館藏

板式與前本同、間有元代補刊、板心記元統二年刊、大德八年刊、至大元年補刊、大德八年補刊、延祐二年刊補等字、中間脫頁、係天文間補鈔、卷末有識語、云、右西漢書全帙、或修厥闕或補厥漫者、自天文六丁酉夏六月至同戊戌秋九月而書之云云、末記天文七稔戊戌九月十七日善慧山人四十九齡、有守仙印、每卷首有善慧軒印、

按、楓山官庫亦藏宋槧元修本二通、俱板心有元代補刊記、其紀號與此本同、蓋即同種也、

又宋槧小字殘本 崇蘭館藏

現存列傳三十五卷、一至八、二十六至三十一、五十五至七十、裝成十二册、卷首署正

議大夫行祕書少監琅邪縣開國子顏師古注、每半板十二行、行二十二字、七十卷末記迪功郎新袁州萍鄉縣主簿主管學事江泰校正、

又元槧本 昌平學藏

第四卷內六十七二頁縫心有大德十年刻劉震卿八字、每半板十行、行十九字、注二十七八字、界長七寸、幅四寸八分、此本係市野光彥舊藏、光彥手跋云、前漢書百十八卷為元時印本、其間有補刊、記大德元統之號、又有明正統正德等號、誤脫極多、友人伊澤澹甫云、書有訛字則知其為佳本、如萬曆後刻本整齊可愛、其字多以意改、則我不知其可、余謂此言誠然、世學者多不知擇書、何能教人、如此書真為元槧佳種、不失顏師古注書面目者而已、文政五年壬午七月二日、

又元槧本 求誨堂藏

卷首題太平路學新刊班固漢書、目錄後有大德乙巳太平路儒學教授孔文聲題言、此本校改甚多不足據

也、
又明刊本 求古樓藏

卷末有嘉靖己酉廖言監脩記、恐依宋本者、

又朝鮮活字刊本等十三册 問津館藏

存第四功臣年表、第五上下郊祀志、第六之七天文志、第七中之上下五行志、第七下之上下同、第十一之十三列傳、第三十一之二同、第三十六同、第三十八之九同、第四十五之六同、第四十九之五十一同、第五十二之四同、第五十五之六同、

舊福山藩鹽田屯所藏、作訪古志之日既亡失、後出于松本氏勝鹿文庫而入我庫中、此本每册有金澤文庫印記、其寸法與金澤文庫火前印甚近似、然字體少異且以朱捺之、其色帶淡紫、蓋一種之印記可疑者也、此條書目トモニイ本ナシ、

又明刊本 求古樓藏

每卷首題明汪文盛高激傳汝舟校、密行細字、此本亦似原宋本、

後漢書一百二十卷宋槧本 米澤上杉氏藏

宋范曄撰、唐章懷太子賢注志三十卷、晉司馬彪撰、梁劉昭注補、與史記及前書同種、板式正符、而全帙無一缺脫、實為雙璧也、求古樓所藏宋槧亦即同此本、但惜殘缺不完、現存八十七卷、缺本紀六七八、補志一二、傳十一、五十七至六十四、七十、十四至十七、二十二至二十七、三十七至四三至七十七、凡三十三卷、

又宋槧元修本 楓山官庫藏

板式一與前書同、但板心記大德九年刊補、元統二年刊二號、無他紀號、蓋原出一梓而撫印有先後也、卷末有享祿三年都督郎跋、及大永元年文永六年記、又有應德保安保元壽永建長弘安文安舊跋、

官庫又藏一本、板式撫印與此本同、但板心補刊歲月有大德九年刊、大德九年補刊、大德十五年刊、至大元年補刊、元統二年刊三號、卷末有天文五年校點記、又有寬仁萬壽應德元永保安保元壽永嘉禎文永以後至大永享祿舊跋、蠅頭細書散見各卷之後、校訂頗詳密、中引家本、卷首題目作後漢書紀四字、章懷太子

名^街術作皇太子臣賢奉勅注、無唐字、檢今行諸本未見如此者、所謂家本者蓋昔時博士家所傳舊本、即李唐遺卷也、仍表出于斯、

又宋槧小字本 崇蘭館藏

每半板十四行、行二十四五字、注二十八字至三十字、密行細字、界長六寸、幅四寸四分、左右雙邊、序目至第六卷缺、明人鈔補、按、昌平學又藏小字宋板殘本、卷首有寶勝院印、行款與此本合、蓋同種也、

又明正統十年刊本 足利學藏

此本刻手陋劣、疑依元板者、卷首有上杉五郎憲房寄進記、

又明嘉靖丁酉刊本 青歸書屋藏

景祐元年余靖上言後、有嘉靖丁酉冬月廣東崇正書院重修記、每半板十行、行二十二字、界長六寸三分、幅四寸四分、四周雙邊、亦有單邊者參錯不一、卷首有琅玕亭印、

又明刊本 求古樓藏

明汪文盛高激傳汝舟校刊、體式一與前書同、蓋合刻者、

三國志六十五卷宋槧本 青歸書屋藏

每半板十行、行十八字、界長六寸六分、幅四寸一分、四周雙邊、烏絲外標題、每册首有真淨院朱印、又以惜陰墨印重款、一至三三卷缺、舊人補鈔、

市野光彥手跋云、宋板三國志全部魏志帝紀一册缺、蜀志卷首有咸平六年中書門下牒系補寫、又每卷有真淨院朱印惜陰墨印、雅致可愛、又魏志卷七末書戊午夏五戊寅晚門校對品、〔玉篇日部云、昌丑減切、日光照也。〕魏志卷八末

又書戊午建午中八夜校品、未知品是何人、疑五山釋氏之徒、果然則是本真為五六百年所傳舊物矣、文政庚辰六月、又云、咸平六年牒後人所補足、當刪之、予嘗觀南宋板前後漢書、與此本同種、足以相證明焉、又云、足利學所藏毛詩注疏本詩譜後有朱書、大荒落トシ晚間小盡日燈下看絕句訖藤品、此書所謂品者豈即此人乎、壬午七月五日、

又朝鮮國刊本 求古樓藏
又明刊本 求古樓藏

俱未見、

晉書零本一卷天平問鈔卷子本 崇蘭館藏

現存禮志一卷、未見、

又宋槧本 賜蘆文庫藏〔靜節山房藏〕

現存列傳數卷、相其板式當是宋末坊本、卷首有師禮氏印、

晉書一百三十卷宋槧小字本 姬路河合某藏

又明刊覆宋大字本 幸修堂藏

俱未見、

又元槧明修本 容安書院藏

明代補刊者、板心有正德嘉靖等記、末附音義三卷、唐書二百卷明刊小字本 求古樓藏

首有目錄、卷首題劉昫等脩、聞人詮校刻、沈桐同校、每半板十四行、行二十六字、審其板式當是嘉靖間從宋刊重雕者、間有後來補刊、每卷首有歐氏伯陽

尋元存得問堂三印、

又舊鈔本 京師東福寺藏

未見、

唐書二百五十卷朝鮮國銅字活板本 楓山官庫藏

宋歐陽脩等奉勅撰、無序及口文、闕第三百三十九至百四十一三卷、

編年類

漢紀三十卷、後漢紀三十卷明嘉靖間刊本

未見、

資治通鑑零本一卷元槧本 容安書院藏

現存第七十四卷首二張、每半板十行、行二十字、注雙行、四周雙邊、板心上方記大小字數、下方有德閏二字、清胡克家刊本、即原本本、

入註附音資治通鑑外紀一百卷宋槧元修本 昌平學藏

首載神宗御製資治通鑑序、獎諭詔書、進通鑑表、溫公親節資治通鑑序、劉祕丞外紀序、溫公外紀序、通鑑釋文序、歷代帝王圖及目錄、卷首題入註附音資治

通鑑外紀卷之一、次行外紀劉恕、卷末題云入註附音

司馬溫公資治通鑑詳節、各卷題目亦小異、每半板十四行、行二十三字、左右雙邊、烏絲外標題、板心記字數、界上有層欄標記、貞慎徵匡等字闕筆、目錄末有識語、云、以明州元本摹寫刊行、仍參監中正本校定、詳而不泛、簡而不遺、事之始末可以精究、誠有益學者、與它本大有逕庭、伏幸聰悉、本堂謹咨、蓋元代依宋末坊本重修印行者、卷首有林氏藏書、海南秋月、江雲渭樹三印、

續宋編年資治通鑑十八卷元槧本 崇蘭館藏

卷末有建安劉氏餘慶堂刊木記、

宋史全文續資治通鑑三十六卷元槧本 昌平學藏

首載乾道四年李燾進續資治通鑑長編表、及宋朝玉裔宋朝傳授續資治通鑑長編目錄、卷首題宋史全文續資治通鑑卷之一、豐城游明大昇校正、每半板十六行、行二十五字、末附增入名儒講義續資治通鑑宋季朝事實一卷、卷首有居昌慎氏印、

通卷續編二十四卷元槧本 昌平學藏

首有至正二十一年鄱陽周伯琦序、至正十八年臨海陳基序、至正二年山東張紹士行叢桂堂書序、至正十年四明陳樞自序、元人姜漸序及目錄書例、卷首題通鑑續編卷第一、下方署陳樞、每半板九行、行二十二字、卷首序文皆就真蹟入刻者、筆力遒勁可愛、卷中間有後來補刊序、及一卷首有建安楊氏傳家圖書印、資治通鑑綱目五十九卷元槧本 崇蘭館藏

卷末有歲在上章敦祥孟夏魏氏仁實書堂新葉木記、

又明嘉靖己丑刊本 昌平學藏

卷首題資治通鑑綱目卷之一、次行列書後學新安汪克寬考異、後學上虞徐文昭考證、後學慈湖王幼學集覽、後學毘陵陳濟正誤、後學建陽劉弘毅質實、後學廬陵劉友益書法、後學遂昌尹起莘發明、每半板十行、行二十二字、卷尾有嘉靖己丑慎獨齋刊木記、

歷代帝王編年圖一卷舊板覆宋本 容安書院藏

宋諸葛深撰、首有熙寧九年會稽鄉貢進士虞云序、述

友人諸葛深編集之概略、自三皇而下歷代帝王名氏所出、德都興作在位壽終皆列舉之、編而為圖、終五代、末又附宋遼金元年紀三張、乃後人所添、每半板九行或十行、字數不定、界長六寸二分、幅四寸一分、四周雙邊、殷匡敬貞恆等字闕筆、欄上標記皇朝年紀、蓋翻雕時所附也、冊皮記瓢庵二字、又有彭叔朱印、冊皮及卷首有善慧軒墨印、序後記雙構善慧軒五字、首尾並有周仙朱印、

歷代帝王編年互見之圖一卷 寬永己巳重刊永和丙辰刊本 容安書院藏

宋繁臺馬仲虎編、首有自序、自三皇迄宋末歷代年曆皆著于篇、每半板八行、行十六字、細注四十二三字、界長八寸、幅六寸二分、卷末有乾道三年贊皇李跋、跋尾有永和丙辰刊于洛之大用菴記、又有寬永己巳洛下謙菴道慶及朝鮮李真榮跋、二跋並言板坂卜齋鈐梓之始末、

大事記二十卷、通釋三卷、解題十二卷 明刊本 昌平學藏

首載淳熙七年呂祖謙自序、卷首題大事記卷第一、東萊呂祖謙伯恭、每半板十行、行二十一字、解題卷末有同校正鄭應奇李安詩郁雲周浩然列衛、及嘉定壬申東陽李大有跋、卷首有林氏藏書、林氏傳家圖書二印、

宋季三朝政要六卷 宋槧本 求古樓藏

卷首載目錄、有行書識語、云、理宗國史載之過北無復可攷、今將理度兩朝聖政及幼主本末纂集成書、以備它日史官之採擇云、此書卷一至卷三記理宗事、卷四度宗、卷五幼主、卷六廣王、不題撰人名氏、卷端頁頭題雲衢張鼎新綉梓、目錄末有至治癸亥張氏新刊木記、每半板十五行、行二十四字、

又明刊本

體例行款一與前本同、蓋依前本重刊者、目錄首有陳氏餘慶堂刊六字、

紀事本末類

通鑑紀事本末四十二卷 宋槧本 求古樓藏

未見、

別史類

通志二百卷 元槧本 昌平學藏

宋鄭樵撰、未見、

又明萬曆十七年刊本 楓山官庫藏

萬曆十七年官板、大板大字、撫印稍精、有缺、清人鈔補、每卷有蔣琦之印、綯臣父二印、序目首有閩中蔣氏三經藏書、蔣綯臣曾經祕藏二印、

東都事略一百三十卷 宋槧本 求古樓藏

首有目錄及劉子上表、每半板十二行、行二十四字、界長六寸一分半、幅四寸三分、左右雙邊、目錄末有眉山程舍人宅刊行、己申上司、不許覆板木記、狩谷望之手跋曰、讀書敏求記載東都事略宋刻、僅見此本本、(補註、約之按、)先君最所寶愛、(本)榮木樓牙籤萬軸獨闕此書、牧翁屢求不獲、心頗嘆焉、先君家道中落要素頻煩、始終不忍捐棄、吾子孫其慎守之勿失、按、近來富宋本者無錢遵王若也、然其言如此則當寶

藏可知也、故表出之以示後之獲是書者、

十八史略二卷 元槧本 昌平學藏

卷端頁頭題云、勤德書堂刊增修宋季古今通要十八史略、通略之書行世久矣、惜其太簡、讀者憾焉、是編詳略得宜誠便後學、口梓與世共之、目錄首題新增校正十八史略綱目、本文首題古今歷代十八史略前進士曾先之編、每半板十四行、行二十六字、

又元槧本 求古樓藏

未見、

又元槧本 足利學藏

末記大永丙戌小春日藤原憲房寄附、藤公前年乙酉三月薨逝、依遺命今歲秋寄置東井誌、

又明代重修元槧本 寶素堂藏

首有大德丁酉豫章周天驥題詞、卷端綱目首題云、新增音義釋文古今歷代十八史略、廬陵前進士曾先之編、廣中宋應祥音釋、每半板十八行、行三十五字、注雙行、每卷首有玉林院圓印、

又明園中覆刻元本 不忍文庫藏

題云古今歷代十八史略、每半板十三行、行二十六字、界長五寸四分、幅三寸五分、四周單邊、每卷有向上關及乾屋印記、

又舊板本 求古樓藏

此本分爲七卷、題云立齋先生標題解註音釋十八史略、正統辛酉孟夏書林余氏新刊、即翻雕明板者、今活板及通行諸本蓋原此本、

又朝鮮國銅字活板本 足利學藏

永樂庚子冬朝鮮國王命造銅字活板、又命新鑄造大樣銅字印行、此書詳見宣德九年韓臣等跋、卷首有宣賜之記印、

十九史略口卷朝鮮國刊本 求古樓藏

萬曆十年受國王命校刊、事具卷末金辟跋、按、元和中刊活字本即原此本、

雜史類

戰國策三十三卷 清刊覆宋本

漢高誘註、清嘉慶中黃丕烈依宋本重刊、未附考異、戰國策十卷 朝鮮國刊本 昌平學藏

宋鮑彪校注、首載紹興辛亥王信序、紹興十七年鮑彪序、及曾鞏劉向二序、彪校書題語、卷首題戰國策西周卷第一、縉雲鮑彪校注、每半板十一行、行二十一字、楷法端雅、攷板式與尋常朝鮮本不同、恐是高麗時就紹興原本重雕者、卷首有經筵朱印、北宋本孝經、說文、正字通典、姓解及文中子亦捺此印、

又嘉靖壬子刊本 昌平學藏

首有鮑序、曾序、劉序及彪題語、卷首題鮑氏國策西周卷第一、縉雲鮑彪校注、每半板十一行、行二十字、卷末有鮑彪識語、李文叔王覺跋、又有嘉靖壬子吳郡杜詩梓記、此本亦取源於宋本者、每卷有口霜亭圖書記印、卷末有含香閣印、

又元槧本 昌平學藏

卷首有至正十五年六月牒、劉會二序、吳師道識語、鮑彪序并校語、泰定二年吳師道序、至正十五年陳祖

仁序及目錄、校正凡例、卷首題戰國策西周卷第一、縉雲鮑彪校注、東陽吳師道重校、每半板十一行、行二十字、左右雙邊、烏絲外標題、注中正日補日二字皆白文摸出、四五兩卷末有至正乙巳前藍山書院山長劉鏞重校勘記、每卷有通庵藏書印、冊皮上有魏氏家藏念介記印、

又明正德丁卯刊本 容安書院藏

此依前本重刊者、卷首體例一與前本同、但卷中誤字不少、然吳氏校本以此爲第二等而可也、此本係根本伯修舊藏、

又明嘉靖元年刊本 懷仙樓藏

首有嘉靖改元王廷相子衡序、劉序、曾序、鮑序、吳序、王覺題辭、陳祖仁序、紹興四年耿延禧百順序、卷首題戰國策卷第一、西周安王、每半板口行、行二十字、此本刪注文最爲劣等、

貞觀政要十卷 影舊鈔本 求古樓藏

卷末有本云安元三年二月五日奉授主上既訖、正三

位行宮內卿兼式部大輔播磨權守藤原朝臣永範記、永久三年仲春二十五日良兼記、及建久五年匠作員外尹藤孝範、建保四年文章得業生經範、嘉祿三年刑部權少輔經範、建長三年三品李部大卿、六年三品吏部大卿經範各記、每半葉七行、行十七字、界長七寸四分、幅七分半、

又影舊鈔本 容安書院藏

前有吳兢上表、卷首題貞觀政要卷第一、史臣吳兢撰、卷二末有建保四年、嘉祿元年、貞應三年、安貞二年、嘉禎四年、仁治三年、弘長二年、永仁五年七年、永祿三年菅氏歷世題記、卷九末有永仁四年、永祿三年菅家記、又有文化六年六月廿三廿四兩日齋中寫、同月廿七日一校終、口者爲藤長親卿花押、此本影寫長親卿手鈔本者、蓋原本卷軸改爲冊子也、

按、已上二通以玉海所載目錄及元戈直本校之、體式大異、蓋皇國博士家所傳舊物、爲唐時真本也、臥雲日件錄載菅原爲長卿以假字譯此書、其本今猶傳世、

以此二本校之大同小異、

又僧日蓮手書本 駿河國本門寺藏

未見、

又明成化元年刊本 昌平學藏

首有成化元年八月御製序、至順四年郭思貞集論題辭、及臨川戈直題辭、吳氏舊序集論、諸儒姓氏、戈直集論、吳序首署唐衛尉少卿兼脩國史修文館學士吳兢撰、卷首題貞觀政要卷第一、次行列書篇目、每半板十行、行二十字、

又慶長五年活字刊本 (靜節山房藏)

慶長五年前龍山見鹿苑承兌更奉神祖教校刊、卷末有承兌更跋、及慈眼久德刊之記、此本係依前本重刊者、

傳記類

晏子春秋八卷明成化間刊本 懷仙樓藏

首有篇目及劉向序、卷首題晏子春秋內篇諫上第一凡二十五章、次行列書篇目、題莊公矜勇力不顧行義

晏子諫第一、每半板九行、行十八字、界長五寸四分強、幅三寸八分、左右雙邊、竹陰書屋藏、根本遜志手書本即傳鈔此本者、

古列女傳七卷、續列女傳一卷清刊覆宋本

道光乙酉阮福翻雕宋建安余氏勤有堂刊本者、又有嘉慶中顧之遠本、亦依宋重刊、未附攷證一卷、

唐才子傳十卷舊版本 求古樓藏 (靜節山房藏)

首有目錄、卷端題唐才子傳卷第一、西域辛文房撰、每半板十二行、行二十二字、左右雙邊、界長七寸、幅五寸、卷末朱書文安己巳六月十八日申刻於瑞松西窻朱點終、即知此本為應永前後所刊、卷首有善慧軒印記、

史鈔類

三國志詳節口卷宋槧本 求古樓藏 (靜節山房藏)

卷首題東萊先生標註三國志詳節卷之一、每半板口行、行二十口字、界長五寸二分、幅口寸口分、左右雙邊、

唐書詳節口卷宋槧本 竹陰書屋藏

未見、

載記類

吳越春秋十卷舊鈔卷子本 毛利侯藏

未見、

又明刊本 求古樓藏

此係嘉靖萬曆間刊本、首有元人徐天祐序、云、越舊嘗侵梓歲久不復存、汴梁劉侯來治越、獎勵學校、蒐遺文修墜典、乃輟義田廩羨財重刻、于學不鄙諛聞、屬以考訂、且命序其左端、厥既刊正疑訛過不自量、復爲之音注併考其傳記、同異者附見于下而互存之、侯名克昌、世大其字云、末記郡人前進士徐天祐受之序、蓋依元槧重雕者、

安南志略十九卷清人鈔本 羽倉用九藏

元黎則撰、此本繕寫精好、點校詳密、攷題跋校語爲嘉慶中黃堯圃丕烈、從五硯樓本所傳鈔、標記題籤亦係堯圃真蹟、冊上題云、黎則安南志略存十九卷、從

五硯樓藏胡茨村抄本、錢少詹假讀手校本傳錄求古居藏、卷首有士禮居精校書籍印記、

黃氏手題曰、是書原本爲胡茨村藏書、余所藏他書亦有胡茨村印記、必好書之人矣、頃友人攜徐昂發詩抄本、中有題胡茨村畫像二首、急錄之以著其人之時代、并識茨村果好書者、云、金泥小字刻牙籤、連屋書囊當畫鞵、盡日細繙黃白本、始知間味十分甜、銀魚焚却幾經春、種竹開池寄此身、臆外碧雲高百尺、此君清態最宜人、前一首可見校書之勤、後一首可想間居之樂、令人企慕無已、惜姓名罕傳于世、賴所藏書及贈詩人以見之、亦危矣哉復翁、

又手跋曰、此安南志略存十九卷、未向爲胡茨村藏抄本余姻家袁壽階得之、錢少詹曾借讀一過、用硃墨兩筆手校并加句讀、奈舊多訛脫、胡句讀未全、余從袁本倩手傳錄、兼臨校語復自爲、依樣點定誠希有之本也、惟是行款原本參差不齊、并有錯簡、玆行款改爲整齊畫一錯簡、亦依少詹手校者更正讀畢、誌其原

委如此、壬申芒種後一日復翁識、

又曰、八月中秋後一日、吳春生訪參見此本、五硯樓舊藏者為有少詹手跡存欲易之、因舉以畀之、余遂留此副本以備觀覽、少詹於庚戌年以致仕大員入京祝嘏、其年適逢安南國王阮光平新冊入覲、故少詹以此備掌、故借讀于五硯樓、跋云、庚戌七月者是年為純皇帝八旬萬壽祝嘏者、先期就道所以跋云、時在任城舟次也、復翁又記、

地理類

水經四十卷明嘉靖甲午刊本 懷仙樓藏

首有嘉靖甲午黃省曾刻水經序及目錄、卷首題水經卷第一、漢桑欽撰、後魏酈道元注、每半板十二行、行二十四字、

太平寰宇記殘本六イ卷宋槧本 楓山官庫藏

「未見」

「前有樂史序一紙存、又一百一十三至一百一十八六卷、光緒癸未楊守敬在日本東京之日影刻、以收於古

逸叢書中、其他存佚卷數、一一詳錄有卷末、蓋人間未見之書、往往行於世者亦有數、而非偶然也、リ、リ、リ新編方輿勝覽七十卷元槧本 寶素堂藏 (靜節山房藏)

首有嘉熙己亥新安呂午序及目錄、卷首題建安祝穆和父編、每半板十四行、行二十五字、卷中標目併二行大書、此本係太醫和氣氏舊藏、冊皮有通仙院押字、某氏又藏元槧本、與此板式自別、卷端頁頭題日新書堂新刊六字、

職官類

唐六典三十卷明正德乙亥刊本 寶素堂藏

首有正德乙亥王鏊重刊序、卷首題大唐六典三師三公尚書都省卷第一、次行記御撰二字、次行署集賢院學士兵部尚書兼中書令修國史上柱國臣李林甫等奉勅注上、第三十卷末有紹興四年歲次甲寅七月戊申朔左文林郎充溫州州學教授張希亮校正、右宣教郎知溫州永嘉縣主簿勸農公事詹棫題誌、每半板十二行、行二十字、注雙行、界長六寸一分、幅四寸四分、

致板式蓋依宋刻重刊者、

又明嘉靖甲辰刊本 寶素堂藏

體式總同前本、每半板十一行、行二十字、注雙行、卷末詹棫題誌後有嘉靖甲辰長至浙江按察司校錄重刻記、卷首有松陵莊氏珍藏書書記、江左莊士、漆園後裔三印、

按、此本依王鏊本重刊、間加校改、□□中豫樂藤公依正德本重刊、以此本及諸書校訂行世、其板今尙在公家、如清掃葉山房刊本則脫誤宏多、不若是等本之佳、

政書類

通典二百卷北宋槧本 楓山官庫藏

北宋槧本字畫楷正、卷百至卷二百闕逸、舊人補鈔紙墨奇古、每卷有經筵印、高麗國十四葉印、

又明嘉靖間刊本

又朝鮮國活字刊本 尾藩藏

但未見、

唐律疏議三十卷元槧本 楓山官庫藏

元至正十一年崇化余志安勳有堂刊本、紙刻陋劣、蓋元代坊本也、每卷有姑蘇吳岫家藏印記、

文獻通考三百四十八卷明初刊本 求古樓藏
每半板十三行、行二十六字、致板式疑重修元板者、每卷首有常山藏書印、

又朝鮮國銅字活板本 楓山官庫藏

卷端副葉題嘉靖三十七年十一月內賜弘文館直提學尹毅中文獻通考一件命除謝恩左副承旨臣沈押、卷首有宣賜之記印、卷百二十六至卷百三十七缺、享保中補鈔、

目錄類

史略六卷宋槧本 昌平學藏

宋高似孫撰、首有寶慶元年自序、卷一述史記、卷二述兩漢書、三國志、至晉宋齊梁陳後魏北齊後周隋唐五代志、卷三述東觀漢紀、歷代春秋、歷代紀實錄、起居注唐左右螭坳書事、延英殿時政イナシ「時政」記、唐曆

會要玉牒、卷四述史典、史表、史略、史鈔、史評、史贊、史草、史例、史目、通史、通鑑、通鑑參據書、卷五述霸史、雜史、七略、中書、古書、東漢以來書考、歷代史官目、劉勰論史、卷六述山海經、世本三蒼漢官水經、竹書、每半板十行、行二十字、界長六寸六分、幅四寸六分、

按、高氏又著子略四卷、四庫全書總目載之、而不言別有史略之著、蓋彼士蚤已亡逸耳、此書文辭簡約而引據精覈、多載逸書、實為讀史家不可闕之書矣、

史評類

唐鑑音注二十四卷 朝鮮國活字刊本 求古樓藏

首有弘治十年昆陵白昂序、稱、吾邑令呂君得此書於秋官徐君、朝文欲以繡諸梓、邑之大學士楊伯川富而好禮、乃損貲以成之、置之家塾云云、

安政四年丁巳閏五月十又九日校讎一過畢 稷庭石士森約之

經籍訪古志卷第二終

經籍訪古志卷第四

子部上

儒家類

孔子家語十卷 明崇禎中汲古閣仿宋刊本 (靜節山房藏)

魏王肅注、首有王肅序及篇目、末有後序及孔安國傳、述孔氏世系、集錄家語顛末、結以孔衍上書、每半板九行、行十七字、注雙行二十五字、毛晉跋詳言得北宋板二部影摸上木之事、又附何孟春跋文、按、是書又有活字刊本、明永懷堂刊本、俱不如毛本之佳、

標題句解孔子家語六卷 朝鮮國刊本 容安書院藏 (靜節山房藏)

元王廣謀撰、首有目錄、卷首題新刊標題孔子家語句解卷之一、猷堂王廣謀景猷句解、每半板十二行、行二十二字、注雙行、上有層欄、標題事要、開求誨堂藏

元稹零本疑此本所原、

又三卷 舊鈔本 足利學藏

每半葉十二行、行二十三字、末附素王事紀、孔子廟祀、卷末記永正乙亥仲春日寄進藤原憲房、近藤守重云、憲房者安房守憲實孫、永正十二年任管領、跋稱乙亥即十二年也、予嘗觀元時刊本、當此鈔所原、按、慶長四年本學三要奉神祖命校刊、是書以此本為原、又朝鮮國活字刊本 容安書院藏

目錄及卷首一葉缺、上卷末題標題句解孔子家語卷上、卷末有後序及孔安國傳、末附新刊素王事紀一卷、孔子廟式目錄、末記泰定甲子秋蒼巖書院刊行、下卷末記延祐丁巳陳實夫刻于精一書舍、

荀子二十卷 宋槧大字本 求古樓藏

唐楊倞注、首有荀子注序、次新目錄接序後、每卷首題荀子卷第幾、登仕郎守大理評事楊倞注、卷末有劉向校正目錄上言、又有王子韶同校、呂夏卿重校銜名、及熙寧元年國子監劄子官銜十五名、又有淳熙八

年唐仲友後序、每半板八行、每行字數不整、注雙行、界長七寸六分、幅五寸七分半、左右雙邊、每卷有金澤文庫印、印文肥寬異所經見、殆文庫火前物與、惺窩先生題籤亦希觀之珍云、

狩谷望之手跋云、右宋槧荀子為淳熙八年唐仲友所刻、字大如錢、書法全撫歐陽朱熹、按、唐仲友狀云、據蔣輝供元是明州百姓、淳熙四年六月內因同已斷配人方百二等偽造官會事發蒙臨安府、府院將輝斷配台州牢城、差在都酒務着役月糧、雇本州住人周立代役、每日開書籍供養、去年三月內唐仲友叫上、輝就公使庫開雕楊子荀子等印板、輝共王定等一十八人在局開雕者是本也、板心下方所題、皆是劄劄氏之姓名、蔣輝以下都十九名、與朱熹按狀所言共王定以下十八人之語合、余始讀朱熹集得詳唐仲友刻荀子事喜甚、獨怪是不良人為是好事、謂不可以其罪廢其人也、後讀齊東野語知其詆排之非至論、今又得四庫全書總目二則足為仲友吐氣、今並錄以備考、近年舶來

盧文昭校本荀子云、以影宋本校、今以是本比讐之、失校之字不為不多、則彼所校猶未精歟、將所謂影宋本有落頁歟、然則是本豈不貴而重之乎、且是問北宋刊本傳世無幾、如余所見不過小字御注孝經文中子通典聖惠方諸書、而是本翻雕熙寧官板者、則其實與北宋本無異、實希世之寶典也、余齋所藏南宋本中當以是為第一也、吾家子孫宜保護之、文政五年十一月、

纂圖互注荀子二十卷元槧本 求古樓藏

未見、求古樓又藏閩刊本、卷首有拱翠齋及松屏書庫印、

鹽鐵論十卷明弘治辛酉刊本 寶素堂藏 〔靜節山房藏〕

首有弘治十四年歲在辛酉十月朔日吳郡都穆書新刊鹽鐵論一篇、稱新淦涂禎手校、是書仍指倬刻之云云、次載目錄、卷首題鹽鐵論卷第一、次行題漢桓寬撰、次行列篇目、第二卷以下無桓氏題名一行、每半板九行、行十八字、界長六寸三分、幅四寸、每冊首有

冷泉府書朱印、乃係藤惺窩先生舊藏、

又十二卷明嘉靖甲寅刊本 求古樓藏〔青歸書屋亦藏此本、而先年歸約之手、〕

明張之象注、首有嘉靖癸丑張之象序、卷端題漢汝南桓寬撰、明雲間張之象註、卷末有嘉靖甲寅春張氏猗蘭堂梓行木記、

新序十卷明嘉靖丁未何良俊刊本 寶素堂藏

首有嘉靖丁未何良俊重刻說苑新序、序即與說苑合刻者、目錄後有曾鞏校上記、蓋做劉向校上古書舊矩、而清臣校四庫全書亦依此例、俗本認題為序非也、每半板十行、行二十字、界長六寸六分、幅四寸八分、卷端有南畝文庫印、標題題籤亦南畝翁手筆也、求古樓又藏一本、板式與此恰似、卷首有燕超堂書畫印記、

又朝鮮國刊本 求古樓藏

體式略與前本同、每半板十一行、行十八字、界長六寸四分、幅五寸二分、每冊首韓人墨書云、正德二年丁卯夏尙州南場都會四月初一使製詩賦三上受賞、

〔李義之、〕

說苑二十卷舊板覆宋本 崇蘭館藏

未見、

又明永樂丙申刊本 求古樓藏

第十一卷以下闕、卷首曾鞏序、目錄、後劉向校語云、號曰新苑、每半板十三行、行二十四字、會序八行、行十七字、目錄末有永樂丙孟春西園精舍新刊木記、序首有嘉靖丙辰、尹春年藏、贈尹希定三印、

纂圖互註楊氏法言十卷元槧本 求古樓藏

卷首有易山崔氏印、及光□□印、又有吉氏家藏印、

又明代覆元刊本 懷仙樓藏

首有宋咸序、及景祐四年宋咸進重廣註楊子法言表、元豐四年司馬溫公註楊子序、篇目渾儀圖、五聲十二律圖、卷首題纂圖互註楊子法言卷第一、晉李軌唐柳宗元註、聖宋宋咸吳祕司馬光重添註、每卷末題楊子法言卷第幾、不冠纂圖互註四字、每半板十一行、行二十一字、注二十五字、界長五寸七分至六寸六分、

幅三寸九分、四周雙邊、烏絲〔標〕、外標題或有或無、注

中凡重言重意、互註皆以白字為識別、宋序後有識語

云、本宅今將□監本□□四子纂圖互註附入重言重

意精加校正、茲無訛謬、贍作大字刊行、務令學者得

以參考互相發明、誠為益之大也、建安□□□謹咨、

中說十卷宋槧本 求古樓藏

前有文中子中說序、序後本文題中說卷第一王遵篇、

阮逸注、卷中慎字闕筆、蓋孝宗時刻本、然字樣古雅、

絕與宋本玄宗注孝經相似、疑翻雕北宋本者、每半板

十□行、行二十五六字、界長五寸五分、幅□寸□分、

左右雙邊、卷首經筵印、卷末有高麗國十四葉印、

又元槧本 求古樓藏

體式略與前本同、每半板十□行、行十八字、卷首有岡氏家藏□裕記、又有村為紀印、子剛印、及賞顏齋寶藏子孫永保印、按、昌平學藏翻刻元刊本、每半板十一行、行十八字、界長五寸八分、幅三寸八分、四周雙邊、恐以此本為原、

又國刊本 懷仙樓藏

首有文中子中說序、次篇目、世系、題文中子纂事河汾肆子王壬、次年表、卷端體式亦與前本同、但注字作註、每半板十二行、行二十六字、注雙行、界長六寸五六分至六寸七八分、幅四寸二分、四周雙邊、

又朝鮮國銅字活板本 懷仙樓藏

首有文中子說序及篇目、卷首題中說卷第一、次行題王道篇、阮逸註、此三字卷六卷七卷十在初行中說卷第幾下、末題中說卷第十終、細字、每半板十二行、行十九字、界長七寸、幅四寸八分半、四周雙邊、

帝範二卷舊鈔卷子本 高野山藏

卷首題帝範序、御製序、後本文題帝範上、次行列書篇目、每行界長七寸七分、幅八分半、行十三字、注雙行、卷末不記鈔校時月、攷紙質字樣常是五百年外書本、此本寶素堂影摸傳藏、

臣軌二卷舊鈔本 楓山官庫藏

首題臣軌序御撰、鄭州陽武縣臣王德纂注、上卷末記

垂拱元年撰、又記臣德纂述曰、其臣範中所引正經及子史者、其正經之義則皆取先儒舊注、不敢更生異見、其史之義則唯取河上公焉、餘皆出自愚心、亦不師祖往說矣、又引江本云、臣軌既是御撰、妙極謔古垂範千載作鏡、百僚既為臣之令模、迺事君之要道宜誦登於口誠藏於心、東髮舛魯庶多弘益、長安四年三述四日、江都縣孫祥記、

帝範二卷、臣軌二卷舊鈔本 求古樓藏

體式並與前本同、臣軌卷首記云、臣一本作愚一部內皆同、則天后用此臣字、又題銜御撰、上有天后二字、傍小書二字、皆本無、帝範末有文永弘安文明天正各記、臣軌末有天正二年從三位清原枝賢跋、及建德二年元龜二年舊跋、

又舊鈔本 林祭酒藏

臣軌二卷舊鈔本 京師鈴鹿河內守藏

俱未見、

群書治要五十卷舊鈔卷子本 楓山官庫藏

近思錄十四卷宋槧本 昌平學藏

又明嘉靖間刊本 某氏藏

朱子語類一百四十卷元末初刊本 昌平學藏
俱未見、

兵家類

魏武帝註孫子三卷天正八年鈔本 容安書院藏

此冊為胡蝶裝用、烏子紙表裏俱書、每半葉九行、行十七字、界長八寸、幅六寸強、卷末有天正八年宗傳書記、卷首有法輪寺常住印、萬海印、及山城州西京妙心禪寺內西河院印、此本係市野光彥舊物、

孫子十一家注口卷朝鮮國活字刊本 楓山官庫藏

卷首副葉題萬曆五年十月日內賜京畿觀察使尹根孫子一件命除謝恩都承旨臣尹押字、
官庫又儲韓板活字本一通、卷末記永樂七年四月日印、每卷首有東林印、此二本俱有宣賜之記印、

黃石公三略三卷舊鈔本 容安書院藏

卷首題黃石公三略卷之上、每半葉九行、行二十字、

卷首題群書治要序、祕書監鉅鹿男臣魏徵等奉勅撰、界欄長六寸九分、幅八分、每張二十行、行十三字至十四五字、每卷末有建長、康元、正喜、正元、文應、建治、嘉元、德治、延慶、文永間、清原教隆、降重、賴業、及藤原經雄、俊國、敦周、敦綱、敦經等校點記、又有文永中越後守顯時書寫校點記、嘉元中越後守貞顯書寫重校記、俱係親筆題署、每卷首尾有金澤文庫印記、
按

小學書六卷活字刊本 求古樓藏

宋朱子撰、諸家注釋、是書者概刪去朱子本注、明代陋儒竄亂、古書往往如此、山崎闇齋嘗痛真本失傳、鈔出本注于集成中以刊行此本、承應二年所刊尙為朱子原書、憾闇齋之偶不及見焉、

小學書零本一卷元槧本 某氏藏

現存第二卷十五張餘、每半板十四行、行二十一字、本注後有增注、界上層欄揭標注、首尾斷缺、校訂名氏復不可攷矣、

界長六寸三分半、幅五寸、卷末有元龜元年制心源藏
主記、文祿二年源阿彌記、及以清家正本校正記、

又舊鈔本 容安書院藏

卷首體式與前本同、每半葉八行、行十六字、界長六
寸四分、幅五寸一分、卷末有慶長七年寂清記、標背
有金剛佛子文識房七字、

又慶長五年活字刊本

此係慶長五年足利學元信奉神祖命用字印活行、每
半板八行、行十七字、末有元信跋、

七書口卷慶長十一年活字刊本〔靜節山房藏〕

慶長十一年元信奉教活字印行、板式與前三略同、末
亦有元信跋、近藤正齋云、當時單本七書不傳、此本
就序跋攷之、蓋從施氏講義錄出者、世又傳整板本、
即覆刻此本者、又有舊板加點本、及萬治二年刊本、
俱係坊刻、

施氏七書講義四十二卷舊鈔本 足利學藏

宋施子美撰、首有同郡江伯虎序、及武學上舍施氏七

書講義目錄、卷末有天正四年校訂識語、

又活字刊本 懷仙樓藏

體式與前本同、此本疑取源於朝鮮本者、又有元祿中
刊本、乃依此本、

施氏孫子講義零本一卷舊鈔卷子本

現存第九一卷、卷首題施氏孫子講義卷第九、次行九
地、界長七寸四分、幅七分強、每行十五字、攷紙質墨
色當四百年外舊鈔、背記杜牧注一篇全存、校之十家
注本頗有異同、

法家類

韓非子二十卷清刊覆宋本

清嘉慶中顧廣圻翻雕宋乾道本、末附譚誤三卷、

棠陰比事二卷朝鮮國刊本 懷仙樓藏

未見、

洗冤錄一卷明刊本 寶素堂藏

梁衆庭立記開曰、洗冤錄不知何人所作、今刻本不題
姓名、錢竹汀云、曾見宋槧本朝散大夫新除直祕閣湖

南提刑充大使行府參議官宋慈惠父編、有淳祐丁未
嘉平節前十日自序、宋史藝文志不載、慈里居亦未
詳、官司檢驗至今奉爲金科玉律、但屢經翻刻不免後
人增改、此本起條令終驗狀說凡五十四篇、首有自
序、卷端題衝一與錢氏之言符、試校之今行諸本篇第
文句大異、知今本頗經後來增損、而此尚不失宋氏舊
面者、但卷首載頒降新例六條、又篇中有据平冤無冤
二書附錄者、並元代重刊所增也、

新注無冤錄二卷舊鈔本 寶素堂藏

首有至大改元王與序、洪武十七年羊角山叟序、正統
三年朝鮮柳義孫序及目錄、大板大字、每半板十一
行、行二十三字、末有庚申正月朝鮮崔萬理等跋、蓋
從朝鮮國本傳鈔者、卷首有江雲渭樹道春二印記、知
係林氏舊物、

農家類

齊民要術零本三卷北宋槧本 高山寺藏

現存五八兩卷及卷一零殘二張、每卷首題齊民要術

卷第幾、後魏高陽太守賈思勰撰、次列卷中篇目、每

半板八行、行十七字、注雙行、行二十五字、竟玄通等
字闕末筆、第八卷題籤匡、郭長五寸一分、幅一寸七
分、四周雙邊、內大書齊民要術卷第八七字、實爲當
時裝潢之舊、每卷首有高山寺朱印、

按、是書善本至稀、世所傳毛晉刊本誤脫滿紙、殆不可

快讀、以此本校之、當據以補正者甚多、如一卷首周

書曰神農之時天雨粟一條、此本小書夾注、毛本大書

却失舊裁、讀書敏求記載嘉靖甲申湖湘刊本、周書曰一五卷桑

柘篇毛本脫一張、此本完具、其他可訂正誤謬者亦

多、攷紹興甲子葛祐之刊、是書後序有曰、此書乃天

聖中崇文院板本、非朝廷要人不可得、今此本通字

闕末筆、知是天聖官刊、在當時既爲罕觀之冊、豈可

不貴重乎、

齊民要術十卷舊鈔卷子本 尾張眞福寺藏

缺第三一卷、體式總與前本合、宋諱闕筆亦同前本、
知是取原於宋本者、卷末有寶治二年典藥權助和氣

種成記、及仁安元年、建治二年書寫校正各記、此本背有北條氏文書、和丹名醫注進藥方狀及消息數通、蓋翻用故紙鈔寫者、每卷有金澤文庫印記、

按、高山寺宋本僅存二卷、其他無聞、此本當補其缺、併得訂正今本之誤脫、則雖非宋刻原書亦可貴重矣、又按、舊鈔卷子諸本概取原於隋唐古本、既辨子問有依宋槧傳鈔、裝為卷軸者、如此書及孫子講義之類是也、蓋當時傳書謹重、至裝潢之事能守舊式、故雖依宋鈔不輒做其制裝為冊子、亦可窺昔時尊重典籍之一端耳、

農桑輯要七卷明初刊本 寶素堂藏

未見、

天文算法類

大唐陰陽書零本二卷天文十一年鈔本 寶素堂藏

現存卅二冊三兩卷、末記借修理大夫安倍有春本書寫、天文十一年閏三月廿六日、清侍從三位入道宗尤、又記嘉曆二年丁卯書寫、此書兩卷以陰陽頭兼曆博

士、從五位下賀茂保憲朝臣本所傳也、每半葉七行、字數不等、界長七寸七分、幅六寸一分、

按、現在書目載新撰陰陽書五十卷呂才撰、舊唐書無新唐書作五十三卷、蓋即此書也、此本僅二卷、就跋文攷之、蓋曆家抄撮、其便日用者、以為傳授之祕奧、殆非全帙舊面也、然世久失傳、雖零殘不完、亦足為珍云、

又舊鈔本 溫故堂藏

未見、

續古摘奇算法三卷朝鮮國刊本 懷仙樓藏

宋楊輝撰、此本體式具存楊氏舊觀、如長塘鮑氏刊本、縮寫尺樣殆不足據矣、

術數類

太玄經十卷明代覆宋本 松崎氏石經山房藏 （靜節山房藏）

卷首題晉范望字叔明解贊、末附說玄五篇、釋文一卷、述玄一篇、說玄末題右迪功郎充兩浙東路提舉茶鹽司幹辦公事張寔校勘、每半面八行、行十七字、字大如錢、筆畫端正、玄貞等字闕筆、板心有萬玉堂三

字、審是明代覆刻宋本也、每卷有傳是樓印、知清康熙間健庵徐尚書舊藏、往歲小島學古見吳舶備來書目、于名山堂中有此本、仍囑堂名徵求、無幾郵來、俾懷老購之云、

又明嘉靖甲申都梁刊本 求古樓藏

卷首題太玄經第一、晉范望叔明解贊、明郝梁子高校刊、每半板十行、行十八字、界長五寸六七分、幅四寸一分、說玄已下附刻同前本、卷末有嘉靖甲申江都郝梁跋稱、太玄經近世鮮有重刊者、予得有宋善本於建業黃氏、即命工刊之云云、則此本亦原宋本 （朱玄貞等字缺筆）也、卷端副葉題云、漢楊子一經自晉朝范叔明作註解、明朝郝子高校刊、是書明板已蝕書幾無存、甚至不傳真儒罕觀、即藏書一二蟲蛀雖堪覽者、厭棄闕文獨此集珍之最久、為儒林一祕寶矣、珍之珍之、長邑馬大倫并識行草秀勁撫文衡山、又有謝道承印、古某翰墨二印、致杭世駿榕城詩話、謝編修道承字又紹、別號古梅、閩縣人、釋褐後謁文廟賦詩云云、即是人

也、（朱懷仙樓亦藏此本矣）

靈樞經一卷 舊鈔本 求古樓藏

卷首題靈樞經晉襄城道人法味傳晉駕部郎中顏幼明注、御史中丞何承天箋法琅邪王灌著、卦名漢留侯張良受此法于黃石公、初以占行軍、末有後序、記上黨紫團叟韓運休述、無界欄、每半葉六行、行十七字、注雙行、

五行大義五卷舊鈔卷子本 粟田青蓮院藏

卷端首行題五行大義序、次行署上儀同三司城陽郡開國公蕭吉撰、界長八寸七分、幅九分、每行十六七字、筆畫雅古、多用六朝俗字、審是七百年外舊鈔也、每卷背記滿紙引用諸書、如玉篇切韻、東宮切韻、陸法言長孫訥言孫儻郭知玄韓知十麻杲等韻書、近世失傳者得藉以窺逸文、實罕觀之祕笈也、每卷末有元弘三年癸酉閏二月廿五日相傳畢智圓記、元弘三年乃正見元祿本跋中、及雪下頓覺坊常住記、卷首有雪下山相承院朱印、按、相承院在鎌倉、致鶴岡社僧次第載相承院頓

覺坊者、南谷第三坊地社務職、自良喜律師至智圓七代相傳、元弘三年閏二月十五日智圓得猷全之讓、貞治五年丙午九月廿五日逝去、歲八十一是也、此卷昔時傳在鎌倉、而後入大和壽命院、往歲法親王為天台座主兼攝談峯時所移置云、

又粘葉古鈔本 高野山藏

體式同前本、每半葉七行、行十七字、卷末有寶治二年九月中旬校點記、第五一卷寶素堂影摹傳錄、餘卷未見、

譜錄類

宣和博古圖二十卷元槧本 求古樓藏

卷首題至大重修宣和博古圖錄、按、讀書敏求記云、是書雕造精工字法俱撫歐陽、乃當時名手所書、非草草付諸剞劂者、此本書法圖式精善、一與錢氏之言符、蓋即元印宋板也、卷端題目一行當是元人妄改者、聞不忍文庫又藏元板、不知與此同種否、

雜家類

墨子十五卷明刊藍搨本 求古樓藏

明嘉靖壬子歲中元乙未芝城銅板活字本、吉漢官校刊活字本以此本為原、

又明刊本 懷仙樓藏〔靜節山房藏〕

此本乃今本所原、卷首有貞烈後人、草間逋隱、庚午進士、丙子秋文科游戲翰墨、礪城人宋象賢德求章數印、蓋係韓人印記、簽題隸字亦韓人書也、

又明萬曆刊本 容安書院藏

首有丁丑夏日潛庵子志語、板心上題萬曆四年五年刊、下有剞劂姓名及字數、每半板十行、行二十一字、此本不分卷數、裝釘為三冊、殆屬俗本、

呂氏春秋二十六卷明弘治十一年刊本 昌平學藏

首有呂氏春秋序高誘撰、次總目、卷首題呂氏春秋卷第一孟春紀第一本生重己貴公去私呂氏春秋訓解高氏、每半板十行、行十八字、界長六寸七分、幅四寸四分、四周雙邊、板心上方舉大小字數、下方記刻手名氏、卷末題弘治十一年秋河南開封府許州重刊、卷首

有高平隆長印、

又明嘉靖戊子刊本 求古樓藏

每半板十行、行十八字、界長五寸八分、幅四寸二分、首有嘉靖戊子許宗魯序、

又明萬曆己卯刊本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

目錄末載重刊姓名、又有萬曆己卯孟夏梓於維揚資政左室記、按清嘉慶中畢沅校刊、此書引用至多、獨不及此本、豈此本彼土所逸歟、否則當時偶未之見也、淮南子二十一卷朝鮮國刊本 楓山官庫藏

未見、

右雜學

演繁露十六卷、續演繁露十六卷明嘉靖刊本 楓山官庫藏

明嘉靖間刊本、每卷首有梅溪精舍玉蘭堂辛夷館印記、知為文衡山舊物、又有季振宜藏書、古吳王氏、林昌純印數印、

野客叢書三十卷明刊本 求古樓藏

未見、

狩谷望之手跋曰、余嘗好讀宋人說部、無若野客叢書

博洽精核者、吾邦舊有刻本、蓋翻彫陳氏祕笈中所收也、如夫祕笈非獲諸善本而彙刻者、如此書亦刪略殆半、至今初學者終不得見其全、豈不哀哉、此本王懋十世孫穀祥、以諸家藏本校正、其家所藏宋鈔本以錢梓也、穀祥跋云、嘗辱文徵明陸師道袁尊尼、前後警校再三、又每卷銜書人刻手之名、此非草草附梓之類也、後之獲是書者、勿以坊間俗本視之、文化甲戌年二月掖齋狩谷望之志、

又曰、是本每卷有小野節家藏書、及宜爾子孫之圖章、知竹洞先生之舊藏也、丙子七夕暴此書因記之、望之、

困學記聞二十卷元槧本 求古樓藏

首有至治二年秋八月壬辰隆山牟應龍序、卷末記孫厚孫寧孫校、正慶元路儒學學正胡禾監刊、又有泰定二年陸之敘、每半板十行、行十八字、界長七寸一分、幅四寸三分、四周雙邊、

右雜考

論衡三十卷宋槧本 求古樓藏

卷端題論衡卷第一王充、次列書篇目、每半板十行、行十九字至二十一字、界長七寸一分、幅五寸、左右雙邊、板心記刻手名氏、文字遒勁筆畫端正、絕有顏公筆法、加之鐫刻鮮明紙質淨緻、墨光煥發若法帖然、實宋槧之絕佳者、卷中如完慎貞桓徵匡朗竟恆讓玄殷弘照照構敬樹等字皆闕末筆、累害篇夫如是市虎之訛云云、一張諸本並脫、唯此本歸然獨存、當補其闕尤為可珍、第二十六卷至終闕逸、

又明刊本 求古樓藏

首有目錄、卷端體式一與前本同、蓋依宋本刊者、每半板十行、行二十字、界長六寸四分、幅四寸七分、板心有通津草堂四字、卷末題曰周慈寫、致嘉靖中袁駿刻本六家文選亦題周慈寫、則知此本亦嘉靖間所刊也、累害篇內一張此本脫之、蓋其所據本亦偶逸此一張文句、不屬故意、增一毫字以接前後、程榮已下諸

本泓而不改、遂致不可讀、此本作之備也、

風俗通義十卷明修元大德刊本 求古樓藏

未見、

冷齋夜話十卷舊板本 求古樓藏

卷首題福山西藏主寮公用、卷末記應永七庚辰置之、

游宦紀聞十卷宋槧本 昌平學藏

宋嘉定中鄱陽張世南述、末有紹定壬辰李發先跋、每半板十行、行十八字、左右雙邊、界長五寸七分、幅四寸一分、欄外有玉雲常住、及玉雲庵常住等記、

鶴林玉露十六卷朝鮮國活字刊本 容安書院藏

宋廬陵羅大經景綸著、通行本凡九卷、與此分卷不同、每半板十二行、行二十字、界長七寸五分、幅五寸、卷首有天麓後人、尙震起夫、泛虛亭數印、俱係韓人圖記、

右雜說

居家必用事類全集零本二卷元槧本 寶素堂藏

現存壬癸二集二卷、每集首有目錄、每半板十三行、

行二十二字、界長五寸二分、幅三寸九分、卷中標目併二行大書、

居家必用事類全集十卷舊板大字本 京師三角氏藏

未見、

又明刊本 半條堂藏 (靜節山房藏)

每集首有目錄、無序及跋文、每卷首題居家必用事類全集、次行題某集、每半板九行、行十六字、卷中標目白文摸出、攻板式當嘉靖間刊本、每卷有淺草文庫、如春□□軒數印、

右雜品

事實類苑□□卷元和七年銅板活字本

元和七年六月勅鑄造銅字數萬、刷印是書賜幕府及公卿諸臣、即此本也、目錄標題麻沙新雕皇朝類苑目錄、末記紹興二十三年癸酉歲中元日麻沙書坊印行、蓋紹興麻沙本為原也、每半板十三行、行二十字、界長六寸六分、幅五寸八分、四周雙邊、卷末有元和七年前南禪寺僧瑞保跋、

右雜纂

百川學海一百□□□卷宋槧本 求古樓藏

首有左圭自序、序末記昭陽作歷古鄆山人左圭禹錫、按昭陽作歷即成淳九年癸酉也、及標目、每半板十二行、行二十字、界長五寸八分、幅四寸二分、左右雙邊、貞徵殷匡完恆敦桓等字闕筆、每卷首題名越花谷慈恩禪寺公用十字、

符谷望之手跋曰、百川學海宋左圭所輯為叢書中之冠冕、今世所存弘治十四年華理刻本稱最善、然既經錢福之遺易左氏之面目不可復見之、此本咸淳九年所刻乃左圭原本也、舊天龍寺鐵山和尙之藏、近歸于我架中、從來缺失五冊、今依華本補鈔焉、第三冊冊目者、即和尙之筆痕也、每卷首題云、名越花谷慈恩禪寺公用、寺為鎌倉名利、志云足利直冬所勅建、今廢、按、應永戊戌五山諸僧題慈恩寺詩彫板、今傳在圓覺傳宗庵、雖應永之時其寺猶存、然至退廢之日不可復考、則廢來已久矣、此書傳世之古亦可知也、臥雲日件錄云、寶德元年九月十八日天英西堂持來百川學海兩冊、來

見借此書、永享之初來自大明者、蓋謂此本也、絳雲述古稱富宋本、檢其書目無此書、天祿琳琅之目亦失載、則知彼土宋本之不傳、然則左氏之面目獨賴此本而可見也、豈可不奇哉、豈可不珍哉、享和三年冬至日、

又曰、文明七年八月廿八日將軍義尚遣使於明須書籍之目、亦有百川學海、先弘治十四年二十五年也、是時賣來則當亦此本也、書以備考、

又明弘治十四年華理刊本 青歸書屋藏

首有錢福序及目錄、每半板十二行、行二十字、界長六寸三分、幅四寸八分、卷首有朱氏民章圖觀印、卷末有珍玩、永嘉、南濱三印、

按、唐本類書考所載百種本即此本也、羅山集稱為學海舊本、然當時改換次第以類相屬、事見錢福序中、則此本亦非左圭舊面也、類書考又云、一本同種而異、其次序編

為二十卷、各卷收三四五種、每半板十四行、行二十八字、序曰、嘉靖十五年莆陽壺雲道人書林鄭氏謹依

日本繡梓刊行云云、此本未經見、疑與宋板同次序者、又有近日吳舶所齎來本、略抄說郛中題云、百川學海、固非真本也、

五子全書八卷明嘉靖刊本 求古樓藏

天祿琳琅書目載五子全書、云鬻子一卷唐逢行珪注、逢行珪序、并進書表、子華子二卷前漢劉向序、鶡冠子三卷前宋陸佃序、唐韓愈讀鶡冠子文、尹文子一卷前魏仲長氏序、公孫龍子一卷無序、書首有明歐陽清總序、序作嘉靖五年清上饒人官浙江按察司副使、其序稱五子向有刻本、久未及校、始為改誤補正云云、則是宋元以降雖有舊刻之板、而此本乃清所別刻者矣、當即此本、但此本闕歐陽清序、然必清所刻本也、每卷首有南風樓印、卷末有方時于禱印、

六子全書六十卷明嘉靖刊本 寶素堂藏

老子道德經二卷、河上公章句太極左仙公葛玄序并篇目、冲虛至德真經八卷、張湛注、殷敬順釋文、張湛序目錄、劉向校上記、南華真經十卷、郭象注、陸德明

華陀巷北岐之石人森約之

音義、郭象序并篇目、荀子二十卷、楊倞注、楊倞序、新目錄、新纂門目、五臣音注、楊子法言十卷、季軌柳宗元注、宋咸吳祕司馬光重添注、宋咸序并上表、司馬光序篇目、渾天儀說二篇、文中子十卷、阮逸注、阮逸序并篇目、每半板八行、行十七字、首有景定改元石廬龔士高序、卷末脫簡、校刊名氏未詳、板心記桐陰書屋校五字、各書首有武肅王孫印記、求古樓又藏明刊本、未有嘉靖庚寅吳郡顧春跋、又有世德堂刊本、並與此板式恰同、

按、龔士高序稱、老莊荀楊文五子不言及列子、則知五子宋以來有刊本、明人傳刻新增列子一書名之六子、尚存龔氏原序也、攷四庫全書提要、載五子纂圖互註四十二卷宋龔士高編、當是宋時舊本、聞又有合刻莊荀楊文中抱朴名五子全書者未見、

右雜編

安政四年丁巳孟夏十七日之夜丑時燭

下校讎一過、時朗月蕭風樹影映牖

經籍訪古志卷第四終

經籍訪古志卷第五

子部下

類書類

玉燭寶典十二卷貞和四年鈔本 楓山官庫藏

隋著作郎杜臺卿撰、缺第九一卷、每冊末有貞和四年某月某日校合畢面山叟記、五卷末有嘉保三年六月七日書寫并校畢舊跋、按、此書元明諸家書目不載之、則彼土蚤已亡佚耳、此本爲佐伯毛利氏獻本之一、聞加賀侯家藏卷子足本、未見、

藝文類聚百卷明刊小字本 求古樓藏

首有歐陽詢序、胡纘宗重刊序及目錄、卷首題藝文類聚卷第一、唐太子率更弘文館學士歐陽詢撰、每半板十四行、行二十八字、界長六寸四分、幅五寸、左右雙邊、攷體式字樣、當是嘉靖間依北宋本重刊者、按、孫氏祠堂書目張金吾藏書志所載、明小字本亦或此類、

又朝鮮國銅板活字本 懷仙樓藏

首有歐陽詢序及目錄、卷首題藝文類聚卷之第一、唐太子率更令弘文館學士渤海男歐陽詢撰、題銜與前本小異、每半板十二行、行十九字、界長七寸一分、幅四寸九分、四周雙邊、凡類目書名國名人等皆白字標出、以便檢討、卷末有蘭雪堂重印、藝文類聚後序、末記正德乙亥冬後學華鏡謹拜序、卷頭鈐宣賜之記印、

初學記三十卷宋槧本 楓山官庫藏

宋紹興年間刊本、字密行疎紙刻精美、蓋係坊刻、第一第五第六卷有金澤文庫印記、每卷首有土屋守椿之印、龍蘭二印、卷末有復古堂、虎五郎文庫二印、此本佐伯毛利氏獻本之一、

又明刊仿宋本 寶素堂藏 〔靜節山房藏〕

一至六缺、每半板九行、行二十二字、注二十四字、界長六寸八分、幅五寸、板心題晉府重刊四字、每冊有元政及艸山瑞光蘭若二印、知爲深草僧元政舊物、

又明嘉靖辛卯刊本 多紀氏三松齋藏

首有嘉靖辛卯秦金序、紹興四年劉本舊序、目錄、首題唐光祿大夫行右散騎常侍集賢院學士副知院事東海郡開國公徐堅等撰、大明嘉靖辛卯錫山安國重刊、卷首徐堅名銜與目錄所題同、但無唐字、撰上有奉勅字、每卷首題錫山安國重刊六字、每半板九行、行十八字、注二十四字、界長六寸八分、幅五寸四分、板心有刻手名氏、

又明嘉靖丁酉刊本 容安書院藏

行款體式同前本、卷末有嘉靖丙申冬壺雲子後跋、序後有嘉靖丁酉歲冬書林宗文堂刊行木記、此本係市野光彥舊藏、

又明萬曆丁亥刊本 求古樓藏

行款體式又與前本同、首有鹿門茅坤重刊序、目錄、首題大明萬曆丁亥大學生徐守銘重校于寧壽堂梓行、每卷首記三吳徐守銘校刊、卷末有萬曆十五年丁亥徐壕跋、

白氏六帖事類集零本六卷北宋槧本 京師伊良子某藏

現存二十二至二十七六卷、每半板十三行、行二十六七字、注雙行、三十一二字、界長七寸二分、幅五寸一分、左右雙邊、卷首有金澤文庫印、及子子孫孫其永寶之印、印文與雜可賞、疑宋時物、又有船橋藏書印、知爲明經濟原氏舊物、

按、今世所傳併宋孔傳續帖爲一題白孔六帖者、此本雖僅僅數卷、然白氏之面目特賴此而存、則不以零殘爲病也、

珞玉集零本二卷舊鈔卷子本 尾張眞福寺藏

原十五卷、現存二十四兩卷、每卷首題珞玉集卷第幾、次行列書篇目、界長七寸一分、幅六分弱、十四卷末記云、用紙一十六張、天平十九年歲在丁亥三月寫、文字遒勁似唐初人筆蹟、真罕觀之寶笈也、但此書未詳撰人名氏、其目僅見現在書目及通志藝文略、知其佚已久、所引各書如蔡琰別傳語林、史說、晉抄王智深宋書帝王世記、近多不傳、亦得藉此以存其

梗概、雖斷簡殘篇豈可不貴重哉、

蒙求三卷宋槧本 村山某藏

未見、

蒙求一卷舊鈔本

卷首蒙求序、次題蒙求一部、次排列本文、王戎簡要
裴楷清通已下至終凡一行八字、無注文、上層以二字
標其人性行、不知出何人、

附音增廣古註蒙求三卷舊鈔本 容安書院藏

首題附音增廣古註蒙求卷之上、安平李潛撰註、次有
薦蒙求表、署光祿大夫行散騎常侍臣徐賢等奉勅撰、
本文首題目與卷端所題同、每半面七行、行二十字、
注雙行、界長七寸三分、幅五寸七分、上有層欄、上卷
末有大永三年記、中下卷末有享祿三年記、此本市野
光彦以高野本校過、末有手跋、
按、蒙求舊鈔有數通、體式略同、即徐子光補注所謂
舊注是也、近日坊間所傳唯有補注本、訛謬不鈔、宜
據舊鈔古注為訂正也、

又舊刊本 寶素堂藏

首有薦蒙求表、及李華序、卷首題重新點校附音增註
蒙求卷之上、次行署安平李潛撰註、每半板十行、題
目及本文併二行大書、注每行二十字、界長五寸七
分、幅四寸一分、卷末記龍歲甲丙〔甲丙蓋甲申
甲辰之誤〕年日孟
榮拜題謹置誌之數字、不題年號干支、亦誤刊行時月
不可從考、相其板式當在應永前後矣、
按、舊鈔諸本及此本、注末往往混入補注文、蓋後人
妄意補添、而題目冠增廣增注等字、殆非古注之舊、
當刪正之、

蒙求補注三卷舊鈔本 寶素堂藏

首有李華序、題蒙求序李華、次薦蒙求表光祿大夫行
右散騎侍臣徐賢等奉勅撰、次子光序、時己酉仲冬之
月辛卯吉日子光序、卷首題標題、徐狀元補注蒙求卷
上、安平李潛撰并注、徐子光補注、每半面十一行、行
二十字、每卷首題南豐元梓等字、
又文祿丙申活字刊本 求古樓藏

上卷缺、體式同前本、每卷首有目錄、每半板十一行、

行十五字、本文併二行大書、卷末有文祿五年丙申小
春甫庵道喜跋、記活字印行始末、狩谷望之云、余所
見活字諸本、皆慶長已後之鑲板而已、文祿之刻唯於
此見之、雖闕本亦可珍貴也、

按、古注本以滕公佳城陳遠豪爽為中下兩卷之首、而
補注諸本以史丹青蒲為中卷之首、相如題柱為下卷
之首、意者徐氏原第蓋當如此矣、如元文本以孫康映
雪虞卿檐簷為首、不知何據、又有以谷永筆札廣德從
橋為首者、斷聯割韻抑亦妄矣、

太平御覽一千卷宋槧本 楓山官庫藏

目錄首有經史圖書綱目及總類、卷首題太平御覽卷
第一、翰林院學士承旨正奉大夫守工部尚書知制誥
上柱國隴西縣開國伯食邑七百戶賜紫金魚袋臣李昉
等奉勅纂、每半板十三行、行二十二字至三四字、界
長七寸六分、幅五寸二分、玄徽匡恆敬慎殷等字闕
筆、板心有刻工名氏、卷末有慶元五年七月蒲叔獻書

後、及李廷充跋、每冊首尾有金澤文庫印記、第四百

六十至四百六十九、五百四十五至五百五十五、及五
百六十六凡二十七卷闕逸、舊人鈔補、

又宋槧本 京都東福寺藏

未見、

又明人鈔本 昌平學藏

體式行款略與前本同、蓋從宋本影鈔者、卷首有閩中
徐惟起藏書印、

冊府元龜零本口卷宋槧本

冊府元龜一千卷清人鈔本 昌平學藏

俱未見、

姓解三卷北宋槧本 懷仙樓藏

首有自序、末記大宋景祐二年上祀圓丘後五日自序、
序後接題目、每卷首題姓解卷第幾、次行署鴈門邵思
纂一、卷首題目下夾注記、凡三卷一百七十門二千五
百六十八氏、卷末記廟諱中六姓今自改焉、下夾注、
敬殷匡胤弘恆六字皆闕筆、又記一十七氏附別部、末

列其目、每半板十行、行十七字、注雙行二十五六字、界長七寸二分、幅五寸、左右雙邊、文字端正紙刻古撲、其爲書以偏旁分部、始人部終暢部、卷數與宋志所載合、元明諸家書目並失載、則其逸既久、引用各書如何氏姓、苑三輔決錄山公集、姓書陳留風俗傳、穎川東氏文士傳、春秋公子譜世本、郭泰、別傳、王僧孺百家譜、祖氏家傳、呂靜韻譜孝子傳、賈執英賢傳、皆世久失傳、鮮併其名知之者、亦得賴此以存其梗概、洵宋初舊帙也、卷首有經筵印及高麗國十四葉印、即係高麗王府舊物、裝潢亦爲彼國之制、

錦繡萬花谷零本四卷宋槧本 求古樓藏

現存三、四、二十一、二十二凡四卷、每半板十二行、行十九字、界長六寸五分、幅四寸五分半、三四兩卷有金澤文庫印、

又宋槧本 昌平學藏

閱與前本板式自別、未見、

錦繡萬花谷前集四十卷、後集四十卷、續集四十卷明嘉

靖丙申重影宋本

新編古今事文類聚前集六十卷、後集五十卷、續集二十八卷、別集三十二卷、新集三十六卷、外集十五卷元槧本奈須氏久昌院藏〔靜節山房藏〕

首有淳祐丙午祝穆自序、各集首有木格識語、總目錄、每卷及目錄首題建安祝穆和父編、新外兩集首題云、南江富大用時可編、每半板十三行、行二十四字、序六行十四字、總目錄七行、目錄與本文同、界長六寸餘、幅三寸九分、外集末有缺、刊行時月不可攷、卷首木格內記雲莊書堂四字、紙刻精良、元槧之佳者、每冊首有道順藏墨印、

又朝鮮國活字刊本 久昌院藏

此本不分各集、合全書爲二百二十一卷、各集總目錄亦併合之移置、卷端冠祝穆自序、每半板十二行、行十九字、序七行、行十二字、每冊首有孫思齋藏書記、高靈後人、申應矩子方二印、及蟠桃院印、副葉有慶安四年蟠桃院智秦題誌印記、

新編翰苑新書零本四十卷宋槧本 寶素堂藏〔靜節山房藏〕

現存前集四至十一、五十六至七十、後集十一至十九、後集下一至三、外集六至十、合四十卷、每半板十四行、行二十二字、篇中標目併二行大書、左右雙邊、烏絲外標題、玄慎徵敦貞匡朗等字闕末筆、攷板式當宋末坊刻、按四庫全書提要載是書云、不著撰人名氏、據明陳文燭序亦但稱爲宋人、今別有刊本題宋謝枋得撰者、坊買所贗託也、文燭序稱、是書舊無傳本、慈溪袁煒爲大學士時、始從內閣錄出、而日久佚、據此是書彼土明以來流傳不多、此本雖零殘不完係宋時原刊、亦爲可珍、且提要稱分前後別續四集、今此本別有外集、卷中載地理略與祝穆方輿勝覽、同提要不載之、檢明刊本亦不收、則蚤已亡逸耳、每冊首尾有椿庭印、

翰苑新書前集十二卷、後集七卷、續集七卷、別集二卷明刊本 昌平學藏

萬曆辛卯金陵周對峯刊本、按、舊本前集七十卷、後

集上二十六卷、後集下六卷、別集十二卷、續集四十卷、此本妄併合帙、殆俗刻也、

玉海二百卷朝鮮國活字刊本 懷仙樓藏

宋王應麟撰、每半板十二行、行二十一字、板式與藝文類聚相似、卷首有水月軒印、

翰墨大全零本□□卷元槧本 求古樓藏

未見、

韻府羣玉二十卷元槧本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

首有滕賓姚雲趙孟頫陰竹野等各序、陰復春陰勁弦二序及目錄、凡例、事類總目、卷首題韻府羣玉卷之一上平聲、晚學陰時夫勁弦編輯、新吳陰中夫復春編注、每半板十行、行十五字、注二十九字、界長六寸九分、幅四寸四分、目錄末有元統甲戌春梅溪書院刊木記、每卷首有魚躍館藏書印、〔補註、約源堂及約之亦藏焉、年間覆刻此本者、見書肆雁金屋青山堂、時慶應三丁卯四月下旬也、〕

又舊板本 寶素堂藏

體式行款一與前本同、即覆刻元本者、攷板式當是應

永前後所刻者矣、

新增說文韻府羣玉二十卷明正統丁巳刊本 寶素堂藏

體式行款亦略與前本同、每卷題目冠新增說文四字、每字據說文禮部韻添入音義、更增注事件、凡例後述增修大意且有識語、云、瑞陽陰君所編韻府羣玉、以事繫韻以韻摘事、乃韻書而兼類書也、檢閱便益觀者無不稱善本、堂今將元本重加校正、每字音切之下續增許氏說文、以明之間有事未備者以補之、韻書之編誠爲盡美矣、敬刻梓行嘉興四方學者共之、正統丁巳孟春梁氏安定堂謹白、

類編古今事林彙書一覽八十卷元槧本 寶素堂藏

首有何士信自序及綱目、分前後續別外新重支八集各十卷、每集首有目錄、題建安古梅何士信君實編集、始前集天文、終支集譬喻、凡三十八門、每門分數類、卷中事要皆白字摸出、以便檢閱、下注所據書名、每半板十三行、行二十四字、每卷首有宗致朱印、缺別外支三集、

小說類

山海經十八卷明嘉靖刊本 求古樓藏

未見、

拾遺記十卷明代重刊宋本 求古樓藏

此本不記梓刻歲月、攷板式紙質蓋明人重雕宋本者、殆在萬曆初年歟、卷內宋諱闕筆、且韻字下注云御名、則其所原應是仁宗時刊本、

狩谷望之手跋曰、右王子年拾遺記松憲閣翁之遺本也、按、此本缺筆宋帝之諱字、遇韻字或記以御名二字、其原出自北宋本也、此明代刻本而不補填缺畫、蓋謹重之至、此本之佳亦可知也、卷首有中吳錢氏收藏印、錢穀叔寶之圖記、有明名家之舊藏偶來此間者、亦足愛玩矣、又有錢府文華孔章居易之印記、未詳何人、特問之博識者、

博物志十卷清黃丕烈重刊宋本

清嘉慶八年黃丕烈、依汲古閣影鈔宋連江葉氏本重雕者、此本與今行諸本大不同、蓋不失茂先之舊觀

也、詳見黃氏序中、

又朝鮮國刊本 昌平學藏

首題博物志卷之一、晉司空張華茂先撰、汝南周日用等注、每半板十行、行十八字、界長六寸八分、幅四寸九分、末有弘治乙丑春二月工部主事姑蘇都穆跋、又墨書首陽二介梁明等字、蓋韓人所記、〔補註、約之曰、家六寸九分、幅四寸八分、四周雙邊、卷册之首有篆印六字、曰林氏傳家圖書〕

續博物志十卷朝鮮國刊本 昌平學藏

首題續博物志卷第一、前都官員外郎隴西李石撰、末有都穆後記云、是書在宋嘗有板刻而今罕傳、又記開化庠生方衛謹錄八字、板式一與前書同、蓋合刻者、今行坊本以此本爲原、〔補註、約之曰、家大人記曰、每半板四寸八分半、四周雙邊〕

世說新語三卷北宋槧本 楓山官庫藏

此係劉義慶真本、未經後來增損者、字句卷數校之元明諸本莫然不同、文字端正、欽宗以上諱字嫌名皆闕筆、其爲北宋之槧本無疑、每卷有金澤文庫印記、

又元槧本 昌平學藏

劉辰翁批點本、刪略注文、

又明萬曆己卯刊本 求古樓藏

每卷分上下、首有萬曆己卯管大勳重刻序、萬曆七年張程序、及吳郡袁駁序、卷端題宋臨川王劉義慶撰、梁劉孝標註、明四明管大勳安成張程訂、管序首有謝肇淛印、中卷首有龍龕山長印、此本上卷狩谷望之以官庫宋本朱筆校過、

遊仙窟一卷舊鈔本 昌平學藏

卷首題遊仙窟寧州襄樂縣尉張文成作、寧州下夾注云、屬關內道在去京三百里西北也、每半面八行、行十五字、注雙行、末有文保三年文章生英房跋、

又舊鈔本 容安書院藏

體式與前本同、每半葉九行、行十五字、

又文和二年鈔本 尾張眞福寺藏

卷首題遊仙窟一卷、次行題銜與前本同、每半葉六行、行十四字、此本不載注文、卷末記云、文和二年九

月廿四日、於加州能美郡板津庄添今添中鳴大日寺學所書寫畢、下有賢智題名、

開元天寶遺事二卷舊鈔影宋本 寶素堂藏

首有王仁裕自序及目錄、每半面十二行、行二十字、末有紹定戊子山陰陸子通跋、按、坊本缺陸跋、此即從宋刻傳鈔者、

太平廣記五百卷朝鮮國刊本

未見、

夷堅志零本三十卷宋槧本 崇蘭館藏

原一百卷、今存甲乙丙三集各十卷、卷首題新雕夷堅志、每半板十五行、行二十字、卷首有妙覺寺常住日與印、

釋家類

妙法蓮華經七卷撰刊北宋小字本 求古樓藏

卷首題姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯、密行細書、裝為帖子、每半面十二行、行二十九字或三十字、末有慶安口年跋、

首楞嚴經十卷宋槧小字本 寶素堂藏

每半板九行、行二十字、界長五寸二分、幅二寸、卷末有福州沙門善果刊行記、及王澤刊三字、第五第十兩卷末附音釋、卷中有昔人標記、小楷妙絕朱墨爛然、卷首末有普門院印、印每用寶勝院印鈐、蓋其上又有光璘印、知是東福寺寶將院玉峯和尚舊藏、卷中附標及題簽亦係其手筆、

佛說壽生經一卷朝鮮國刊本

佛說預修十王生七經一卷同上前書合裝

首有十王生七經變相畫像、次壽生經序、次壽生經、終十二相屬圖說、次十王生七經、成都府大聖慈寺沙門藏川述、次成化五年誌、次十王經變相圖、末有萬曆丁丑彫板記、

一切經音義二十五卷

唐大慈恩寺翻經、沙門玄應撰、此書宋藏所收二十五卷與唐志合、明代刊本分為二十六卷、今行本依此、清乾隆中莊炳錢站孫星衍校刻、復二十五卷之舊且

附校注、三氏各有所考多所是正、尤有補小學焉、

一切經音義百卷

唐翻經、沙門慧琳撰、此書宋藏不收、西土久逸、高麗國傳播入其所刊藏經中、元文丁巳獅谷白蓮社彫刻行世、

華嚴經音義二卷

又舊鈔卷子本 三緣山某院藏

續一切經音義十卷

遼燕京崇仁寺沙門希麟集、此書高麗藏所收、延享丙寅高野山北室院彫刻行世、

冥報記三卷舊鈔卷子本 三緣山某院藏

卷首題冥報記卷上、吏部尚書唐臨撰、次有序文、論當時報累年報子孫報現報生報得報之別、上卷始隋釋信行終揚州嚴恭、中卷始隋大業中客僧終邵師辨、下卷始後魏崔浩終武德中姓章、皆載其冥報事蹟、界

長七寸六分、幅七分、每行十六七字至十九字、不記鈔寫時月、審是四百許年前書本也、卷首二張缺、以高山寺本補完、

按、此書舊新唐志入于史部雜傳、宋志收于子部小說家、並云二卷、攷之本傳亦同、然此本依李唐舊本傳錄、非經後來分析者、則史志偶誤耳、又攷諸家書目絕不登載、知其隱晦已久、而此卷歸存豈可不貴重哉、況唐氏有脚氣論、其書雖亡外臺秘要醫心方多援引之、則我醫所關係之人、不可以屬浮屠之書廢棄之也、

造菩薩願文零卷舊鈔卷子本

現存第八卷零片七行、首題造菩薩願文卷第八、次垂拱二年十二月四日大唐皇太后、奉為高宗大帝敬造續十一面觀世音菩薩一千鋪願文一首、奉為先王先妃造十一面觀世音菩薩願文一首、奉為、以下此書史志諸家皆不著錄、撰人卷數並不可攷、特因其所存可得知編書概略與撰集時代耳、紙背有良辨大德天平

廿一年、天平感寶元年等記、界長七寸四分、幅六分強、

梵語千字文一卷享保丁未刊本

唐三藏法師義淨撰、

梵語雜名一卷享保壬子刊本

唐翻經、大德兼翰林待詔光定寺歸茲國沙門禮言集、

睿山沙門真源較題簽記慈覺大師將來、

五燈會元零本二卷宋槧本 容安書院藏〔靜節山房藏完本〕

現存八九兩卷、每半板十三行、行二十四字、界長七寸一分、幅四寸九分、左右雙邊、每卷首格外題云、五燈會元二十卷之內大洲寄進之者也、又記吉祥寺常住公用、卷尾題、于時永祿拾年霜月吉日、又有安充印及押字、

五燈會元二十卷貞治戊申刊本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

板式一與前本同、即依宋槧重雕者、卷首有貞治馬兒年妙喜庵主圓月跋、云、大長者雪江命功德主僧正仲重刊行、又記此錄禪徒至寶也、禪行我朝莫盛如今、

未刊行焉誠為缺典、廣化衆緣終成美事、戊申重陽日泉南小比丘彥貞謹識、板留建仁靈洞、法印宗應刊行此本、每卷有天龍大仰印、又有應永二十五年五月廿六日買之記、

佛祖統記五十四卷宋槧本 求古樓藏

缺三四五六七八、三十八、三十九、四十至四十三凡十二卷、每卷有行寔印、此本係妙心寺舊藏、

景德傳燈錄三十卷貞和延文間模雕、元延祐丙辰刊本

首有楊億序、次西來年表、次元延祐重刊狀、尾有楊億序始末、次紹興壬子鄭昂跋、天童宏智和尚疏、次紹興四年劉業後序、卷一卷五卷十三卷十六卷十九卷二十卷二十一卷二十六卷末有延文戊戌記、卷十卷二十四卷三十卷末有貞和戊子記、卷九末有應安記、並錄刊行捐費人名、卷十八末有延文三年東山沙門妙在重刊疏、卷三十跋後有貞和戊子南禪乾峯士曇誌語、界長七寸一分、幅四寸九分、每半板十三行、行二十三四字、左右雙邊、

釋氏要覽三卷活字刊本

宋錢塘月輪山居講經論、賜紫沙門釋道誠集、首有天禧四載崔育材序、尾有天聖甲子口口後序、

佛果圓悟真覺禪師心要二卷曆應四年刊本

末記云、嘗曆應四年十月口日臨川寺刊行、每半板十一行、行二十字、界長六寸六分、幅四寸九分、左右雙邊、

鎮州臨濟慧照禪師語錄一卷元應庚申刊本

首有宣和庚子馬防序、尾有元應庚申妙秀鏤板記、每半板十一行、行二十字、序九行、行十七字、界長五寸八分、幅三寸七分、左右雙邊、

山家義苑二卷宋槧本 寶素堂藏

下卷缺、卷首題雲間沙門可觀述、山陰法孫智增證、卷末記嘗皇宋嘉熙戊戌比丘良阜刊于白蓮、每半板八行、行十六字、界長五寸五分、幅三寸六分、左右雙邊、

佛果圓悟禪師碧巖錄十卷舊刊模元槧本

首有建炎戊申普照序、大德庚子方回序、大德乙巳周馳序、大德甲辰三教老人書、末有宣和乙巳關友無黨後序、重刊疏、大德壬寅淨日書、延祐丁巳希陵後序、延祐丁巳馮子振題、第一二三四九十卷末有龔中張氏書隱刻梓木記、卷九末有正琳刻梓木記、卷十末有玉峯刻梓木記、五六兩卷末有誌語、每半板十一行、行二十一字、界長六寸、幅三寸八分、左右雙邊、有可仰墨印及慧柱朱印、

感山雲臥紀談二卷貞和丙戌刊本

首有雲臥庵老僧自敘、及曉瑩上狀、末有貞和丙戌沙門明超鏤梓記、每半板十一行、行二十字、序八行、行十七字、行書、界長六寸一分、幅四寸、左右雙邊、有長松常住朱印、長松禪院墨印、

悉曇字記一卷舊刊本 寶素堂藏

山陰沙門智廣撰、此書近刻宋字寫成此本、板式字樣雅古、裝為粘葉、審是四百許年前鏤本、每半板口行、行十口字、注雙行、

翻譯名義集七卷舊刊樓宋槧本 容安書院藏 (靜節山房藏)

首有大德辛丑普洽所述、普潤大師行業記、紹興丁丑周敦義序、無機子法雲行書記、每卷首題姑蘇景德寺普潤大師法雲編、每半板十行、行二十字、界長六寸三分、幅二寸八分、左右雙邊、或四周雙邊、

希叟和尚正宗贊六卷慶長十三年活字刊本

首有目錄自序、末記寶祐甲寅西蜀比丘紹曇百拜書於靈鷲放山堂、卷一起達磨止真覺、卷二臨濟宗、卷三曹洞宗、卷四雲門宗、卷五鴻仰宗、卷六法眼宗、尾記云、慶長十三戊申仲秋吉辰西京花園一枝軒板行之、每冊有法輪寺常住及祖柏之印朱印、

道家類

老子道德經二卷舊鈔本 寶素堂藏

河上公章句、首有虞齋林希逸口義發題一篇、卷端題老子道經上、河上公章句、次行題道可道章第一、下注體道章、每半葉九行、行二十字、注雙行、界長六寸、幅四寸九分、上有層欄、卷尾記于昔天正六年戊

寅孟夏下旬寫之、關東下野州足利之內學校下真瑞、

又活字刊本 寶素堂藏

首有葛洪序、卷首題老子道經上、河上公章句、次行題體道第一、每半板七行、行十七字、注雙行、不記梓行歲月、卷首有大應寺印、

又明弘治乙丑仁實書堂刊本 昌平學藏

又明刊本 求古樓藏

俱未見、

老子道德經二卷明刊本 求古樓藏 (靜節山房藏)

晉王弼注、未見、

又明孫讓刊本 容安書院藏

首載河上公序、古今本攷正及音義、河上公篇目、卷端題老子道德經上篇、晉王弼註、明勾餘孫鑣評閱、每半板九行、行二十五字、卷末有政和乙未晁說之跋、尾有白雲書庫印、

道德經廣聖義三十卷舊鈔本 求古樓藏

蜀杜光庭撰、首有新編連相搜神廣記、及按語二條、

並後人 次唐開元御贊、次真宗皇帝御製像贊并序、次

老君度關銘并序、次孝宗皇帝御製原道論辨、次侍講

程尙書易老通言撮要、次嘉定甲申周觀復序、已上當宋

所加、次杜光庭進廣聖義狀、次杜光庭自序、次王洞應

後序、卷首至此道 第一卷敘經大意、解疏序所引老君應

跡、第二卷敘老君事跡、氏族降生年代聖唐冊號、第

三卷釋御疏序上、第四卷釋御疏序下、釋題訓明體

用、第五卷已下釋經文、卷尾有永平三年任知玄廣聖

義印板後序、後列張延光等官銜、又有嘉定中徐天

麟、章與宗、張洽等各跋、後序已下亦 每半葉十四行、

字數不整、卷中禎字闕筆、蓋從宋槧傳錄者、按、是書

卷數與宋志所載合、道藏本分爲五十卷、非光庭之

舊、

老子廣齋口義二卷朝鮮國刊本 容安書院藏

首載口義發題、卷端題老子廣齋口義上、廣齋林希逸道可道章第一、每半板十一行、行二十一字、注雙行、界長七寸五分、幅五寸三分、四周雙邊、卷首墨書圭

瑞叟三字、又有口化柳健天行印及養庵印、

又朝鮮國大字刊本 容安書院藏

卷首體式總同前本、但注文大書與本文同、每半板十二行、行十八字、界長八寸八分、幅六寸三分、四周單邊、卷末有隆慶四年跋、卷首有高平隆長印、及喜字圓印、

冲虛至德真經八卷明刊本 求古樓藏

張湛注、般敬順釋文、首有張湛序及目錄、劉向校上記、目錄首題唐當塗孫丞般敬順釋文、卷端題冲虛至德真經卷第一、次題列子張湛處度注、每半板十二行、行二十六字、注雙行、此本張注與釋文混淆殆不可識別、攷道藏中張注釋文各有單本、當据以訂正之、

又明弘治乙丑仁實書堂刊本 昌平學藏

此本與老子章句同種、注中攙入般氏釋文、亦與前本同、

又朝鮮國活字刊本 求古樓藏

此本亦附釋文，更增入林氏口義，乃與郭注莊子同種，卷首有賞顏齋藏印。

列子虞齋口義二卷舊刊本 容安書院藏

卷首題列子虞齋口義卷上，虞齋林希逸，次有列子序，即劉向校序後附列子小傳，每半板十行，行二十一字，界長六寸四分，幅四寸一分半，左右雙邊，下卷首有久遠院印。

莊子零本一卷舊鈔卷子本 粟田青蓮院藏

郭象注，現存刻意一篇，卷首題莊子外篇刻意第十五，下記郭象注，此三字後人據別本所記，界長六寸九分，幅七分半，每行十五六字，注雙行十七八字，用橫紙鈔之，塗抹文字用雌黃，行間細書，據釋文校訂，攷字體墨色當是天平間鈔本，摸本藏在寶素堂。

又舊鈔卷子本 高山寺藏

現存十五卷，每卷首題莊子某篇某第幾，郭象注，體式一與前本同，界長七寸六分，幅七八分，每行十六七字，注雙行，每卷行款字體小異，標背有弘世押字

家本等字，是本往歲小島學古入京時展開一過，後得傳錄雜篇庚桑楚·第廿三、外物第廿六、寓言第廿七凡三卷，餘卷未見。

按，以上二本皆就李唐舊本傳錄者，文字異同校之，今本當據以校訂其誤者不尠，間或與陸氏所依本合，如庚桑第廿三無楚字，吾洒然異之灑作洒，天道已行矣大作天之類是也，又按，是書卷數隋志稱三十卷，目一卷，梁七錄三十三卷，釋文序錄三十三卷三十三篇，現在書目三十三卷，舊新唐志十卷，今此本一篇為一卷，與七錄已下所稱合，蓋即古本之舊裁也，其為十卷者宋代人併合，實非郭氏之舊。

纂圖互註南華真經十卷明刊本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

重言重意附釋音，每半板十一行，行二十一字，格外標題，攷板式蓋明初閩中依元板重彫者，盧之頤本疑原此本，卷首有本法寺藏印。

又朝鮮國刊本 求古樓藏

殘缺不完，存者僅三之一，注末附釋文及口義，蓋便

學者檢閱耳。

南華真經注疏十卷宋槧本 賜廬文庫藏

缺三至六凡四卷，首有成玄英郭象二序，每卷首題南華真經注疏卷第幾，莊子某篇某第幾，郭象注，唐西華法師成玄英疏，每半板八行，行十五字，注疏並雙行二十字，每注末圈子內大書疏字以界注文，界長七寸五分，幅五寸五分，板心上方雙行記大小字數，下記割闕姓氏，格外標題篇名，字畫端正，宋槧之佳者，此本裝為粘葉，卷首有金澤文庫火前印，按，是書通行坊本訛謬甚多，澀江抽齋曾從道藏中所收本校訂之，後更得此本校過，文字異同正與道藏本符，知藏本亦原宋本，則此本之缺當以藏本補錄也。

又舊鈔卷子本 求古樓藏

人間世篇零殘僅存二張，真所謂吉光片羽物之貴重不必在多也，界長七寸四分半，幅七分半，每行十四字，注疏雙行十八字，注末疏字大書在圈子內，與宋槧合，疑取原于宋本者，未有金澤文庫印長三寸幅七

分，匡郭單邊與他印不同，或謂加賀侯藏印，未詳然否，醫學所儲舊鈔濟生方亦有此印記。

又舊鈔本 石經山房藏

此本分為三十三卷，每卷題南華真經注疏解經，與足利學所藏舊鈔本同，前有郭象成玄英二序，及景德三年八月中書門下牒，卷首體式與宋本同，每半葉八行，行十九字，注文單行，疏文雙行，界長六寸五分，幅五寸二分，不記鈔寫時月，攷紙質墨光當在慶元以前矣。

按，是書卷數不一，宋槧本分為十卷，正與宋志合，或疑與郭氏注本均為宋人所併歟，市野光彥足利學本跋中亦辨是書，卷帙今錄附備考。

成玄英莊子注疏諸家所錄卷數非一，今無由辨究也，暫臚列左方以備參，舊唐書志，莊子疏十二卷，成玄英撰，新唐書志，道士成玄英注莊子三十卷，疏十二卷，通志略，莊子注三十卷，成玄英注，莊子義疏十二卷，道士成玄英撰，文淵閣書目，莊子玄英疏十二卷，缺，紫竹堂書目，

莊子玄英疏十二卷、宋史志、莊子玄英疏十卷、玉海云、莊子今本十卷二十三篇、逍遙遊至天下為內外雜篇、內篇七、外篇五、雜篇十一、唐成玄英疏二十三卷本郭象為義疏、郡齋讀書志、莊子成玄英疏二十三卷、文獻通考、莊子成玄英疏二十三卷、世善堂書目、莊子疏三十三卷、唐道士成玄英、書錄解題、莊子疏三十卷、云唐道士西華法師陝郡成玄英子實撰、述古堂書目、莊子玄英疏二十卷、讀書敏求記同云、南京解元唐寅藏書北宋槧本之佳極者、通考云三十三卷、予按、端臨經籍志每因篇帖浩繁、無暇取原書覆校、卷數大都抵牾、學者當原之、崇文總目澹生堂書目、絳雲樓書目四庫全書總目及附存目天祿琳瑯書目並不載、按、此邦所傳印本三十三篇不題卷數、玉海、讀書志、文獻通考、世善堂書目所云三十三卷者、豈此本耶、蓋以篇為卷數之也、足利學所藏古鈔本題云南華真經注疏解經卷第一、次行題云莊子內篇逍遙遊第一、又第三十篇前題云南華真經注疏解經卷第十、次行

題云莊子雜篇說劍第三十則、其雖未詳分卷為如何、而宋志及玉海所謂今本十卷二十三篇者蓋此本也、或云十二卷、或云二十卷者、亦與玄英自序所云為疏解總三十卷不合、並歷後人改脩者、非舊本面目也、獨書錄解題云、三十卷疑依玄英自序而錄之、遵王直信其藏本二十卷、未曾參諸志目、譏通考為抵牾、抑亦疎謬哉、夫南華古釋之存乎今者、郭子玄為最、陸氏釋文次之、玄英疏又次之、學者求古究理莫如三家之善焉、今閱四庫全書、提要及琳瑯書目共缺著錄、則彼或屬缺逸也、此邦幸傳全本見行于世、但恨坊間所刻訛謬不少、今茲丙子夏正齋近藤君借足利學藏本、命僕校之、闕文訛字一一補正、則此書始可讀誦也、古鈔本脫十二篇是為恨耳、僕已喜得此本遂取印本而補其缺、為函納之以還之、庶幾傳之乎永業而不朽矣、文化十三年秋七月江戶市野光彥識、

莊子肅齋口義十卷元槧本 求古樓藏
未見、

纂圖互註老莊列三子二十卷明隆慶萬曆間刊本 求古樓藏

老子河上公注、莊子郭象注、列子張湛注、莊子末有萬曆四年仲秋刊行記、列子末有隆慶辛未季秋月積善堂陳奇泉梓木記、每半板十二行、行二十六字、界長六寸四分、幅四寸二分、四周雙邊、板心有六子二字、知是係六子合刻者、

列仙傳二卷續仙傳二卷舊鈔本 懷仙樓藏

首有列仙傳目錄、卷首題列仙傳卷上、漢光祿大夫劉向撰、續仙傳序首題朝請郎前行漂水縣令沈汾撰、卷首題續仙傳卷上、次列目錄、每半葉十一行、行二十字、無界欄、長七寸五分、幅五寸五分、按、伊澤氏酌源堂又藏舊鈔列仙傳、行款字數一與此本同、卷首有吉氏家藏印、蓋其所原亦與此同種也、

真誥二十卷明刊本 伊澤氏酌源堂藏

首有明屠龍序及校刻凡例、又載嘉定十六年高似孫敘、是據宋本錄者、每卷首題真誥卷之幾、梁華陽隱居陶弘景造明震維居士俞安期訂、攷孫氏祠堂書目

載明俞安期本二通、一前刊本、一改刊本、此本據凡例即為改刊之本、正文及分卷一據道藏本、以宋本為之校注、稍可依據耳、慶應二年丙寅春門人中野元益在大坂、按星藏印、知是美濃學士口(梁)星藏、為余周旋遂得真誥二十卷而送致、每卷舊藏、如其帙上簽題隸字則星藏所書。

按、舊新唐志並載真誥十卷、宋志同、即知今本二十卷係道藏、分析增卷非陶氏之舊、

安政四丁巳閏五月廿二日午後比校讎
一過卒 森約之

經籍訪古志卷第五終

經籍訪古志卷第六

集部

楚辭類

楚辭章句十七卷明代重雕宋本 求古樓藏

卷首載史傳序騷辨騷、及疑字直音補、每半板八行、行十七字、注雙行、貞頊敬驚沉胤殷等字並缺末筆、知是据宋刻重雕者、但不記刻行時月、又有清嘉慶辛酉刊本、以此本為原、

又明隆慶辛未重雕宋本

行款體式一與前本同、目錄末題隆慶辛未歲豫章夫容館宋板重雕、宋諱不闕筆、

又朝鮮國刊本 楓山官庫藏

未見、

楚辭集注八卷、後語六卷元槧本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

每半板十一行、行二十字、注雙行二十四字、界長六

寸五分、幅三寸九分、四周單邊、□□記字數、不題刊行年月、

又朝鮮國刊本 求古樓藏

別集類

陶淵明文集十卷明刊覆宋大字本 求古樓藏〔靜節山房藏〕

首有梁昭明太子統序、及總目、每卷首題陶淵明文集卷第幾、每半板九行、行十五字、末有楊休之序錄、宋丞相私記、及治平三年思悅書後、紹興十年無名氏跋、又有汲古後人毛扆跋、即依紹興重刊治平本摹雕者、詳見毛跋中、與錢遵王所說事同而趣異、

按、是集後世傳刻者甚多、唯誤繆脫落不一而足、特此本文字精善實可依據、天保庚子歲松琦明復取本集八卷縮臨傳刻、跋曰原本十卷、第九第十為集聖賢羣輔錄、所謂四八目也、昭明太子本所不載、縱是陶公所輯亦非集部、楊休之收之非也、明人毛晉取入於津逮祕書、而近世所定四庫全書以為依託黜之子部

類書內是也、故今刪之云云、

又明刊本 楓山官庫藏

又明嘉靖刊本 求古樓藏

俱未見、

又明萬曆己卯刊本 容安書院藏〔靜節山房藏〕

〔石川貞白元亮家亦藏此本、〕

首有梁昭明太子統序、耿定向序、總論、陶淵明傳及目錄、每半板九行、行十八字、後有萬曆己卯蔡汝賢跋、每冊有字氏藏書、瑞乾家藏二印、

又朝鮮國刊本 懷仙樓藏

未見、

須溪校本陶淵明詩集三卷朝鮮國刊本 青歸書屋藏〔靜節山房藏〕

首有梁昭明太子序及目錄、卷首題須溪校本陶淵明詩集卷上、次行靖節先生陶元亮、每半板十行、行十六字、界長六寸四分、幅四寸六分、末有成化癸卯坡平尹哲希點新刊跋、又題前沙斤道驛丞鄭瑞書戶長鄭自良刻數字、

市野光彥手跋曰、淵明達觀於萬物之表、游心於杳妙之境、故其詩天成自然、讀者樂之、至如止酒責子詩、有詩而來無有此詩、而知者蓋鮮矣、文化丁丑秋、寒山子詩集附豐干拾得詩一卷宋槧本 姬路河合昇藏

卷首題寒山詩集、下記豐干拾得詩附、每半板八行、行十四字、界長六寸七分、幅四寸九分、左右雙邊、胤

貞玄等字闕末筆、字畫端楷、宋槧之佳者、首有觀音比丘無我慧身記一篇、閻丘胤序并讚、又有朱晦庵與南老帖、陸放翁與明老帖、皆從真蹟摹入、末有淳熙十六年沙門志南記、及可明跋、卷首有慶福院印及無範印、

分類補注李太白詩二十五卷元槧本 楓山官庫藏〔靜節山房藏〕

紙墨完好、卷中有舊人朱筆校點、目錄後有建安余志安刊篆文木記、卷末有至大庚戌余志安刊于勤有堂記、張金吾藏書續志所載即此本也、

又元槧本 求古樓藏

未見、

李白文集六卷朝鮮國刊本 求古樓藏

朝鮮商山牧伯李崇之所刻、詳見于正統丁卯李桂善跋中、末署監督都邑刻手學生等名銜、卷首有讀耕齋印記、

杜工部草堂詩箋四十卷宋槧元修本 海保氏傳經廬藏 (靜節山房藏)

無序及跋文、卷首題臨川黃鶴集注建安蔡夢弼校正、或題嘉興魯官編次、建安蔡弼會箋、各卷題目亦不一、第一卷題黃氏集千家註杜工部詩史補遺、或題草堂杜工部詩、冠集註增修等字、或單題杜工部詩、每半板十二行、行二十字、注二十六字、界長六寸五分、幅四寸五分、玄微貞匡慎敦樹等字闕筆、格外標記卷數頁數、板式大小廣狹不一、補刊亦頗多、卷首有妙覺寺常住日與及日典一印、按、劉氏批點本附錄中載蔡夢弼草堂詩箋序、此本不載、豈偶逸去者與、

集千家註分類杜工部詩二十五卷元槧本 酌源堂藏

闕一二兩卷、每半板十二行、行二十一字、注二十六字、界長六寸六分半、幅四寸四分、序末記建安余氏勤有堂刊、目錄末記皇慶壬子勤有堂、每卷尾有皇慶壬子余志安刊于勤有堂記、格外有文龜題言、

又元槧本 求古樓藏

序末題積慶堂刊、卷尾有至正戊子潘屏山刊于圭山書院記、

集千家分類杜工部詩十五卷舊刊本 寶素堂藏 (靜節山房藏)

卷首題東萊徐居仁編、每半板十一行、行二十一字、此本無注文、就題目攷之、蓋據千家註分類本單錄出本文者、相其板式當足利氏時所刊、每冊首有翠竹黃華印、末記持地庵公用五字、

集千家註批點杜工部詩集二十卷、文集二卷、附錄一卷元槧本 求古樓藏 (靜節山房藏)

元高楚芳編、首有大德癸卯劉將孫序、稱、先君子須溪先生平生甚看杜集、既選為與觀、他評泊尚多批點

皆各有意、高楚芳類評刻之、復刪舊注無稽者泛濫者、特存精確必不可無者、求為序以傳、楚芳於此注用力、勤去取當校正、審賢他本草草籍吾家名以欺者甚遠、相之者吾門劉郁云云、序後載杜工部年譜及目錄、卷首并目錄首題須溪先生劉會孟評點、每半板十四行、行二十四字或五六字、注雙行、界長七寸二分、幅四寸六分、目錄末有雲衢會文堂戊申孟冬刊木記、攷戊申乃大德十二年、是歲改元至大、隔劉序之時僅數歲、則此本當楚芳原刊、每卷有梵后大寧松雪齋等數印、他印文不可讀、容安書院寶素堂俱藏元槧零本、板式一與此本同、孫氏祠堂書目載大德刊本、蓋亦與此同種、

又舊刊覆元本 容安書院藏 (靜節山房藏)

體式行款一同前本、即依前本覆雕者、攷板式當在天正以前矣、

集千家註批點杜工部詩集二十卷元槧本 山本某藏

體式略與前本同、每半板十二行、行二十三字、界長

六寸四分、幅四寸一分、此本比前本板式稍劣、蓋元末坊刻也、容安書院所藏元槧零本與此同種、

昌黎先生文集四十卷、外集十卷宋槧本 崇閣館藏

唐李漢編、首有李序、題昌黎先生文集序門人李漢編并序、次文錄序、題天水趙德、次韓吏部文公集年譜、次目錄、年譜後有呂大防識語、云、予苦韓文杜詩之多悞、既讎正之、又各為年譜以次第其出處之歲月、而略見其為文之時、則其歌時傷世幽憂竊嘆之意、粲然可觀、又得以考其辭力少而銳、壯而健、老而嚴、非妙於文章不足以至此、元豐七年十一月十三日、汲郡呂大防記、每半板口行、行十八字、界長六寸九分、幅口寸口分、每卷有金澤文庫印記、

又明嘉靖中重刊宋廖氏東雅堂本

未見、

五百家註音辨昌黎先生文集四十卷舊刊本

無序及跋文、編注名氏俱未詳、每半板十行、行十六七字、注二十三字、不記刊行時月、然板式雅古絕與

俞本柳文相類、前輩定爲二集合刻者、其說似是、但比柳文文字稍大、界欄亦小異、今行活字刊本以此本爲原、

又元槧本 ①此一行據一本補之、

卷首題晦庵朱先生考異、留畊王先生音釋、朱序後有至元辛巳日新書堂重刊木記、每卷有雲林院藏書印、又明刊本

卷首題朱文公校昌黎先生集、留畊王先生音釋、蓋依元槧重刊者、

又朝鮮國刊本

未見、

唐柳先生文集殘本九卷、外集一卷宋槧本 賜廬文庫藏

不題編集名氏、原三十二卷外集一卷、現存第十四至十八、第二十九至三十一、并外集一卷合十卷、每卷首題唐柳先生文集卷第幾、次行列書文目、每半板九行、行十七八九字、界長七寸一分、幅四寸八分、板心上方記字數、下記刻手名氏、卷末記永州今重雕唐柳

先生文集、一部計三十二卷并外集一卷、乾道元年十月十五日畢工、又有紹熙辛亥永州州學教授錢重跋、云、爲之是正且俾盡易其板之朽弊者云云、又有嘉定改元十月郡守鄱陽汪^楫撰跋、

新刊五百家註音辨唐柳先生文集四十五卷舊刊本

無序及跋文、編注名氏未詳、每半板十行、行二十字、注雙行、目錄首載序傳碑記、此本歸化明人俞良甫在嵯峨時所校刊、卷末有記、云、祖在唐山福州境界福建行省興化路莆田縣仁德里臺諫坊住人俞良甫、久住日本京城阜、近幾年勞鹿至今喜成矣、歲次丁卯仲秋印題、迷庵市野光彥跋此書云、余嘗藏韓文古板全部、後又得柳文古板殘本補足之、二公之集合刻竟全、柳文末有印而記俞良甫所刻及歲次丁卯、按、古板傳法正宗記卷末云、福建興化路莆田縣仁德里住人俞良甫、於日本嵯峨寓居憑自己財物置板流行謹題、亦不記年號及支干、古板月江語錄末記應安三年六月初旬良甫自刊、月江語錄據此、歲次丁卯當卽嘉

元氏長慶集殘本五卷宋槧本 賜廬文庫藏

慶元年丁卯歲、藤貞幹好古日錄云京城阜卽嵯峨、此言是也、日錄又云、歲次丁卯豈謂寬永四年丁卯乎、此蓋貞幹唯依活字正宗記卷末所記、而未看古板本

正宗記及月江語錄、故誤而已、文政庚辰秋前一日、增廣注釋音辨唐柳先生集四十三卷、別集二卷、外集二卷、附錄一卷元槧本 求古樓藏

未見、容安書院藏元槧零本、現存第十四至二十一、并別集外集附錄合十三卷、每集目錄首題南城先生童宗說註釋、新安先生張敦頤音辨、雲間先生潘緯音義、每半板十三行、行二十三字、界長六寸五分、幅四寸二分、四周雙邊、不記刊行歲月、紙刻陋劣、蓋明代重修本也、

又明刊本

體式行款一與前本同、卽依元槧重雕者、諸賢姓氏後有正統戊辰善敬堂刊記、

又朝鮮國刊本

未見、

現存第四十三至第四十六、第四十八合五卷、每卷首題元氏長慶集卷第幾、次行有目錄、每半板十三行、行二十三字、界長七寸一分、幅五寸、宋諱闕筆、板心有雕工名氏、此本裝爲粘葉、蓋不失宋時之舊觀者、某氏又藏第四十卷、卽與此同種、

元氏長慶集六十卷、目錄一卷、補遺六卷、附錄一卷明萬

曆甲辰馬元調刊本 寶素堂藏

首有萬曆甲辰吳郡婁堅序、宣和甲辰建安劉麟序及重刻凡例、卷首題唐河南元稹微之著、明松江馬元調巽甫校、此本分卷次序一與宋槧同、凡例稱集中編次悉依宋本不敢更次是也、其補遺六卷載詩詞賦啓表議判制傳凡六十九篇、附錄一卷載新史本傳白居易撰墓誌銘、並馬氏所輯錄也、卷首有茅津高氏監藏、烏範家藏、萬卷必端堂圖書記、不忍文庫諸印、又有八分十勿記、

文集零本二卷舊鈔卷子本 求古樓藏

唐白居易撰、現存第二十八第三十三兩卷、每卷首題文集卷第幾、下署太原白居易、界長□寸□分、幅□分、每行十□字、第三十三卷末記、本云會昌四年五月二日夜奉為日本國僧惠萼上人寫此本、且緣^{忽忽}恐夜間睡夢用筆都不堪任、且充草本了、每卷有金澤文庫火前印、

按、林祭酒家藏白集、羅山先生就金澤本校過者、校止半部、間載寬喜三年、貞永元年唯寂房寂有、右金吾原泰重等書寫校點記、及會昌四年舊跋、冠菅本云、本云等字即知金澤本係寬喜貞永間依菅氏本重鈔、而會昌跋文亦從菅本傳錄也、此本雖所存不多、為金澤舊卷、豈可不貴重乎、

又一卷舊鈔卷子本 高野山西南院藏

現存第三卷、卷首題文集卷第三并序、下署太原白居易、次新樂府上諷諭三雜言凡二十首、界長七寸七分、幅七分、每行十六字、卷末題于時德治貳年拾壹月一日於河內國觀心寺^房塙書寫了右筆僧實辨、

又一卷舊鈔本

現存第四卷、卷首題文集卷第四、下署太原白居易、次行新樂府諷諭四雜言凡三十首、每半面九行、行十四字、界長七寸二分強、幅六寸八分、^{界欄不用墨線、以物直印出紙上舊鈔本}問有、卷末有文龜三年癸亥正月十九日儲之柿本寺新坊內僧賴英記、冊上有本院納慈心藏出根巨聽二印及一印、印文難辨、此本每紙背有昔人消息數通、蓋翻用故紙鈔者、相紙質字樣當是四百許年前書本、檢消息中有奉行經季語、鈔寫年時亦可推知矣、

又二卷舊鈔本 竹陰書屋藏

現存第三第四兩卷、體式一與前二本同、但文有小異、每半面□行、行十□字、此本蓋依金澤舊卷重鈔者、

按、樂天後記稱、集有五本、其日本新羅諸國傳寫者不在此記、乃知樂天在日是集既早東來也、攷樂天卒于會昌六年、則惠萼齋傳當亦在其前矣、以上諸本卷端單題文集不冠白氏字、即是白氏之舊觀、實為李唐

轉傳之真、雖零殘數卷可不貴重乎、

白氏文集七十一卷 元和戊午那波道圓活字刊本

首有白氏長慶集序、題浙東觀察使元稹字微之述、序後有目錄、每卷首題白氏文集卷第幾、每半板九行、行十六字、卷末有會昌五年樂天白氏集後記、廣順癸丑歲陶穀述、龍門重修白樂天影堂記、及戊午七月那波道圓重刊後序、狩谷望之云、讀書敏求記所謂廬山本者蓋即此本乎、

又明刊仿宋本 容安書院藏

首有元稹序及目錄、每卷首題白氏文集卷第幾、每半板十二行、行二十字、序□行、行十五字、界長六寸四分、幅四寸八分、卷末有佛光和尙真讚醉吟先生墓誌銘、以前本校之、第二十一卷以下卷第互異此本、紙刻鮮明、卷中貞字缺末筆、當是嘉靖間依宋本刊者、卷首有臨海樓圖書記、朝岡本紀國瑞印、^瑞高平隆長諸印、及喜字圓印、

又明萬曆丙午馬元調刊本

首有萬曆丙午婁堅序、體式行款一與元氏集同、即二集合刻者、卷首有讀耕齋家藏印記、

翰林學士集零本 一卷舊鈔卷子本 尾張國真福寺藏

現存第二卷一軸、簡端缺逸、撰人名氏不可攷、前有目錄、首載四言奉陪皇太子釋奠詩一首、應令銀青光祿大夫中書侍郎行太子右庶子弘文館學士高陽縣開國男臣許敬宗上、所載詩凡六十首、詩序一首、皆係侍宴應詔同賦并御詩、同作諸臣如許敬宗及鄭元璠、于志寧、沈叔安、張後胤、張文崇、陸揖長、孫无忌、楊師道、朱子奢、褚遂良、上官儀、高士廉、劉洎、岑文本、鄭仁軌、劉子翼等皆列書當時官銜、而御製題云太宗文皇帝、其撰當在永徽以後矣、卷末隔一行題集卷第二、側注詩一二字、每行字數不整、界長七寸、幅六分半、筆力遒勁、審其字體當是延喜以前人所贖寫者、是書諸家書目絕不載之、知逸亡已久、但憾僅存一卷、全書卷數與編人名氏皆不可知、舊題翰林學士亦未詳其誰、今檢書中所載許敬宗詩居多、而目錄每題

下稱同作幾首、似對敬宗言、則或疑敬宗所撰歟、卷末記單稱集、猶古本白集之例、不可從攷數其名氏、要之是書洵為初唐舊帙、近日詩家罕併其目知者、真天壤間僅存之祕笈、零圭碎璧尤可寶惜、不必問其作者而可也、今姑從舊題錄之云、淺井正翼云、是集所載多是全唐詩中所佚者、市河世寧不得觀之、是亦可憾耳、

小島學古云、壬寅冬月泊熱田、淺井正翼攜真福寺經藏典籍見訪、狂喜展觀中有是集、背書代宗朝贈司空大口正廣智三藏和上表制、集卷第五上都長安西明寺沙門釋圓照口云云、古香襲人殆千年前本也、近歲塙忠寶詣真福寺亦觀是書、首捺尾張國府點檢朱印、然所存纔簡首數行耳、訪之其他無在云、知其逸在壬寅學古閱過之後、名山古刹所藏遺編墜軸、近日漸就散佚、深為可歎、忠寶云、攝津國人喜平治家又藏是書殘本一卷、墓誌卷端數行摸入于聆濤閣帖中者是也、憾未得觀其全軸、仍附識于斯以俟他日續錄耳、

陸宣公集二十二卷朝鮮國刊本 楓山官庫藏

成化中刊本、此書所載止奏議耳、一名翰苑集、蓋非全集也、卷十九後有韓人墨書詩、云、兆翠為樓重作梯、誰人獨宿倚門啼、夜坐寒燈遠曉月、行行涯盡楚天關西、闕字卷二十後又題、柳碧黃鸞語、水青白鳥來、江山無限景、盡入筆頭回、蓬原鄭押字、卷二十二後又題、鳩鳴春洞幽、雨過新流碧、禪語有高僧、時來坐白石、元冲撰、卷中校訂文字頗詳密、

樊川文集夾註零本二卷明刊本 寶素堂藏

現存一二兩卷、無序文及刊行歲月、編注名氏俱未詳、每卷首題樊川文集卷第幾、下記夾註、次行署中書舍人杜牧、次行有目錄、第一卷載賦三首古詩二十八首、第二卷載律詩六十七首、各句下夾註頗詳、卷末更附添註、每半板八行、行十七字、界長七寸四分、幅四寸八分、四周雙邊、此本板式陋劣、然彷彿存古本之體、或是朝鮮國人所刊與、

樊川集口口卷朝鮮國活字刊本 楓山官庫藏

未見、

唐劉蛻集六卷明崇禎癸未刊本 寶素堂藏

明香城吳緝編、首有緝紀事一篇、稱、壬戌歲偶向緇廬披幡朽簡一冊、首尾蠹蝕文益滅漶、反復檢認殘幅隱隱、是桑悅印記、奇士鑿藏、喜愕生信、吾友楊收之同好者也、輒謀原集譌正、卒無傳本、思是復遭淪沒、迺考索同異次第後先成六卷、留劉蛻所著精神、換桑悅所傳面目、以布藝林、又有崇禎癸未閩中黃燁然序、云、恨全書未獲、客歲得吳緝所緝六卷、惜梓布未廣、予與家侄竊恐復遭淪沒、輒分考異同附梨棗云云、即知原書明代既失傳也、此本小野宜卿舊藏、卷首有小野節家藏書、宜爾子孫二印、卷末有卿手跋、云、余得劉蛻集以讀而愛之、其筆端鼓舞宛轉太奇者、亦有常山之蛇勢乎、余謂與韓柳同轍而不媿之矣、一讀而夫心胷快活者乎、丙辰之歲長至子半吹燈而書鶴山道人、下捺宜卿印、書法逸秀可觀、

孫可之文集「十卷」イナシ明崇禎中刊本 寶素堂藏

首有中和四年孫樵自序及目錄、又載正德丁丑震澤

王整序、稱、少讀唐文粹、得可之文往返三復、惜不得其全觀之後、獲內閣祕本手錄、戶部主事白水王君直夫請刻以傳、遂授之云云、目錄首記明黃燁然也剛同編輯、板式與劉蛻集一樣、知崇禎中依正德本重錄二集合刻者、但是書卷頁不多、似非全書、然自序稱、閱所著文得二百餘篇、聚其可觀者三十五篇成十卷、今檢書中與其言符、則此本雖經後代重錄尚為孫氏自撰、原書卷首有小野節家藏書、宜爾子孫二印、亦宜卿舊物也、

新板增廣附音釋文胡曾詩註一卷舊刊本 寶素堂藏 (靜節

山房藏)

卷端標目後題詠史詩廬陵故元質註、無序跋及刊行時月、每半板十行、行十六字、注單行二十字、界長五寸八分、幅四寸一分、板式雅古、絕與舊板註イナシ注千字、古注蒙求類、蓋即三書合刻者、卷首有聖徒、明麟二印、卷末有松園庵印、

又舊鈔本 寶素堂藏

體式略與前本同、每半面口行、行口口字、卷首有江雲渭樹印、係林羅山先生舊物、

張說之文集口口卷明人鈔本 楓山官庫藏

此就嘉靖中所刊永樂七年濠貞陰老人伍德本重鈔者、卷中朱筆校訂頗詳密、識語散見各卷、卷首序後朱書云、此書先借何氏刻本印抄、因誤多不可改正、崇禎庚午先將英華文粹諸本校過、至己卯始得葉林宗鈔本對得二十卷存五卷、未遇善本姑俟之、錢牧齋云、復缺五卷非全書也、卷八末記崇禎己卯用錢牧齋抄本校、共增四葉、十月十日、卷十七末記崇禎己卯借葉氏抄本校過、俱捺空居閣藏書記印、又墨書云、九月十一日夜夢到一處、若看榜者、見榜中亦有余名、意頗悵惘徐行而歸、似是邸舍取筆書紅牋、作七言近體一首中催憶二句、比曉起又忘一句、其一句云、萬燈明裏哭孤身、回顧目前無一人識面者、邸中亦並新人、僕僮亦非舊從、若有無家之感、嗚呼余不作此夢

有第二百二十五、則當以宋志及通考為正、

鍾津文集二十卷宋槧本 求古樓藏

每半板十行、行十八字、界長六寸、幅四寸二分、四周單邊、有普門院印記、

南豐先生元豐類藁五十卷、續附一卷 明萬曆丁酉刊本 傳

經廬藏

目錄首有萬曆丁酉寧瑞鯉王璽二序、俱述曾敏才等重刊始末、又有隆慶五年邵慶序、元豐八年王震序、無名氏年譜序及後序、序說遺像贊詩、萬曆己卯羅汝芳重修祠堂記、隆慶元年裔孫佩刻粹言序、李良翰跋、正統十二年口口序、萬曆丁酉裔孫敏才等序、每卷首題查溪裔孫才道行思儀彥華祚校刊、每半板十行、行二十字、卷末有大德甲辰丁思敬跋、成化壬辰謝士元跋、卷端有讀耕齋之家藏印、及瞻園印、

文潞公集口口卷明嘉靖中刊本 懷仙樓藏

未見、

歐陽文集口口卷宋槧本 楓山官庫藏

矣、意境忡忡、豈隔世耶他生耶、是時正閱此書便筆記此、孱守居士後捺己倉父印、卷二十五末記天啓丁卯八月二十九錄完十月、初九釘成卷二十九、粗校過、淨護居士記于含碧樓、又捺空居閣藏書記印、但記云、孱守淨護皆用隱名、今不詳其人、明人舊物偶流傳此間者、可稱希珍、況如是冊以名家藏本數次校正、真所謂讀書者之善本也、卷首序有馮氏藏書、季振宜藏書二印、序後布御史之章、季振宜印、滄葦三印、首冊額上有上賞印、蓋收藏家標其最佳者也、

宋景文集殘本十八卷宋槧本 楓山官庫藏

宋宋祁撰、此書殘闕過半、全書卷數梓行年時皆不可知、現存第二十六至三十一、第八十至八十五、第一百二十至百二十五凡八卷、紙刻清明為蝴蝶裝、其為宋槧無疑、每卷有金澤文庫印記、按、四庫提要稱、此書久佚、今從永樂大典與次釐為六十卷、知其佚已久、本傳載集百卷、宋志文獻通考俱云百五十卷、書錄解題及焦氏經籍志作百卷、不知孰是、然此本殘編

紹興中刊、曾魯考異本、板式字樣賤陋、蓋坊刊也、
王文公文集七十卷宋槧本

無序跋及刊行歲月、每半面十行、行十七字、界長六寸八分、幅四寸九分、左右雙邊、每卷有金澤文庫印、三十卷末有顏氏口印、小島學古云、或疑原本七十五卷若八十卷、而今存七十卷者歟、序目散佚今不得詳、曩見明代覆宋本於高橋越州宅、小字端正紙色黃潤、有毛晉印記、蓋假宋本耳、

王荆公詩口口卷元槧本 楓山官庫藏

不記刊行歲月、撫刻楮墨俱劣、蓋坊刻也、卷首記芳春常住、有四衢庵吟風弄月印、

王荆文公詩注五十卷朝鮮國小字活板本 求古樓藏

鴈湖李璧箋注、須溪劉辰翁評點、首附年譜、有大德辛丑嗣子將孫序、及大德丙午龍門母逢辰序、每卷首有慈照院印、梅熟軒印、又有仁正侯長昭黃雪書屋清玩祕篋記、即仁正侯舊物、侯好古書架多祕策、後臥病廢讀書而藏散佚、此書即其一也、

東坡集四十卷宋槧本 昌平學藏

每卷首題東坡集卷第幾、每半板口行、行二十字、界長七寸七分、幅口寸口分、左右雙邊、文字端正紙刻精善、首有西禪寺常住記、缺三、四、五、六、十一、二十、十五、十六、十七、十八、二十一、二十二、二十三、二十八、二十九、三十六、三十七凡十七卷、末有仁正侯手跋、云、此書原藏洛陽西禪寺、後歸于妙心寺大龍院僧懶庵之插架、標上錄見幾冊失幾冊、蓋懶庵手書、距今垂二百年、當時尚為祕笈也、予獲之於都下書肆伏水卯兵、文化新元甲子七月廿二日黃雪山人識、

東坡集殘本十七卷宋槧本 昌平學藏

現存第一、第二十二至三十三、第三十七至四十、凡十七卷、首有御製序、集贊并序、末題乾道九年閏正月望選德殿書賜蘇嶠、每卷首題東坡集卷第幾、每半板十行、行十八字、序八行、行十六字、界長六寸七分、幅四寸七分、左右雙邊、書撫歐法楷墨精絕、宋槧中之

佳者、末卷有金澤文庫印、已上二本俱係仁正侯（長昭侯）舊藏、每書首有「仁正侯長昭」黃雪書屋鑒藏圖書之印、未附寄藏文廟宋元刻書跋、

長昭夙從事斯文經十餘年、圖籍漸多、意方今藏書家不乏於世、而其所儲大抵屬輓近刻書、至宋元槧蓋或罕有焉、長昭獨積年募求、乃今至累數十種、此非獨在我之為艱、而即在西土亦或不易、則長昭之苦心可知矣、然而物聚必散是理數也、其能保無散、委於百年之後乎、孰若舉而獻之廟學、獲藉聖德以永其傳則長昭之素願也、虔以宋元槧三十種為獻、是其一也、文化五年二月下總守市橋長昭謹誌、

王狀元集百家注分類東坡先生詩二十五卷 宋槧本 寶素堂藏

無序跋及梓行歲月、卷首題前禮部尚書端明殿學士兼侍讀學士贈太師諡文忠公蘇軾、每半板十三行、行二十二字、注二十七字、界長六寸七分、幅四寸三分、左右雙邊、紙刻俱佳、玄慎弘構樹等字闕末筆、卷

中用劉氏批點本校訂頗密、朱墨爛熳、不詳出于何人、卷末墨書性之二字、或即是人歟、卷首有平安堀氏時習齋藏印、堀正脩舊物也、

王狀元集百家註分類東坡先生詩二十五卷、附東坡紀年錄一卷宋槧本 求古樓藏 （靜節山房藏）

首有西蜀趙公夔堯卿序、卷首蘇氏題銜與前本同、每半板十一行、行十八字、界長六寸三分半、幅四寸一分半、左右雙邊、烏絲外標題注家姓氏、末有建安萬卷堂刻梓于家塾木記、卷首有鹿王院印、又有一印、字畫婉轉如亂絲不可讀也、

又元槧本

又舊刊覆元本 求古樓藏

此二本係劉辰翁批點本、俱未見、

山谷詩注二十卷舊刊覆宋本 求古樓藏

讀書敏求記云、舊刻山谷詩注甚佳、但目錄中宿舊彭澤懷陶令題下注云、舊本自此以上缺、二板以後諸題例之前各題下皆當有注脚、今詢無此本、姑列各題如

右、倘後得之當別補入、今吾家所藏二葉宛在卷首、各題下注脚俱全、前更有紹興鄱陽許尹豫章後山詩解一序、始知淵嘗以文藝類試有司為四川第一、惜乎刻此書者不及見之、遂令舉世缺此幾葉、宋本之難得（如此）遇、其言正與此本符、

又舊鈔本

此本蓋依前本鈔者、卷尾題天二戊七十七書、即謂天正二年甲戌歲七月十七日書也、

又朝鮮國刊本 懷仙樓藏

未見、

豫章先生文集口口卷宋槧本

每卷首題豫章先生文集卷第幾、每半板口行、行十五字、界長七寸九分、幅口寸口分、左右雙邊、楷法端正、字殆錢大、卷首記西禪寺常住五字、

陳簡齋詩注十五卷朝鮮國刊本 求古樓藏

劉辰翁詳點本、卷首有辰翁序、卷末有嘉靖二十三年甲辰朝鮮柳希春跋、云、歲癸卯宋相麟壽出、按、湖南

多刊書冊、而是集亦預焉、末署校正都邑刻手等名、每卷有多福文庫印、及仁正侯藏印、

謝幼槃文集十卷宋槧本 求古樓藏

首有呂本中行書序、及紹興壬申苗昌言題詞、趙士鵬等官銜五名、每半板十行、行十八字、界長六寸五分、幅四寸五分、居易錄載宋謝邁幼槃竹友集十卷、詩七卷、雜文三卷、謝方伯在杭手鈔本在杭跋云、幼槃詩文不傳于世、此本從內府借出、時方沍寒、京師備書甚貴、需銓京師費用不贍、乃手自鈔寫、每清霜呵凍十指如槌、幾二十日始克竣、藏之于家、亦足詫一段奇事也、萬曆己酉十二月二十四日辛酉、又曝書亭集竹友集跋、臨川謝幼槃與兄無逸並負詩名、呂居仁集江西詩派二十五人、幼槃其一矣、然其詩實與涪翁別、居仁又稱其似謝宣城亦不類也、書錄解題兩載竹友集、一曰十卷、一曰七卷、蓋七卷者詩而十卷者合文言之、是集流傳甚罕、謝有政在杭抄之、內府在杭收藏宋人集頗富、近多散失、惟此係其手書子孫裝界

成冊、平湖陸編脩、次友典福建鄉試抄得之、予見而令楷書生函錄、其副詩派遺集傳者無幾、予所儲陳無己、饒德操、江玉父、韓子蒼、晁叔用、呂居仁僅六家、得此而七焉、

狩谷望之手跋云、余初得此本觀之、字軟刻粗、頗不類宋槧、以為是明初覆刻耳、今讀此跋知萬曆之時已不傳于世、唯內府存之、若有明初刻本不當如此絕少、蓋宋刻亦有精粗不可一概論也、文化十一年季夏掖齋望之識、

崔舍人玉堂類稿二十卷、目錄一卷、附錄一卷、西垣類稿二卷宋槧本 求古樓藏

無序跋及刊行時月、每半板十行、行二十字、界長六寸九分、幅五寸一分、左右雙邊、此本宋槧中絕佳者、每卷有金澤文庫印、

柴邦彥跋曰、右宋槧玉堂類稿二十卷、西垣類稿二卷、南宋崔敦詩所著、附錄一卷乃其歷官制誥及祭文挽詞也、按、宋史敦詩無傳、據萬姓譜及墓銘、崔字大

朱子大全文集□□卷朝鮮國活字刊本 楓山官庫藏

卷首副葉、題嘉靖二十一年六月日內賜司諫院正言閱起文、朱子大全一件命除謝恩都承旨臣洪押字、卷頭有宣賜之記印、此本毛利氏所獻之一也、

平齋文集□□□卷宋槧本 求古樓藏

陸放翁詩選□卷明嘉靖中刊本 楓山官庫藏

村西集□卷元槧本 楓山官庫藏

皇慶壬子刊本、序後記小村書塾刊梓、撫印極精、

西翁近稿□卷元槧本 楓山官庫藏

延祐中刊本、板式與前書同、撫刻亦佳、已上二書毛利氏獻本之一、

梅花百咏一卷舊鈔本 寶素堂藏

元章珪撰、首有至正五年楊維禎序、卷首題山陰章珪賦、每半面十四行、行二十一字、相其筆法蓋慶元間僧徒所鈔、卷中所載詠梅始庭梅終紙帳梅凡一百首、

雅常熟人、紹興進士、官至中書舍人、性謹厚知大體、所陳剴切、為孝宗所器許、有文集二十卷、奏議五卷、制藁二十三卷、又著制海監韻等書、就司馬公通鑑舉論每代得失正邪、成要覽六十卷以奏、御帝命更定呂東萊文鑒、其增損去留率有意義云、又按、藝文志所載周必大玉堂西垣二稿二十二卷、即謂崔此稿脫脫誤認為必大所撰、蓋疎也、他陳直齋書錄解題以下諸家書目皆不著錄、獨明葉盛列之菴竹堂目錄、則明氏中葉其書猶存也、爾後敏求四庫等錄皆不之及、則或者已亡矣、此本古色鬱然、其為當日原板不可疑焉、首有金澤文庫印記、上杉氏舊藏也、流傳歸于小倉氏觀月堂焉、宋刻古本在唐山猶為罕覩、況於萬里之外其可不寶愛乎、借觀數十日、詳其編纂、僅止制誥口宣批答及青詞致語等、他無一及別題、蓋所謂制稿二十二卷者矣、其他奏議文集知大體而剴切者皆不可見、為可惜已、小倉名祐利、以鬻書為業、享和三年癸亥九月東讚柴邦彥記、

卷末有天台胡世佐跋、按、四庫未收書、云、德珪此作始以李仲山之命成咏梅二十六首、繼又撫拾見聞更成百首、復以梅花未入楚詞、作補騷一章以附於後、攷胡世佐跋亦有作補騷語、而此本不載之、蓋其所原本偶脫之也、是書末附張逢辰菊花百詠一卷、

總集類

文選零本一卷舊鈔卷子本 溫故堂藏

現存第一卷一軸、首有顯慶三年李善上文選注表、梁昭明太子撰文選序、序後接本文、題文選卷第一賦甲、次行京都上斑孟堅兩賦二首并序、張平子西京賦一首、界長七寸五分、幅一寸、每行十三字、卷末隔一行題文選卷第一、不記鈔寫年月、卷中朱墨點校頗密、標記傍注及背記所引、有陸善經善本五臣本音決鈔集注諸書及今案云云語、攷字體墨光當是五百許年前鈔本、此本無注文、而首冠李善序、蓋即就李本單錄出本文者、

又舊鈔卷子本 求古樓藏

僅存吳都賦、礫而不闕玉淵者、未知驪龍之所蟠已下數紙、界長七寸九分強、每行幅九分、行十四字、此本當亦依李善本錄出者、背寫佛經、末題菩薩戒羯磨文釋文鈔、文永三年丙寅六月十日書寫畢、知此本在文永已前也、

文選李善注六十卷明刊本 求古樓藏

每卷首題奉政大夫同知池州路總管府事張伯顏助率重刊、前有成化丁未希古序、云、今板本藏在南離者、歲久刊缺不完、近得善本止存李善注、間有增注者頗簡要明白、因命儒臣校讎訂正、刻梓以傳、其於五臣之注皆在刪除、而獨留善注者、蓋以蘇子瞻謂五臣乃俚儒之荒陋者、反不如善故爾、卷首有讀耕齋之家藏印、

文選六臣注六十卷宋槧本 足利學藏

首有李善上表、卷首題文選卷第一、下記五臣并李善注、每半板十行、行二十一字、注三十餘字、疎密不整、界長七寸三分、幅五寸一分、左右雙邊、字畫精嚴

鐫刻鮮明、宋刻中尤精妙者、籤題篆書李善五臣文選六字、不為界格夾書卷數、乃為當時裝潢之舊、每卷首尾有金澤文庫印記、第三第六第十二第十五第三十第三十九諸卷末有九華叟跋記、永祿三年學庠寄進平氏政朝臣、捺福壽應穩朱印、末又有三要加朱墨點記、卷中點校頗密、

又宋槧本 楓山官庫藏

卷首題文選卷第一、下記李善注、次列書五臣名、大板大字、楮墨完好、每半板九行、行十五字、注二十字、界長七寸八分、幅五寸八分、弘竟讓敬貞玄桓殷構等字皆缺筆、板心間記重刊等字、第一卷末記州學司書蕭鵬校對、鄉貢進士李大成校勘、左從政郎充贛州州學教授張之綱覆校、第十八卷末記州學齋長吳極校對、左迪功郎新昭州平樂縣尉兼主簿嚴興父校勘、左迪功郎贛州石城縣尉主管學事權左司理蕭倬、第二十六卷末記左迪功郎新永州零陵縣主簿李汝明覆校、各卷所記互異、又有劉格非陳裂鄒敦禮等

名、而張之綱蕭鵬校正題識居多、不記刻梓歲月、蓋即宋時州學刊本也、卷一卷二末有應永三十四年四月校點記、卷八末記潛齋點之、卷二十六末引舊本載安元三年助教中原師直跋、後記應永二十九菊月十一日寫點畢鼎子誌之、卷五十末有永享四年校點記、俱未詳其人、籤題有玄興印記、僧南化舊物也、近藤守重云、此本板式古樸、彷彿宋槧、然審定之當是明初覆刻、非宋時原刊也、未知果然否、

又明嘉靖己酉翻雕宋本 求古樓藏 (靜節山房藏)

此本嘉靖間吳郡袁裝依蜀大字本翻雕者、卷首題六家文選卷第一、下記唐五臣注、崇賢館直學士李善注、每半板十一行、行十八字、注二十六字、界長七寸八分、幅六寸、昭明序後有識語、云、此集精加校正、絕無舛誤、見在廣都縣北門裴宅印賣、卷末記云、吳門袁氏善本新雕、又跋云、余家藏書百年見購鬻宋刻本昭明文選、有五臣六臣李善本、巾箱白文小字大字殆數十種、家有此本甚稱精善、而注釋本以六家為

優、因命工翻雕、匡郭字體未少改易、刻始于嘉靖甲午歲成于己酉、計十六載而完、用費浩繁、梓人艱集、今摸搨傳播海內、覽此冊者毋徒曰開卷快然也、皇明嘉靖己酉春正月十六日吳郡汝南袁生駉題于嘉趣堂、卷首有是書會藏蔣絢臣家印、源弘賢所藏唐人小說、亦有蔣絢臣藏書印、卷尾有嘉靖乙丑歲忠雅堂謹藏記、按、曝書亭集宋本六家文選跋云、六家注文選六十卷、宋崇寧五年鑄板、至政和元年畢工、墨光如漆紙質堅緻、全書完好、序尾識云、見在廣都縣北門裴宅印賣、蓋宋時蜀牋若是也、每本有吳門徐賁私印、又有太倉王氏賜書堂印記、是書袁氏表會仿宋本雕刻以行、故傳世特多、然無鑲板畢工年月、以此可辨僞真也、朱氏所稱即斥此本、但製作表則誤耳、近藤守重云、蘇州府志載、袁鑿字尚之、博學善屬文、知名吳中、性最亢潔、學尤長於詩、書法入米元章之室、世說新語有袁鑿序、明袁宗信金鑿玉振集收袁鑿奉天刑賞錄、即此人也、又明百家詩載袁鑿集、石倉十二代詩選有袁鑿集、俱是袁鑿也、與鑿自別、攷琳琅書目載明板文選數部、皆書估就袁本妄改識語偽造宋刻者、亦足見此本之佳焉、容安書院亦藏是本、稍屬後搨、少跋文、又有萬曆中刊

十行本、依是本減一行者、紙刻賤劣、不及此本遠矣、又慶長丁未活字刊本

卷首體式與足利學所藏宋本同、蓋依足利本活字刷印者、目錄首題云茶陵前進士陳仁子校補、攷宋本無總目、宋板諸書多然、而此則依陳氏本補入、已不可輒以為原于元刻也、卷末有紹興跋文、亦依別本添補者、每半板十行、行二十三字、注雙行、界長八寸二分、幅五寸四分、四周雙邊、此本慶長丁未歲直江兼續用銅雕活字印行、世因稱直江板、嘗見有羅山先生真蹟跋本、云、此本近歲米澤黃門景勝陪臣直江山城守某開板于要法寺、余請秋元但馬守泰朝、而後泰朝告景勝而得之以寄余、此可以見概略矣、又有寬永中活字刊本、依此本重刊者、又朝鮮國銅雕活字印本 福山鹽田屯藏每半板十行、行十七字、界長八寸三分、幅五寸八分、大板大字、體式與前本略同、惜此本殘缺不完、所存僅十九本耳、

文選集注零本三卷舊鈔卷子本 賜蘆文庫藏

見存第五十六第六百十五第六百十六合三卷、每卷首題文選卷第幾、下記梁昭明太子撰、及集注二字、界長七寸三分、幅九分、每行十一字、注十二四字、筆跡沈着墨光如漆、紙帶黃色質極堅厚、披覽之際古香襲人、實係七百許年舊鈔、注中引李善及五臣陸善經音決鈔諸書、注末往往有今案語、與溫故堂藏舊鈔本標記所引合、就今本考之是書似分爲百二十卷者、但集注出于不知何人、或疑皇國紀傳儒流所編著者與、其所引陸善經音決鈔等書逸亡已久、陸善經注文選、編檢史志不載其目、攷見在書目、文選音決十卷公孫羅撰、文選鈔六十九卷公孫羅撰、又載文選鈔卅卷缺名氏、未知孰言、第百十五卷首題云、今案鈔爲郭林宗、今得藉以存其厓略、豈可不貴重乎、小島學古云、此書會藏金澤稱名寺、往歲狩谷卿雲、清川吉人一閱歸來、爲余屢稱其可貴、而近歲已歸于賜蘆之堂、故得縱覽、此本曾在金澤而無印記、當是昔時從他假借留連者矣、近日小田切某又得是書零片二張于稱名寺敗篋中、一爲第九十四卷、一不知卷第、今歸僧徹定

架中、聞某氏亦藏第百二卷、他日當訪求之、

玉臺新詠集十卷明嘉靖中翻雕宋本 求古樓藏

首有徐陵序、每半板十五行、行三十字、界長六寸七分、幅四寸五分、末有嘉定乙亥陳玉久跋、知依嘉定本重雕者、又有明崇禎癸酉趙均刊本、乃原此本、文化三年昌平學依趙本重刻行世、今所傳蓋以此本爲最古云、

文館詞林零本十卷弘仁十四年鈔卷子本

現存百五十八、首缺、四百五十二、四百五十三、四百五十九、六百六十二、六百六十四、六百六十八、六百九十一、首缺、六百九十五、六百九十九凡十卷、卷首題文館詞林卷第四百五十二、碑卅二、百官廿二、次行署中書令太子賓客監修國史弘文館學士上柱國高陽郡開國公臣許敬宗等奉勅撰、次行題將軍二載目錄、界長六寸七分、幅七分、每行字數不整、筆力沈道、卷末記云、校書殿寫弘仁十四年歲次癸卯二月爲冷然院書、捺冷然院印、方一寸七分、嵯峨院印、方一寸二分、按、唐

會要云、顯慶三年十月二日許敬宗修文館詞林一千卷上之、見在書目舊唐志所載卷數皆同此本、依跋文攷之、弘仁中奉勅書寫置之冷然院、冷然院乃儲御書處、貞觀十七年罹災、祕閣收藏圖籍文書悉為灰燼、事見三代實錄、後以然字從火改用泉字、見拾芥抄引、天曆御記、而是書得免災僅存者、意當時從上皇在嵯峨離宮、故未捺冷然嵯峨二印也、二印應解、藏印權輿、今零卷散在諸處、高野山所藏尤多、現存二十餘卷、一云十六卷、憾未得盡窺之、昔時僧齋然入宋話及存我之書內有文觀詞林、時人不知其目、以館作觀、且誤謂皇朝人所著、事見宋朝類苑、引楊億談苑、知是書在宋初已失傳、則雖零卷殘軸所存不多、實可寶重矣、文中述齋林君得是書零本收于佚存叢書中、近日孫星衍續古文苑、阮元四庫未收書、提要皆援引之、則已播西土、但其所傳僅四卷不及其他、是亦可憾耳、

〔佚存叢書所刻四卷六百六十二、六百六十四、六百六十八、六百九十五、詳書一覽云、橋本肥州橋經亮、寬政十二年十二月所刻二卷、原本藏津國、武庫勝福寺、六百九十五、末題〕

云、校書殿寫弘仁十四年、三百卅八、末題云、校書殿寫弘仁十四年、此題號中半押方印一、歲次癸卯二月為冷然院書、此跋二行而其中、問押方印三、

〔補註、約之按、此三百四十八卷訪古志失載、單書一覽又云、兼葭堂藏一卷、寫于佛書三宗相對抄背、文中往往用則天製字、約之按、此卷未詳何處宜攷。〕

古文苑注二十一卷明刊本 求古樓藏

首有紹定壬辰章樵序、張琳序、及目錄、每半板十行、行十八字、界長六寸五分、幅四寸八分、四周單邊、不記刊行歲月、攷板式字樣當嘉靖間依宋本重刊者、狩谷望之云、此本每卷首有本卷目錄、猶文選古本如清刻刪除每卷目錄、以第二十一卷內諸篇散置、逐卷近刻失古本之面目、往往如此、此本雖非遵王所謂古本者、而亦未失宋時之舊觀者也、卷首有必端堂圖書記、島範之印、島範家藏萬卷、松屏書庫諸印、卷首副葉有八分十勿記、

二李唱和詩集一卷北宋槧本 崇蘭館藏

宋李昉李至唱和作、首尾缺逸、體式不可攷、每半板十二行、行十九字、至二十字、疎密不整、界長六寸五

分、幅四寸六分、左右雙邊、玄敬殷等闕筆、板式雅古、其為北宋原刊無疑、是書流傳絕少、收藏家鮮知之者矣、

唐賢文粹一百卷宋槧本 賜蘆文庫藏

每卷首題吳興姚鉉纂、每半板十五行、行二十五字、界長六寸四分、幅五寸七分、左右雙邊、板心有刻手名氏、此本係市野光彥舊藏、缺一二兩卷、

市野光彥手跋云、此本為鐵山禪師藏書、其題籤禪師所自書、裱裝古色可愛也、審其板式、字方而平、不如元本每字款寬帶行體也、定為宋刻之巖率者、向書肆齋此書、予見而愛之、友人秋谷橫山氏、名達彌、早已買而收之、亡幾秋谷病卒、遺命貽予、為其同好也、予深感友義之切云、鐵山諱宗純、慶元間有名之僧、嘗跋覆元本玉篇者、傳見延寶傳燈錄、文化十四年歲在旋蒙亦奮若夏六月、

又明嘉靖甲申重刊宋本 求古樓藏

首有嘉靖甲申戈陽汪偉器之鈔、云、大學生徐煇家刻

也、徐生嗜古博藏、其刻是集躬自監視、一字一畫弗稱必更之、又有嘉靖丁亥天水胡續宗世甫序、云、是集古有刻本、近亦彫闕、婁江國子徐生煇有慨於是、購得古本翻而鈔之梓、梓成殊類古刻、每半板十四行、行二十五字、界長六寸五分、幅四寸六分、左右雙邊、

又明嘉靖戊子刊本

嘉靖戊子朱知焯校刊、每半板十三行、行二十一字、界長七寸、幅四寸九分、四周單邊、

西山先生真文忠公文章正宗二十四卷明初刊本 寶素堂藏

首有正德庚辰崔銑序及綱目、目錄、每半板十行、行二十一字、注雙行、界長六寸一分、幅四寸二分、左右雙邊、板心有刻手名氏、板式雅古、當依宋本重雕者、

唐朝四賢精詩四卷舊刊本 昌平學藏

無序及跋文、編撰名氏不可攷、輯錄李翰林杜工部韓吏部柳禮部四家詩者、每半板十一行、行二十一字、字畫端雅、彷彿南宋槧、蓋即覆雕宋者、其刻應在三

四百年前矣、

增註唐賢三體詩法三卷朝鮮國刊本 容安書院藏

正統元年刊本、首有大德九年紫陽山虛叟方回序、
裴度、唐世系紀年、集中人名、唐輿地圖、至正二年裴度
序、諸家集註諸例及綱目、卷首題增註唐賢絕句三
體詩法卷之一、汝陽周弼伯弼選、高安釋圓至天隱
註、東嘉裴度季昌增註、每半板十行、行二十二字、界
長六寸五分、幅四寸九分、每注末白字摸出增註二字
以別原註、卷末有正統元年韓臣鄭麟趾跋、云、殿下
出賜經筵所藏善本、許令開刊、遂鈔梓于清州牧、數
月而功訖、此本係市野光彥舊藏、卷首有松屏書庫
印、

又舊刊本

體式行款一同前本、即覆刻前本者、卷末無韓臣跋
文、按、明應本跋云、舊刻之在京師者散失于丁亥之
亂、所謂舊刻蓋指此本、丁亥謂應仁元年也、
又明應甲寅刊本

此本復就前本重刊者、上卷末題云、明應甲寅之秋新
板畢工矣、先是舊刻之在京師者散失于丁亥之亂、以
故捐費刊行焉、置板於萬年廣德云、葉巢子敬誌、葉
巢子未詳誰氏、此板流傳至泉南阿佐井野宗禎購以
置之於家塾、聽學者印摺、亦見後記、按、卷首方回序
後、朝鮮本有大德九年乙巳九月初六日數字、舊刊本
及此俱刪去、不知何謂、

疊山先生批點文章軌範七卷元槧本 昌平學藏

此係疊山編次、原本首有目錄、讀李翱文後有識語、
云、此篇除點抹係先生親筆、外全篇却無一字批注、
岳陽樓記後云、此一篇先生親筆、祇有圈點而無批
注、如前出師表則併圈點亦無之、不敢妄以己意增益
姑仍其舊、淵濟謹識、歸去來辭後云、右此集惟送孟
東野序、前赤壁賦係先生親筆批點、其他篇僅有圈點
而無批注、若夫歸去來辭則與種字集出師表一同、併
圈點亦無之、蓋漢丞相晉處士之大義清節、乃先生之
所深致意者也、今不敢妄自增益、姑闕之以俟來者、門

人王淵濟謹識、此諸條通行本所無、卷首題廣信疊山
先生謝枋得君直編次、每半板十行、行二十二字、界
長六寸一分、幅四寸九分、第六卷柳子厚墓誌書、箕
子廟碑陰首俱記云、此篇係節文、今一依元本刊行、如
左此數字陰文書之、亦淵濟所記也、是書坊間諸本率
多後人增改殆不足據、而此本淵濟依疊山手訂原本
校刊、批評圈點一依其舊不復意改、則真可謂謝氏原
本矣、松碕氏石經山房又藏元刊本、乃與此同種、本
學又藏朝鮮國刊本、體式略與此本同、未經後來增修
者、亦佳種也、

元文類七十五卷元槧本 楓山官庫藏

至正間槧本、文字漫漶紙質斷爛、蓋坊本也、係神原
玄輔舊藏、其所缺皆手鈔補繕、玄輔字希翊、號篁洲、
從木下順庵學、最長律學、又有書名云、卷首有玄輔
之印、冷山書屋、有竹人家數印、卷末有手跋、云、此
本數歷裝釘紙幅減損、既迫匡郭釘痕甚多、不可復裝
裁也、後之得焉者勿改鑽之、元祿十三年重陽之後三

日神原玄輔希翊識于江都紀邸之北玉照齋、又記云、
右以清種德堂重訂行之本補完訖、近刻文字尤多謬
誤、此本雖苦麻沙、比近刻則最為愈矣、古本不可以
其漫漶而忽之如此矣、元祿十三年九月二十五日、末
有顛手撞撞篁洲輔印、字希翊翰墨、清興玄輔之印、
希翊父諸印、

皇元風雅前集六卷、後集六卷舊刊本 求古樓藏(靜節山房藏)
前集首有至元二年虞集伯生題辭、卷首題江梅谷
傳習說卿采集、儒學學生孫存吾如山編類、奎章學士
虞集伯生校選、每半板十三行、行二十一字、界長五
寸六分、幅三寸八分、卷末有謝升孫序、此本蓋翻雕
元槧者、每卷有良岳院朱印、余語氏所藏舊刊本亦與
此同種、

詳說古文真寶大全前集十二卷朝鮮國刊本 求古樓藏
卷首題前進士宋伯貞音釋、後學京兆劉刻校正、東陽
進德詹氏刊行、每卷有殺安鼎形印、(即係懷仙閣舊
藏)、

魁本大字諸儒箋解古文真寶後集「十卷」「イナシ」明初刊本 「イナシ」寶素堂藏

無序及跋文、首有目錄、卷首標目下白文記後集二字、蓋原合刻二集者、每半板十一行、行二十一字、注雙行、界長五寸九分、幅三寸九分、間有補刊、板式廣狹不整、卷端頁頭題仁實書堂四字、蓋明修元板也、卷首有口口齋高山流水二印、容安書院藏舊刻本、體式行款一同此本、卷末有一翁題名印記、即覆刻此本者、又有慶長中活字本、首有至正丙午鄭本序、每半板八行、町本屋新七刊行、按、求古樓所藏活字本、每半板八行、卷首有天津藏印記、係南光坊僧止舊物、每半板八行、行十五字、卷末有慶長甲寅歲前南禪寺文英史、清韓跋、述加訓點之意、卷首有平安堀氏時習齋藏印記、及舊鈔無注本、此本蓋依箋解本錄出本文者、卷末記云、永祿十一年戊辰十二月二日全書寫、同十二年乙巳正月廿九日終、周超世譽廿九歲、明刊增釋本、每卷首題標題音釋明解古文大全、每卷載補九歲、增文數篇、卷末記源泰書堂重刊、蓋萬曆間坊俗刻本也、已上四通、俱係容安書院所儲、

詩文評類

文心雕龍十卷明嘉靖刊本
未見、

詩人玉屑二十卷舊刊本 求古樓藏

未見、

又朝鮮國刊本 懷仙樓藏

卷末記本云按書一部批點句讀畢、胸臆之決錯謬多焉、後學之君子望正之耳、正中改元簡月下泮洗心子玄惠誌、又有正統己未韓臣尹炯等跋、稱、主上殿下念詩學之委靡欲廣布此書、歲在丙辰、出經筵所藏一本命繙之、梓始刊于清州牧臣炯觀、其舊本頗有誤字、即命集賢殿警正以下云云、末列署監校校正刻手等名銜、以跋文攷之、此本韓臣奉國主命依玄惠校本刊行者、凡皇國所傳典籍、近日流傳于海外者僅數部耳、正中隔今殆五百三十餘年、而是書在正統初韓人早已刊行、不亦奇哉、

安政四丁巳閏五月廿三日校讐比正一過畢、如常與家大人對坐員山北岐速讀書屋南牖下誌、夫此訪古志今年之春小島春沂君及堀川舟庵二人謄稿、而此本其

經籍訪古志卷第七 經籍訪古志補遺イ本

醫「家類」

重廣補註黃帝內經素問二十四卷明代撰刻宋本 非修堂藏
每半版高七寸強、幅五寸二分、十行、行廿字、注文雙行三十字、每卷末附釋音、板心記刻手名氏、不記刊行年月、每卷捺東井文庫、文、靜然之印朱白、二印、柳泚先生跋曰、右本與顧氏所刻同、從北宋板重彫者、若般匡晁恆玄徵鏡字並缺末筆、其楮墨鈐摹並臻精妙、遠過顧刻、卷首鈐東井文庫印、蓋係慶元間名醫一溪先生舊物、

或曰、此本檢其體式、恐非北宋舊刊、據標目重廣字卷首署諸臣銜名、俱似非當時之式、南宋刊經傳往往附釋音、此本亦然、

按、素問以此為最正、而明代覆刻者凡有三種、其一嘉靖庚戌顧定芳所重彫、其行款體式一與此同、首有顧從

謄稿後傳寫之、尤初者也、儒醫共是太匠家大人作草稿矣、附錄二卷在後、通計八卷也、侵庭石士森約之書、
本編儒部六卷悉春沂君書、附錄醫部二卷共舟庵書也、是原本之事也、同日約之又書、
澀江道純全善丁巳冬月借余此本而謄寫、亦用流離紙為三冊、其體總倣余此本矣、約之志、

經籍訪古志卷第六終

德序、松江府志、及秦漢印、後註、顧從德本、岡西氏藏之、清川氏亦藏、統舉顧氏世系履歷、宜考、(而缺卷一、卷二、其卷一、卷二在上國編并、不得成備完、而聖災亡、則清川氏缺本亦可珍也、) 其一為無名江氏顯本者、久志本氏滅之成和刻本、實可惜矣、其二為無名氏所刊、板式亦同、不記梓行歲月、文字或有譌、蓋係坊間重影、在誠藥室藏 其一為吳勉學重影、顧氏本收在醫統正脈、中卷首宋臣序序字作表、板心文字頗屬削却、後註、無名氏所刊一本、問津館亦藏一部、係符谷望之舊物、後又得一本、全此本、而初摺鮮明紙質亦佳、因以符谷本稱于山田業廣、實明治丙子夏日也、

又有萬曆中申周曰校刊本、卷數與此同、今細勘之、實以無名氏仿宋本為原、皇國二百年前活字配印本、容安書院藏、及寬文三年刊本並据此本、寬文本序後稱、吳勉學重校梓、每卷宋臣名銜、次稱熊宗立句讀、蓋坊間求售伎倆不復周氏之舊、又潘之恆黃海所收本亦依無名氏仿宋本、昌平學藏

重雕補註釋文黃帝內經素問二十四卷古鈔本 講壽館藏
釋音移在每注下、每半葉高六寸八分、幅四寸八分、強、八行、行廿字、注文雙行、不記鈔寫年月及名氏、卷十八末題假承務郎權醫學錄臣趙叔度校正、軍器

庫幅使兼翰林醫官臣盧德誠校正、

按、此本有皇國古時博士家朱點、檢其紙質字樣當是四五百年外物、經注文間有異同、往往與元藪合、要雖不及宋本之善、然亦卓有可以訂諸本之謬者、如天 真論年百而動作皆衰、中上有至字、與太素及千金合、陰陽應象論化五氣、化下有為字、平人氣象論脈小實而堅者病在內、病上有曰字、與例合、痺論或燥或濕、無或燥二字、與岐伯答合、大奇論脈至如火、煎然、新作新與注合、氣府論俠背以下至尻尾背脊、水熱穴論關門不利、門作閉與、注、蓋今行宋本以北宋本為原、而此則就南宋本賸鈔者歟、此係肥後村井椿壽所藏、天保癸卯其子玄濟獻之、醫學者小島春沂近獲舊抄零本一卷、稍同此本、

新刊補註釋文黃帝內經素問十二卷、素問遺編一卷、運氣論奧三卷、黃帝內經靈樞十二卷 元至元己卯古林書堂刊本
幸修堂藏

素問總目後有木記、曰、是書乃醫家至切至要之文、惜乎舊本訛舛漏落有誤學者、本堂今求元豐孫校正家藏善本重加訂正、分為一十二卷、以便檢閱、衛生君子幸垂藻鑑、又目錄後有木蓋子題、曰、元本二十

四卷今併為一十二卷刊行、又未有木記、題至元己卯高節古林書堂新刊、

靈樞首載史崧序、目錄後題元作二十四卷今併為十二卷計八十一篇、墨筐題至元己卯古林胡氏新刊第一、卷末題至元庚辰高節古林書堂印行、目錄及卷二題云、黃帝素問靈樞集註、每注末附音釋、

有公忠鄭氏書府妙覺寺常住日典及盛方院印、

按、素靈如明熊宗立本、此依元槧重影、更有首釋補遺一卷、運氣圖括定局立成一卷、末記成化甲午年熊氏種德堂、酌源堂藏、趙府居敬堂本、精似嘉靖間物、政明史趙簡王高鑑永樂二年封子孫承襲、係白文、蓋嘉靖間本、幸修堂藏、懷仙至茂曆中、幸修堂藏、關亦藏此本、卷中有藍筆評點、物似倣真、素問如朝鮮活字本、幸修堂藏、朝鮮整版、寶素堂藏、又崇運氣論奧、俱行款與活字本同、靈樞如吳勉學本、醫統正脈所收、朝鮮活字本皆併為十二卷、蓋元板作之備也、

又按、道藏本靈樞題云黃帝素問靈樞集註、蓋亦祖胡氏者、道藏字大帖狹、每部多析卷第、此亦析為二十三卷以此已、

新刊黃帝內經靈樞二十四卷明代無名氏仿宋本 存誠藥室藏

每卷末附釋音、不記刊行年月、每半板高六寸九分、幅五寸強、十行、行廿字、

按、此原與素問已見合刊、檢其板式亦覆刻宋本者、然諱字無缺筆、殆南渡以後物乎、今行靈樞唯此為最善、伊澤氏酌源堂藏亦有之、

周曰、校本卷數亦與此同、即與素問合刻者、皇國重刊本文字多譌、亦非周氏之舊、

黃帝內經靈樞略一卷抄出于道藏太玄部業字號中

小島學古曰、鄭氏通志執文略靈樞略一卷、殆是書也、

黃帝內經太素三十卷 缺第一、第四、第七、第十六、第十八、第廿一、凡七卷、傳寫仁和三年舊鈔本

唐通直郎守太子文學楊上善奉勅撰注、每卷末記仁平文善保元仁安等年月、有云以家本移點校合了憲基、有云移點了丹波賴基、舊為卷軸、界行高七寸五分強弱、每行字數不同、十四五字至十六七字、界行高廣書式所言合、當時之制僅存于是書、可貴、是書久無傳本、曩歲平安福井棣亭得第廿七卷摸刊

以傳、既而小島學古聞尾藩淺井正真、就仁和寺書庫鈔得廿餘卷、亟使書手杉本望雲就而謄錄以歸、即是本也、學古之功偉矣、棟亭所得蓋亦同種云、

王翰林集註黃帝八十一難經五卷慶安五年刊本

此本雖未見原本、蓋依明板翻刻者、其板往罹祝融、今世希、有林天瀑祭酒活字擺印、收入佚存叢書中、而阮元四庫未收書、提要舉有其本、寬政中醫官千田子敬亦有重刊、其功不可沒矣、

〔後註〕元治甲子小春於淺草書肆得難經集注鈔本、體式與慶安板本不同、如左、

每半面高六寸八分、幅五寸五分、九行行廿字、注文雙行、用紙百十九葉、卷首無集注難經序五字、序末聖旨云云提頭書、目錄前有注家姓氏、如左、

王翰林集註黃帝八十一難經綱目

靈國秦越人撰、東京道人石友諒、音釋、呂廣、丁德用、楊玄機、虞庶、楊廣侯、註解、翰林醫官殿中省尙藥奉御王惟一、校正、王翰林集諸家補註黃帝八十一難經

卷一、經脈診候第一、二十四首、

一難曰十二經皆有動脈、呂曰是手足經十二脈也、丁曰十二經皆有動脈、

扁鵲八十一難經辨正條例一卷樓憲先生手鈔本、幸修堂藏

〔宋〕醫門後學臨川周輿權辨正、樓憲先生跋略曰、櫻寧生著難經本義、其凡例首條譏周氏之擅、予嘗謂韓愈之於魯論、郭京之於周易、皆有所釐正、雖不知竹簡漆書果如其言也否、視之於拘泥舊文之差誤、左傳右會以爲說者非無所闡發、蓋此辨正釋疑之條例也、頃者白雲後人野間玄琢攜此書以見貸、因手鈔一本以備他日之研揣云、

黃帝八十一難經纂圖句解七卷道藏本影鈔

〔宋〕臨川晞范子李嗣子堃句解、序稱大宋咸淳五年歲次己巳、攷國史經籍志四卷、此本七卷亦道藏所析也、

傷寒論十卷明趙開美校刻本、楓山祕府藏

每半版十行、行十九字、高五寸九分、幅四寸三分、

此本爲仲景全書中所收、曰翻刻宋板、每卷首題漢張

仲景述、晉王叔和撰次、宋林億校正、明趙開美校刻、

沈琳同校、其字畫端正頗存宋板體貌、蓋傷寒論莫善於此本、然流傳絕少、僅見祕府所貯、而人間特有寬文重刊本、今取校之、如辨脈法脈陰者如轉索無常也、寬文本陰字改作緊、傷寒例不當與也、寬文本不字在與字下、太陽上篇桂枝加葛根湯林億注、今證云汗出惡風而方中有麻黃、恐非本意也、第三卷有葛根湯證云無汗惡風、寬文本也、第三卷葛根湯八字誤在今證云汗出下、殊不可讀、太陽中篇大青龍湯溫粉粉之、寬文本粉之作撲之、得病六七日脈遲浮弱條小便難、寬文本難誤作黃、厥陰篇脈弱者今自愈、寬文本今今論令辨不可、下篇第三條欲得水自灌、寬文本灌誤作活、皆宜從此本是正者矣、蓋趙刻每條提書、而寬文本則隔以圈子、其行款字數亦皆不同、知寬文本之爲改寫付梓明矣、

寬文本既非佳刻、然在今日蓋僅足觀宋板之髣髴者、而近日流傳漸稀、又別有重刊本、則愈失其真、至於

併三百九十七法之目而不可知、殊可憾也、近日本ナシ

川濟翻雕楓山本以行于世、

此本有仲景全書、目錄首云、翻刻宋板傷寒論全文、次成無己注解傷寒論、次傷寒類證、次金匱要略方論、蓋以此四種合刻而名仲景全書者、開美父某所命、序中詳言之、世更有除此經全文及成氏注解、換以張卿子集注傷寒論、而仍冒以仲景全書者、非趙氏之舊也、

註解傷寒論十卷元代刊本、幸修堂藏

此本不記刊行年月、愛日精廬藏書志載影寫金刊本、而嚴器之序題皇統甲子歲中秋日、此本无皇統二字、想器之以宋遺民不紀年號、明理論、序亦同、殆似聊攝舊本元代覆刻者、〔立之按、詳攷紙墨字體非元板明代翻元刊者、也、此本在館撰刻而行于世、蓋化政間事也。〕藏書志更有大定壬辰魏公衡及王緯序、王鼎後序、又朝鮮國醫方類聚所引文字頗同、如明注濟川本、嘉靖中刊、寶生堂藏、吳勉學本、收在醫統、趙開美本、仲景全書所收、取源于此、而誤認殊多、如熊氏明德堂刊本、幸修堂藏、据汪刻而重刻者、

金匱玉函經八卷 康熙丙申陳世倌刊本 聿修堂藏
傷寒明理論三卷、方論一卷 明葛澧刊本 聿修堂藏

此本不記刊行年月、稱古濠葛澧刊、首有歲在壬戌八月望日錦嶠山嚴器之序、據開禧改元張孝忠題辭、原與注解傷寒論合刻、而此本則係正德嘉靖間所重刊、但訛誤頗多固非善本、吳勉學醫統正脈所收、蓋據此本、

又皇朝活字版 容安書院藏

此本不記梓行年月、文字精善非葛吳二本之比、又有寬文九年梅壽軒刊行活字本、體式一同、

新編金匱要略方論三卷 明代仿宋本 聿修堂藏

每半版高六寸一分、幅四寸四分、十行、廿字、櫟憲先生跋曰、是書未知何朝代所刊、閱宋臣序中國家主上字皆擡頭書、開卷首金匱要略上冠新編二字、攷林億等言其有新編字、當是宋板之舊且證、次諸臣名銜署於前、而叔和仲景名氏却在後、此古人修書經進之體式、流傳諸本未見如此者、俞子木本與此略

同、俞本中卷缺排膿湯以下四方、而此書從排膿湯以下至中卷末而全缺焉、且訛字頗多、余所藏王氏脈經多諱字、而和劑局方魏氏家藏之類則無之、蓋脈經乃北宋頒布本、其餘則係南宋坊本、此書亦無諱字、宋本多訛字、胡元瑞嘗論之、知是南宋書帕所刻、然猶不失館閣之舊也、兒胤閱淺草之市購得此、安可不寶愛乎、文化七年庚午歲冬十二月朔重裝識、(補註、約之庚子十二月二日櫟憲先生忽然)而物此駁其前一日所記也、

俞子木本唯有皇國舊刊、宋臣序後記曰、宋學士王洙得是書於蠹簡、林億等雖校理重刻、元金以來世寡、經見諸家或載金匱方治、多於他書中得之耳、不然何未有一人能語其顛末者、嗟予小子幸獲伏讀、敢不寶惜、山南真逸俞橋識、

又明萬曆己亥趙開美校刻、收在仲景全書中

前載後至元庚辰樵川玉佩鄧珍序、皇國萬治己亥、寶曆丙子並有覆刻本、亦間失趙氏之舊、如臟腑經絡先後病篇首條、心火氣盛下更有心火氣盛四字、肝氣盛

下有故實脾三字、瘧濕隔篇注一云其脈洽洽字譌滄滄二字、防已黃芩湯方後腰下如水水字譌水、歷節身體魁羸魁字改作疍之類是也、

又明吳勉學刊本、收在醫統正脈中

此本卷首題應天徐鎔校、譌字甚多、蓋遜趙刻一等、有萬曆乙酉鎔附案一卷附遺方升合分兩、

以上醫經

新修本草二十卷 卷子本 影寫舊鈔本 存第四第五第十二、十三、十四、十五、十七、十八、十九、廿凡十卷 聿修堂藏

藏

唐司空上柱國英國公臣勣等奉勅脩次、第十五卷末載顯慶四年各官銜名次記、天平三年歲次辛未七月十七日書生田邊史、每行十六七字、注文二十五六字、

按、此本舊鈔于天平中、天平距顯慶僅六十七年、則蓋是當時遺唐之使所齎而歸、實為李勣等編修之舊無復可疑矣、今以唐氏證類校之、異同錯出可互是正、而彼土宋以後亡佚不傳、則李時珍輩無知妄作亦

職是由、洵可慨也、乃在皇國亦久湮晦不顯、往歲狩谷卿雲西上觀一縉紳家舊鈔、即五六百年前人据天平鈔本謄錄者、實為天壤間絕無僅有之祕笈、仍亟影摹以傳同人、於是神光煥發、世始得窺古本草之真、則卿雲之功為至鉅也、

經史證類大觀本草三十一卷、目錄一卷 元大德壬寅宗文書院刊本 聿修堂藏

院刊本 聿修堂藏

宋唐慎微纂、首載大觀二年艾晟序、序後筐子記大德壬寅孟春宗文書院刊行、每半板高六寸八分強、幅四寸七分強、

按、錢大昕養新錄曰、是書初刊于杭州漕司、艾晟序謂、慎微不知何許人、其云大觀本草者因校刊之年題之也、其後曹孝忠被旨校刊、乃系以政和之名、若慎微著書實在元祐之世、不特非政和亦非大觀也、其書本名經史證類備急本草、大觀政和皆後來所題、而政和之名出于朝旨、則當以政和為正、然南宋人多稱大觀本草者、政和新修之本經、汴京淪喪不及流播、東

南陳直齋所收亦祇浙漕司本，故未暇訂正耳，今攷此本每卷標識不能畫一，艾晟序及第二十二卷末題經史證類備急本草，則其有備急字者實係審元舊面，而其或換以大全字，或依有大觀刊本而稱為大觀本草者，要中後人，錢氏之言為不誣也，其第三十卷末題云重廣補注圖經神農本草者，蓋陳子承本舊目之偶存者耳。

又按、此本中避孝宗嫌名，知其傳刻南宋本者，聿修堂所藏係驪恕公忠、舊藏、紙刻頗精，伊澤氏酌源堂亦藏一本，養新錄僅舉明代翻刻，則知此本之益可貴也，朝鮮國嘗有翻刻，而享保中醫官望三英覆刻行世，訛字轉多，〔補註、森約之按、京師高階安為守及福井氏、皆藏家文書院本云。〕又按、錢曰當以政和為正，此言未為當，今取大觀政和二部勘之，大觀宜見唐氏之真，而大德本謬脫頗多，〔如脫葛根括樓條是也。〕政和殊少舛漏，而曹氏既有釐改，張氏又附以衍義，然舍此無能校補大觀矣，要之二本俱易其原目，則不得執一以為正，宜二本兼存而可也。

又按、小島春沂近得明代重修本，〔按、小島春沂向真所得者。〕行款字樣一與此本同，而脫落諸條補刊完具，又京師伊良子氏〔伊良子主稅助。〕藏大德環溪書院刊本，卷末舊人補抄附淳熙十二年奉義郎張謂跋一篇，跋中言點勘舊本脫誤甚詳，他本未曾見之。

〔補註、約之按、一大德宗文本、〔辨壽、酌源、京師醫人、春沂藏審元〕、二大德環溪本、〔伊良子、三明代重修本、〔春沂、大昕〕、四韓本、五望月本、六明萬曆丁丑〕、入增衍義本、提要〕重修政和經史證類備用本草三十卷，目錄一卷，明成化重刊元大德丙午刊本，聿修堂藏。首載成化四年商輅序，次題云泰和甲子下己酉冬日南至晦明軒謹記，次己酉孟秋麻革信之序，次政和六年曹孝忠序，又有皇統三年宇文虛中跋，及己酉中秋日劉祁跋，云書張魏卿重修本草，後又記大德丙午歲仲冬望日平水許宅印。按、錢謙益有學集跋本草曰，金源氏以夷狄右文隔絕江右，其遺書尤可貴重，平水所刻本草題泰和甲子下己酉歲，金章宗太和四年甲子，宋寧宗嘉泰四年也。

印本能存其舊云、

紹興校定經史證類備急本草十九卷鈔本，聿修堂藏。首載紹興二十九年上進序，末有王繼先等四人官銜，按、書錄解題曰，紹興校定本草二十二卷，醫官王繼先等奉詔撰，今此本十九卷，玉石至菜部上品而止，蓋殘本也，且今世曾傳鈔本，而聿修堂所藏二通，其一文字稍佳，其一譌脫不一，曲直濶氏懷仙閣所藏本分為五卷，宋諱缺筆，繪畫亦精，蓋為就宋板而摸寫者是，書其圖則一摹原樣，而其說則僅舉白字黑字及紹興校定文而餘不具載，想出皇國人所抄撮，非原書之體也，新編類要圖註本草四十二卷，序例五卷，目錄一卷，宋建安余彥國刊本，聿修堂藏。

〔宋〕桃谿儒醫劉信甫校正，卷首有許洪校正字，目錄末記建安余彥國刊于勵賢堂，每半版高六寸四分，幅四寸四分，十行，行十九字，每卷捺金澤文庫印。按、此本節略唐氏證類而附以寇宗奭衍義者，劉信甫許洪俱宋嘉定間人，在張魏卿新增衍義之前二十有

至己酉歲為宋理宗淳祐九年，距甲子四十五年，金源之亡已十六年矣，猶書泰和甲子者，蒙古雖滅金未立年號，又當女后攝政國內大亂之時，而金人猶不忘故國，故以己酉繫太和甲子之下與，錢大昕養新錄亦有此說，曰、或以為金泰和刻則誤矣，〔程瑤田通藝錄亦有書後一篇、其意相同。〕又曰、金元之世平陽立經籍所，一時書坊印板咸集於此，今世所傳政和證類本草即平陽張存惠所刊也，此說為確，〔補註、約之按、一平水張氏原刊、〔宋淳祐九年元地金板〕、二平水許宅刊本、〔元大德十年丙午袁廷禧藏悉此〕、三成化本、〔辨壽、酌源、葆素、約之藏〕、四韓本、〔宋古業廣〕、五嘉靖本、〔梁本、澠江〕、六嘉靖本、七隆慶本、〔程瑤田藏、貞白〕

又按、段玉裁說文解字注曰，果人之字自宋元以前本草方書、詩歌紀載無不作人字，自明成化重刊本草乃盡改為仁字，於理不通，又曰、金泰和間所刊本草皆作人，藏袁廷禧所是，〔補註、約之按、袁氏所藏恐非平水張氏原德板亦皆作人不刊、蓋平水許宅大德本耳、若夫大全本大作仁、可以證矣。〕知彼士，蓋存有平水原刻，〔謂為泰和所刊者恐謬。〕然通藝錄僅舉隆慶本，則雖成化本亦不多有，蓋明代據成化本而重彫者不一而足，皆非佳刻，唯朝鮮國活字撮

餘年矣、卷中藥名分白黑、其餘悉黑書、但果人之人此特作人字、且每條畏惡相反大書其文字、或有勝於大德本、蓋別有所祖也、聿修堂又有黃紙舊鈔本、卷末或云福清縣江陰里姚寶峯抄、或云大明國人王氏月軒謹書、月軒在萬曆間歸化于我、此本即天正間人就其鈔本而傳錄者也、

類編圖經集註衍義本草四十二卷、序例五卷、目錄一卷
元板不記刊行年月 聿修堂藏

〔元〕世醫普明真濟大師賜紫僧慧昌校正、按、此書即類要圖註本草而妄改題目者、

本草衍義二十卷、目錄一卷宋槧本 楓山祕府藏 〔靜節山房藏〕

〔宋〕通直郎添差充收買藥材所辨驗藥材寇宗奭編撰、首載政和六年十二月廿八日付寇宗奭劄子、次云宣和元年口月本宅鏤板印造、姪宣教郎知解州解縣丞寇約校勘、卷末有慶元乙卯記及官銜段杲等五人、蓋當時與證類本草同所重影、此本係望鹿門、三英、舊

藏、柳泚先生刻衛生彙編為採入之、每半板高七寸七分、幅六寸一分、十一行、行二十一字、聿修堂藏有元板、與宋板無甚異同、不記刊行年月、

新刊風科本草三卷鈔本

首有風科集驗方諸序、詳舉于集驗方下、宜參、署名亦與集驗方同、蓋是在本草類中別自為一書者爾、

圖註節要補註本草歌括六卷元刊本 聿修堂藏

〔元〕勅授瑞州路醫學教授胡仕可編次、前建安進士何士信增註、首有元貞改元自序、又有嘉靖壬寅重刊、熊氏增修本刊脫頗多、

和劑局方圖註本草藥性歌括總論四卷元刊本 聿修堂藏
首題醫學正陳源纂圖、太醫助教許洪詳註、醫學教授胡仕可編次、卷末有壬午仲春嚴氏存畊堂新刊記、按、是書似摘錄前書更添陳源許洪名以求鬻者、又嘗見局方附刊本、要出俗手耳、

家傳日用本草八卷嘉靖四年刊本 聿修堂藏

〔元〕新安醫學吳瑞編輯七世孫鎮校補重刊、首有嘉靖

四年李汛序、有吉氏家藏及稱意館藏書記印、

飲膳正要三卷吉田安手抄本

首有天曆三年虞集序、次忽思慧上表、卷末有成化乙未鼎新刊記、

〔吉田安〕

吉筭墩跋曰、元人飲膳正要余質訪此書、幾乎十餘年矣、遍索故家屢徵好事無有焉、以為此方亡傳本也、偶讀望三英氏醫官玄稿內載藏此書、因託侍御醫劉君之子子廉而物色之、望氏之書盡在于江東葛飾營庫置之、時三英氏即世既久、後嗣不愛讀書、亦不令人窺、竟不可得也、有日向陶庵者、望氏之門人也、嘗著本草鈞衡考異、聞其家有傳本、子廉三詣而始得之、各抄一部而藏焉、且與子廉約非篤嗜如余二人者不許輒視云、

寶素堂所藏本有瑯玕亭印、係日向陶庵舊藏、乃此抄所原、

以上本草

黃帝蝦蟇經一卷卷子本 影寫舊鈔本 聿修堂藏

界行高七寸強、每行字數不均、十八九字至廿七八

字、是書和氣氏奕世所傳、櫟窻先生借之閱老白川侍從鈔而藏之、以為隋經籍志載黃帝蝦蟇經一卷正即斯書、文正中柳泚先生收入衛生彙編中刊行、

按、是書與醫心方所引合、然據校之所逸殆數十條、因致此係後人節略本、恐非全帙也、

鍼灸甲乙經十二卷吳勉學校本、收在醫統正脈中

又零本存卷一卷二卷三 鈔明正統丁巳重刊本 寄所寄樓藏

〔半葉九行、行二十四字、〕序例後有正統丁巳重刊管子、此本校之吳氏刊本文字大佳、與千金外臺所引相合、惜乎所存僅止于此、張金吾藏書志亦載正統本、不知與此同種否、

黃帝內經明堂十三卷 存第一卷 卷子本 影寫舊鈔本 寶素堂藏

〔唐〕通直郎守太子文學臣楊上善奉勅撰注、界行高四寸二分弱、是書僅存第一卷、卷末有永仁中丹波長高題識五條、其一云、永仁第六年仲夏以所讀之祕說授嫡男長高、員外醫儒丹波朝臣、收系譜、其一云、受嚴

說了權侍醫長高、^{イナシ}界行高四寸二分弱、

按、序云、是以十二經脈各為一卷、奇經八脈復為一卷、合為十三卷、則舊唐志所載楊上善黃帝內經明堂類成十三卷者是也、但此本無類成字可疑、惜所存僅一卷、從無照對、然今檢其體手太陰一經、自肺藏形象以至經行臚穴纖悉具載、更有注文、解臚穴名義及主治病證、極為精審、實係千金外臺等所不有、況唐代醫書傳世甚稀、則斷壁殘碑亦不失為至寶也、

黃帝明堂灸經一卷北宋葉本 醫書館藏

每半板高七寸四分、幅三寸、十三行、行廿二三字、卷首捺長門光永寺墨印、

按、此書并序舊係聖惠方第一百卷、其實唐以前書、王懷隱等編書時所探入、首行空五字位、蓋是刪去太平聖惠方字以單行者耳、至大辛亥燕山活濟堂所刊鍼灸四書中亦載有此書、分正背側人圖及小兒灸方為三卷、大失古色、酌源堂亦藏此本、紙墨頗精、捺吉氏家藏印、

新刊銅人鍼灸經七卷明熊氏衛生堂重影 華修堂藏 卷首捺吉

氏家藏印、又東都鍼醫官山崎氏藏本、

「每半葉十三行、行二十一二字不等、」按、此本翻刻元板者、舊係聖惠方第九十九卷、蓋古鍼經之遺文、王懷隱等編入者、後人分為七卷、漫名曰、^(銅人)鍼灸經、敏求記并提要所載即是也、

新編四方子明堂灸經八卷同上

按、此本字體行款總與前書同、蓋、合刻者、又有一種明板、亦以二書併刻而體式全同、但文字多誤、未審何先後、俟考、

銅人臚穴鍼灸圖經三卷、穴臚都數一卷明正統石本 華修堂藏 襟憲先生跋曰、拓本銅人圖經三卷係于明正統八年所重刊、首有英宗御製序、及伏仰側三圖、十六字為一行、百六十行為一段、五段為一卷、每段之首各標而分之、別有都數一卷、又為五段、四邊皆有花草欄格、今依此而攷其制、蓋石二板廣二丈餘、高六尺許、碑面每十餘字斷為一行、百六十行、橫為一層、凡五層

以為五段、表裏刻之即為四卷、意者石經之設資便於覽誦、撫拓必不如尋常碑文、就石面上下書丹為行、觀唐開成石經而可見也、今以此校重刊諸本、剝裂泐闕雖間在焉、訂訛正謬頗多、不啻一紙當瑤琨、抑醫家之鴻寶也、

按、英宗御製序稱、於今四百餘年石刻漫滅而不完、銅像昏暗而難辨、朕重民命之所資、念良製之當繼、及命鑿石範銅做前重作加精微焉、今此本三卷與夏竦序及崇文書目等合、竦序稱、定偃側於人形正分寸於臚幕、今此本有仰人伏人尺寸之圖、周身寸法圖、正人伏人臚圖、皆為宋石刻之舊可知也、然卷首不載夏竦序及王惟一署名、而都數一卷實出新添、蓋亦不能無改訂也、又後人重刊此本有無名氏本、^{寄所寄樓藏、不似萬曆中物、}全據石刻特善、又有萬曆中徐三友本、鄭繼華本、俱麤格、又有雍正早寅本、亦祖徐本而最俗、

又按、蘇頌圖經本草序及玉海並稱、是書鏤板頒行、則天聖之時既有板本、而後世無傳、殊可惜也、襟憲先

生醫賸中有銅人鍼灸圖經、攷其說甚詳、宜攷、

新刊補註銅人臚穴鍼灸圖經五卷 元板不記刊行年月 寄所

寄樓藏

每半板十行、行二十字、

此本首有夏竦序及王惟一署名、然其所謂補注者不云成于何人、無仰伏等圖、第三卷避忌人神圖後有鍼灸避忌太一之圖、序云、昔大定丙午歲平水閑邪賸叟述、序後有書軒陳氏印行六字、^{序半板六行十}序中稱、僕誠非沽名者、以年齒衰朽、恐身歿之後聖人之法湮沒於世、因編此圖發明、欽旨命工鑄石傳其不朽、知是贖叟本刻之于石、而陳氏取附是書以併板行也、今檢其板式似元初物、然中間或有補刻、且謬謬甚多、非校以他本則不能讀焉、

又按、朝鮮國刊此本凡二通、其一整板、^{樣式一與此一}活字本、^{俱藏在寄所寄樓、活字則收藏家間有之、}體裁俱與此本同、目錄末並記崇化余志安刊于勤有書堂、^{元書軒陳氏印行字、}蓋余氏重刊此本、余氏亦元人、和劑、而朝鮮本均以余氏為祖也、整板僅局方亦有其刻、

存三卷、活字既完存、而文字端正、蓋是為最佳之本云、活字本卷五傍通孔穴圖後云、嘉靖三十二年癸丑孟秋改誤重刊、前行惠民署教授張末石監校、備急灸法一卷宋槧本 寄所寄樓藏

寶慶丙戌正月望杜一鍼塔橋李聞人耆年述、首載淳祐乙巳五月朔孤學鄉貢進士孫炬卿序、行每半板十行、行二十四五六字、

鍼灸四書成化刊本 寶素堂藏

新刊子午流注鍼經一卷

南唐何若愚撰、常山閣明廣註、

新刊黃帝明堂灸經三卷序云、至大辛亥春月燕山活濟堂刊、

新刊寶漢卿編集鍼經指南一卷

古肥寶漢卿撰次、

附鍼灸雜說一卷

建安後學寶桂芳類次、

新刊莊季裕編灸膏肓腧穴法一卷

清源莊綽季裕編跋云、建炎二年、

子午流注目錄後有成化癸巳羅氏竹坪書堂新刊本

記、按、聿修堂亦有一本、與此不同、鍼灸雜說後有成化壬辰仲秋竹坪書堂新刊本記、比此本頗覺古色、惜有脫頁、

鍼灸資生經七卷善鈔本 寄所寄樓藏

每半版十行、行廿字、目錄分上下、不載序跋、

按、此本第二卷第三卷題名下影模金澤文庫印、蓋就文庫舊藏而影鈔者、原本殆即宋槧原刊乎、文字端正尤可貴重、

又明正統丁卯刊本 缺六七二卷 聿修堂藏

首載嘉定庚辰徐正卿序、目錄、題廣勤書堂新刊、又有正統十二年孟夏三峯葉景達謹咨木記、卷首有大監王公編五字、

按、張金吾藏書志載元板脈經跋云、先以針灸資生經梓行矣、今復刻脈經、時天曆庚午仲夏建安葉日增誌於廣勤堂、據以則此本蓋取原于元刊本已、

又按、寶素堂藏有舊鈔善本、宜就而補此本之缺、又

寬文九年所刊全據此本、有大德丁未蒲登辰序、序後記治狂瀾所傷一則六行、又有弘治甲子劉氏安正堂刊本、寄所寄樓藏、亦據此本、又有朝鮮國刊本、懷仙閣藏、又按、寶素堂藏寬文本有葵所閑人手校本、末補紹定四年四月望朝散郎澧陽郡丞趙綸後序、云、寬文十三年癸丑重九日葵所閑人書、閑人名親俊、為橋一溪先生五世孫、趙跋諸本不載、或是據紹定刊本校正者、則亦得據以窺宋本之一斑、其為宜貴重、不特名家手蹟所存已、

以上明堂經脈

脈經十卷明代摸影宋本 聿修堂藏

每半版高六寸七分、幅四寸九分強、十二行、行廿字、按、此本紙刻精明文字端正、殊為可喜、然詳其楮墨蓋明代據宋本摸影者、懷仙閣亦藏此本、有嘉定丁丑濠梁何大任後序、曰、有家藏紹聖小字監本、歷歲既陳故漫滅字畫不能無謬、大任有志於斯、乃同博驗群書孜孜凡累月、正其誤千有餘字、遂鳩工創刊于本

局、其中舊有缺文意涉疑似者、亦不敢妄加補注、當賴後之賢者、據此則是本為覆刻何本亦可知也、補註按、據此則以下十四字當刪書中匡慎敦徵缺筆、然九字一用圓字、則其為南渡以後物益可徵焉、丸字避欽宗諱、見百一選方四庫未收、書目載是書曰、是編從宋嘉定何大任刻本影鈔、懷仙閣本有刻上圓印、及戴觀胤字子辰方印、乃為曼公獨立禪師舊藏、

醫統正脈中所收、卷末記明新安吳勉強翻刻宋板、而全祖此本、然文字間有誤、又有明趙府居敬堂刊本、楓山藏、紙刻蠲潔、體式與趙府刊內經相同、

又舊鈔明成化重影元泰定刊本 懷仙閣藏

首有成化十年錢溥序、次泰定四年柳賢、謝縉翁、劉伯貞、陳孔碩序等、卷末有成化十年畢玉跋、此本無界欄、高七寸六分、幅六寸二分、每半面十四行、行廿字、四庫全書提要圖註脈訣四卷附方一卷、下曰、今脈經十卷、倘有明趙府居敬堂所刊林億校本

按、此本係膠鈔、元泰定四年據宋廣西漕司刊本所影、而明成化十年重影其本者、攷大永間僧幻雲宋槧

史記扁倉傳標記云、王叔和脈經唯竹田定祐法印投子覽焉、前後十卷細字無註、首有錢溥序、柳賢序、林億序、謝緒翁序、陳孔碩序、又有叔和自序、蓋即成化本耳、

又萬曆三年袁表校本 懷仙閣藏

首有泰定諸序、及萬曆三年徐中行手札、題云明晉安袁表景從甫類校、末有表跋、及書林童文學謹識木記、

按、此本依元板重影者、文字脫誤不少、但卷一持脈輕重法第六、與皮毛相得者肺部也、注文炤詁作三字、宋槧及諸本並同不可讀、沈際飛本作浮之在屬安改、特此本作呂氏作大豆五字、足以正宋本之謬矣、讀求國策、他則未之見也、所謂注中有注者、惟此及高誘戰國策、他則未之見也、所謂注中有注者、如此、五字即是也、又宋槧外臺秘要第三十九卷中亦有此例、錢氏之博未及醫籍、仍附記之、

又按、皇朝活字板據此本、又有沈際飛刊本、寶素堂藏亦祖此本、序稱、丙寅先子疾革、一、指圖記一卷、次ニアリ、皇國坊刻係際飛本、又有明末刊本、附人脈影歸指圖記二卷、皇刻本亦附此二卷、蓋依明末刊本

附入汪若源痘書一卷者、有(天啓)甲子繆希雍序、亦是俗刻、

新刊注王叔和脈訣三卷舊鈔本 酌源堂藏

首載王叔和序、次元祐五年盧陵通真子劉元賓序、次目錄、次通真子補注脈要祕括目錄、次左右手脈圖、成化本脫此本無界欄、高六寸一分、幅四寸八分、每半頁九行、行廿字、

按、此本比之成化本文字頗佳、恐據宋本而謄寫者、唯脈要祕括有目而無書、殊可惜也、

新刊通真子補注王叔和脈訣三卷、新刊補注通真子脈要祕括二卷明成化己丑刊本 非修堂藏

目錄末有成化己丑孟夏翠巖精舍新刊木記、紙刻殊粗、

新編潔古老人註王叔和脈訣十卷元至元壬午刊本 非修堂藏

金潔古老人張元素注、雲岐子張璧述、首有至元壬午吳駿聲父序、行蒼崑山人題記及地支圖、每半版十二行、行廿一字、

脈訣一卷嘉靖八年刊本 東垣十書中 非修堂藏

宋紫虛崔真人撰、

又有吳勉學校本、收在醫統正脈中、据此本刊者、紫虛真人脈訣祕旨、玄白子西原正派脈訣、玄白子相類脈訣、玄白子驗脈八段錦脈法、微旨嚴三點脈法合一卷鈔本 非修堂藏

舊附在明人鈔本幼幼新書後、今別鈔為冊、正派脈訣有序、稱、大德辛丑既從鍊師得崔劉四脈玄、又乃擴其意為之圖并脈訣、又有天曆三年淮南張道中識語、新刊廣成先生玉函經解二卷 初明翻影元板 懷仙閣藏

杜光庭撰、黎民壽註、每半板高六寸、幅三寸八分、十二行、行廿三字、

按、又有順治中程林較刊崔嘉彥注本、然係全襲民壽注、託名嘉彥者、又孫氏祠堂書目影寫宋本一卷、當是黎氏原本、

察病指南三卷舊刊仿宋本 寶素堂藏

首有淳祐丙午趙崇賀序、淳祐乙巳趙與諗序、諗淳祐

改元施發自序及目錄、序後記兼發賣續易簡方論、卷末有識語、引王叔和脈訣論滑實弦緊四脈、當施氏所記、每半版十行、行十九字、界長七寸五分、幅五寸六分、攷板式當足利氏時依宋本重刊者、福井氏崇蘭館又藏古刊本、略與此本同、又有活字刊本、享保四年木村元珉校刊本、誤謬遞多、

決脈精要一卷鈔王月軒手書本 非修堂藏

卷首題新刊黎居士簡易方論卷之十二、次行題決脈精要、卷末云、昔龍飛天正二年甲戌春三月十日時寓治下 治恐大明國王月軒筆、

按、今行簡易方止十一卷不載此書、然則月軒所鈔別是一種本也、

脈訣理玄祕要一卷、東垣珍珠囊一卷 朝鮮國刊本 非修堂藏

前太醫劉開復真撰、前制幹門人嚴子禮用和圖說、後學王和鼎編集、奉訓大夫平江路府判黃儀校正、首有嘉靖七年司馬泰序、末有嘉熙五年劉開跋、嘉靖丁未末之翰跋、八分

診脈要捷一卷影、永正鈔本 寶業堂藏

首有治平三年姚誼脈粹序、嘉定癸未李撰序、卷末題永正十五年戊寅三月七日申刻寫之畢、每半葉九行、字數不同、

按、是書原係蕭世基脈粹、而李撰序中云、崇川王君進甫迄獲善本、重加校正刻梓與天下共、就以叔和脈賦附于卷、右總之曰診脈要捷、蓋此本傳鈔宋版者、亦珍籍也、

脈訣刊誤集解二卷寬永九年刊本

〔元〕龍興路儒學教授戴起宗同父著、

首有嘉靖中章拯朱升序、序末曰嘉靖十八年秋八月孫氏較正重刊、

新刊脈訣二卷寬永十九年刊本 汪機補訂本

首有萬曆丙申胡文煥序及吳澄序等、

以上脈書

傷寒總病論六卷清人抄本 京師高階經由藏

首有元符三年黃庭堅序及目錄、每卷首題蘄水龐安

時撰、卷末附音訓及修治藥法一卷、又有政和歲次癸

巳門人布衣魏炳編一行、每半面九行、行十九字、文

字精善楷墨完好、蓋清人從宋槧傳錄者、小島學古曾

假讀校勘訂、今行抄本之譌甚多、攷四庫提要云、卷

首載蘇軾答安時帖、猶從手蹟鈎摹、而今此本直以楷

文寫之、則稍有不同、提要又云、序中劄庭堅名帖中

亦劄軾名、而此本並否、疑經後人補訂、然今行本以蘇

帖載在筴尾、則與提要之言既不相符、且卷中百合病

證百合知母湯方後半煮已下云云十六字中、喝證瓜

蒂湯主之五字、發汗吐下後難病赤石脂禹餘糧湯七

字、青筋牽證石膏竹葉湯五字、溫病噦方論溫病胃冷

云云十一字、及卷末修治藥法竹瀝已下細注數則、今

行本共係脫漏、而此本巍然具存、則在今日當以此稱

最善也、夫宋代醫流王寔、朱肱、韓祗和、許叔微之輩、

皆莫非推廣仲景者、而常器之、龐安時、郭雍三家最

稱精覈、今常書無傳、然補亡論略存其說、郭書近時

也、

增注類證活人書二十二卷明吳師古刊本、收在醫統正脈中

首有大觀元年朱肱自序、及政和八年重校證記、按、

一篇與今本百問序文句全同、政和重證記、改其文意亦似朱氏

校百問記、蓋舊附百問序後、後人誤混併序文、冠于是書者歟、又有

大觀五年張藏序、政和元年朱肱進表青詞及謝啓、次

有釋音辨誤傷寒藥性、按、釋音以下後人所附、據目錄當置卷末、

目錄首題增注無求子類證傷寒活人書、與每卷異、第

二十一卷末記秣陵吳鳴鳳重校、按、據朱氏進表及張

藏序、是書原本二十卷、乃與宋志所載合、但書錄解

題作十八卷、豈其所見本逸婦人小兒兩卷乎、今此本

分爲二十二卷、固非朱氏之舊、然每卷小序詳言卷義

例、則似亦非後人妄析者、攷陳造集載是書跋云、愛

而讀之百問十一卷略能上口、因檢此本第一卷至十

一卷設爲百問、與陳氏所言相符、活人書括傷寒兩感歌引

合、汪琥又稱凡二十卷、末後第十九二十卷論婦人傷

寒、復繼以小兒瘡疹、此本二十卷論小兒傷寒、二十

一卷論小兒瘡疹、然俱卷頁寥寥與他卷不同、或是後

本三家書略備、不亦愉快哉、又按、清徐錦序郭書云、

龐氏刻本已鈔、家藏抄本亦多缺誤、原本藏江村袁氏

後歸顧抱冲、抱冲歿歸員嶠黃氏、近將梓而壽世也、

乃知在西土是書善本、流傳亦不多耳、

傷寒百問六卷寶曆三年刊本

傷寒百問經絡圖九卷〔元〕本、〔事修堂藏〕

元槧本、〔事修堂藏文〕、

每半版十一行、行二十字、界長五寸五分、幅三寸九

分、此本不記刊行年月、然紙刻精明、實元代鈺本之佳

者、

柳泚先生跋曰、朱氏傷寒百問讀書後志作三卷、若其

經絡圖一卷見于通志藝文略、此本則合、以二書更析

爲九卷、非朱氏之舊也、卷首頁面上層有燕山活濟堂

棗六字、據寶桂芳鍼灸四書序、活濟堂其父漢卿藥室

也、此本以板式紙質定之當屬元刊、卷首又有嘉定六

年張松之序、是弁于其所編究原方者、不知何以移在

于此、張書世失其傳、今藉得見其輯方之意、抑亦奇

來所分、据汪氏之言併爲一卷、則殆與原本之數合、若其第二十二卷載李氏十勸與卷首釋音已下三篇俱後人所附、此本目錄既題續增、而不記卷數、則實全書之外耳、要之是書雖頗經後來增修、而其編次體例猶存朱氏之舊觀、與元明間人校前代方書改易竄亂、失作者本意者迥異矣、

柳沿先生跋曰、右本不記成于誰手、而莫從考也、頃讀樓大防攻媿集、有增釋南陽活人書序、稱同鄉誠庵野人王作肅所編、乃考諸是書其言鑿鑿相符、則知實係王書、唯增注作增釋爲異耳、吳師古輯入正脈中何以削其名字、豈當時所見原本脫之歟、今錄大防序于卷首以誌後之覽者、

類證傷寒活人書括四卷明宣德癸丑刊本 第三卷末缺第四卷僅存一頁 聿修堂藏

宋雙鐘處士李知先元象編次、此本目錄後有宣德癸丑劉氏博濟藥室刊識語、据而攷之、此分爲四卷者亦非李氏舊面也、又熊宗立活人書括指掌圖論載李氏

自序、此本缺逸、宜補錄、

類證增注傷寒百問歌四卷明初刊本 聿修堂藏

首有至大己酉詹清子子敬序、七行、及目錄、第一卷載湯尹才解惑論、第二已下每卷首署建寧府通守錢開禮撰、每半版十一行、行二十一字、注雙行、無刊行歲月、今審初明人從至大刊本重彫者、寶素堂又藏舊抄本、行款一與此同、又有萬曆壬子劉龍田刊本、題清邑後學杏泉雷順春集錄、蓋坊刻也、按、是書載湯尹才解惑論、恐非錢氏之舊、据詹子敬序則至大刊行之際附刻是書者歟、

註解傷寒百證歌發微論四卷萬曆辛亥刊本

首有太醫院李存濟序、目錄、首題重鐫校正註解仲景張先生傷寒百證歌發微論、卷首題宋白沙許叔微知可述、明清邑後學杏泉雷順春校、卷末有萬曆辛亥喬山堂劉龍田梓行木記、按、書錄解題百證歌三卷、錢曾俱作五卷、汪琬稱發微論分上下二卷、錢曾作三卷、汪琬爲四卷、坊俗所爲非舊面也、汪琬又引許氏自序、此

六卷明時已缺、見於劉氏序文、抄錄相沿更多魚豕、

茲搜集諸本校勘確審云云、

以上傷寒

安政四丁巳孟夏十五日之夜比校讎讀一過矣、

棧庭石士約之

本削去不存、可惜、

類編傷寒活人書括指掌圖論十卷明刊本 聿修堂藏

首有乾道丙戌李知先序、及吳恕指掌圖序、序後有正統元年熊宗立識語、每卷首題雙鐘處士李知先元象歌括、吳恕蒙齋圖論、鼇峯熊宗立道軒類編、此本板樣陋劣、文字多訛、係嘉萬間重刊、聿修堂又有舊抄本、劉氏喬山堂本陳長卿本皆非佳種、

按、吳恕指掌圖原本世失其傳、今得藉是書而存、則雖明代增修彙刻之書亦不可廢也、又醫方類聚所引爲吳氏原書、學者宜從錄出校訂、參以是書別爲一書、則亦足以見吳氏舊本、則與宋代傷寒諸方併傳亦可也、

傷寒補亡論二十卷道光元年心太平軒重刊、卷第十六缺

宋河南郭雍誤次、首有萬曆甲戌誠意伯芝田劉世延序、慶元元年朱子跋、郭長陽醫書及淳熙八年自序、道光元年徐錦序并凡例、按、是書久無傳本、近歲吳舶始齋來、徐錦稱其第十

經籍訪古志卷第七終

シイナ

經籍訪古志卷第八

醫家類

華氏中藏經二卷嘉慶庚申刊本 聿修堂藏

首有鄧處中序、未有樓鑰跋、乾隆五十七年周錫瓚跋、

按、致樓氏跋文、當時既有閩中倉司所刊、而此本得之古汴陸從老、且曰、取而校之乃知閩中之本未善、至一版或改定數十百字、前有目錄、後有後序、藥方增三之二、閩本間亦有佳處、可證陸本之失、其不同而不可輕改者兩存焉、始得為善本、錫瓚跋曰、書一刊於宋之閩中為倉司本、一為樓攻媿論所校本、全得舊鈔本、前後多缺、無序文目錄并樓公跋、且避高孝兩朝諱、疑即攻媿所校本、因取新安吳氏刻本補其缺、而用一按字註於下以別於原註、并從攻媿集中錄跋附、後始得為完書後附藥方、吳本倍於此本、其相同

者僅二十方、餘皆後人以意增入、非原書也、今悉依舊本雖未得宋刊校補、然已與吳本迥別矣、觀此二跋足以知是書之源流矣、

又按、錫瓚又稱、書凡十卷後附方六十道、因為上下二卷云、而孫星衍序稱、周氏所藏具有上中下三卷、語似牴牾、然檢孫上文其意不過言全帙具存、蓋周所藏本實合為一卷、而其憑臆分二卷者失矣、周刻卷末有在陸本中卷四十論、後語則原又為三卷者可知、而周氏何不檢改及此、可疑、

又嘉慶十三年孫星衍校刊本

按、孫星衍序略曰、華氏中藏經今世傳本有八卷、吳勉學刊在「古今」醫統中、古今醫統卷之九、余以乾隆丁未年入翰林在都、見趙文敏手寫本、卷上自第十篇性忌則脈急已下起、至第二十九篇為一卷、卷下自萬應圓藥方至末為一卷、失其中卷、審是真蹟又在吳門、見周氏所藏元人寫本亦稱、趙書具有上中下三卷、而缺論診雜病必死候第四十八、及察聲形色證決死法第四十九兩篇、合前後二本校勘明本、每篇脫

落舛誤凡有數百字、其方藥名件次序分量俱經後人改易、或有刪去其方者、今以趙寫兩本為定、趙寫本旁注有高宗孝宗廟諱而不更其字、可見古人審慎闕疑之意、據孫此說則是書實以此本為最善、然點校文字則覺周本轉優、且孫本不附樓跋、此宜相參而訂補也、

華先生中藏經八卷明吳勉學醫統正脈中本

首有鄧處中序、云、明新安吳勉學鮑士奇同校、卷末云青蓮山人江中澄重校師古齋、

按、此本譌舛脫誤經後人改易、一如周孫二氏所言、柳泚先生曰、考樓跋宋時已有兩本、蓋勉學所收據閩中倉司刊本者、與樓氏所謂一版或改定數十百字藥方增三之二者相符、真確說也、又攷此本有治傷寒欬逆方、欬逆為噦之謬稱、出于唐末、始見告股產寶、而其方朱氏活人書引之、則閩中本豈出宋初人手乎、皇國寬保壬戌依此本刊行、題新校正字、

葛仙翁肘後備急方八卷明代刊本 楓山祿府藏

首有萬曆二年李斌序、次至元丙子殷成己序、次葛仙翁序、次華陽隱居補闕肘後百一方序、次鹿鳴山續古序、次皇統四年楊用道附廣肘後方序、卷末題孟冬朔日岳州府知府劉自化奉檄校刊、

按、是書校之外臺醫心方證類本草等所引、甚非隱居之真面、恨今世所傳唯有此本、楊用道序曰、得乾統間所刊肘後方善本、又得唐慎微證類本草摘錄、其附方分以類例而附於肘後隨證之下、目之曰附廣肘後方、下監俾更加難、次且為之序而刊行、明陳繼儒序亦曰、外附以趙原陽外科方益之、蓋原陽於洪武間會請此書入道藏、而胡孟晉又慮此書罕流於世、特嚴加校核而廣其傳、陳序延享本有之、繇是攷之、用道附廣本原陽收之道藏、而明代更摘出刊行、此本是也、然朝鮮國所輯醫方類聚所引亦係用道附廣本、而今本所無者凡十四門、治手足諸病、治卒吐血唾血大小便血、治患消渴小便利數、治卒患諸淋不得小便、治夢交接洩精及瀉白濁、治大便秘澀不通、治卒關格大小便並不通、治患寸白紅蟲諸九蟲病、治患五痔及脫肛、治婦人漏下月水不通、治妊娠諸病、并產難橫生逆生胎死胞不出、治產後諸色諸患、治小兒諸病諸方是也、此則附廣本亦已被後人刪汰、甚矣哉

是書之厄也、小島春沂有補輯本、攷訂極精、

又按、延享丙寅浪華沼晉校刊本首載萬曆中陳繼儒胡孟晉重鐫序及陳嘉猷序、沼又有寶曆丁丑跋、稱得華本再校、蓋指此本也、又乾隆中程永培刊六禮齋叢書收入是書、亦據萬曆本、

新刻褚氏遺書一卷收在百家名書中、明錢塘胡文煥德甫校本

齊侍中領右將軍追贈金紫光祿大夫褚澄編、按、是書姑列于此、首有正德丙寅秦民悅序、嘉泰元年丁介跋、嘉靖四年李暹跋、

又收在六禮齋醫書中、蘇肇程永培校本

首有釋義堪序、清泰二年古楊蕭淵序及丁介跋、正德元年馬金序并跋、未有永培跋、

又皇國延寶元年刊本

此京師書鋪依胡文煥本刊行者、天明丙午杉浦玄德以金嘉會本朱筆校勘、

諸病源候論五十卷、目錄一卷南宋槧本 懷仙閣藏 缺第四十四一四十二四十三凡四卷 酌源堂藏有之、今從補錄、

隋大業六年太醫博士臣巢元方奉勅撰、每半版高六寸許、幅四寸三分許、左右雙邊、十四行、行廿三字、每卷有金澤文庫印、

按、此本首有宋綬序、弦字闕筆、蓋南宋人從天聖校刊本天聖五年奉印而重刻者、文字適勁、用歐法而時帶行體、但卷中間有補刻、第十七卷首行亦然、南宋坊間本往往有如此者、然是書在今日莫善於此本、誠可貴重、酌源堂所藏亦係殘本、缺目錄、第一、二、十四、十五、十然二本相合亦足稱完璧、

又按、此本校之外臺醫心方所引猶有譌缺、說見醫籍考中宜參、又楓山祕府舊抄本係三四百年外書本、行款與此本同、而文字間異、憾未校過、

重刊巢氏諸病源候論五十卷、目錄一卷元槧 京師高階經宣藏

每版高六寸一分強、幅四寸一分強、十三行、行二十三字、

按、此本据宋本重刊、而間校改文字、如卷二風頭眩候變為顛顛下、此本補

足以窺真人之真面、可稱希世之寶錄矣、天保壬辰江戶松本幸彥影摸刻行、

備急千金要方三十卷、目錄一卷 宋槧本 第四卷有缺頁 米澤侯藏

每半版高六寸強、幅四寸九分、十三行、行二十三字、版心有刻手名氏、每卷捺金澤文庫及米澤藏書印、

按、此本為上杉氏累世所奉、實係宋治平三年所鑄版施行者、其版心無題記、文字寬裕、欄界長大、玄匡真般撒恆敦等字皆有缺筆是也、其原版漫滅、或全紙補刊、或數字填入者亦往往有之、蓋其款式字樣髣髴相類、而版心記甲酉丁卯庚午字者、攷其干支殆為元祐補刊、其版心舉字數者、及欄界狹隘文字緊小者、俱玄癥等字不缺筆、唯慎字缺筆、是乾道淳熙間所補刊也、元祐去治平不遠、所以略相類、若乾淳則相距百餘年、展轉摸刻其謬舛亦在所不免也、要之此本雖非真人之舊、然是宋校原本、實為醫家不可缺之書、嘉永元年官命刊之、醫學以行于世、實為曠典、第四卷缺

以字夾注類以二字、又惡風鬚眉墮落候北方云云、曰凡風此本作瓦凡風有字作凡四字注之類是也、每行字數正與宋本同、唯標目增重刊巢氏及總字、大業六年前上冠隋字、又聿修堂藏有皇國二三百年前舊鈔本、又今行正保乙酉刊本亦据此本、雖互有異同、然文字體式不失元板之舊、頗為可喜、又伊良子氏亦藏元板、紙刻更為完好、

又按、明汪濟川江瓊校本、其體式一同此本、聿修堂藏年月、似萬曆以上物、又有汪濟川方鑛校本、及吳勉學校本、俱重刊、前刻者嘉慶己巳胡益謙活字配印本亦然、

千金方第一一卷舊鈔本 聿修堂藏

首行題千金方第一并序、下記處士孫思邈撰、序後一卷子目、及本文俱接書、卷末有和氣嗣成以下奕世題跋、

按、此本取原于正和四年嗣成手抄本、校以建治三年仲景寫本者、詳攷數跋、是永正以後天正以前人所抄也、其體式文字與宋人校本不同、而一與醫心方所引合、即古時遺唐之使所齎歸者、恨所存僅一卷、然亦

頁以元板補之(足)

重刊孫真人備急千金要方三十卷、目錄一卷元板 肆修堂藏

每半板高六寸強、幅四寸一分、十二行、行廿二字、

按、此本不記刊行年月、然其爲元板無疑、比之宋槧脫誤甚多、舊藏于木世肅兼葭堂、天明乙巳平安後藤敏嘗刊行之、後世肅舉貽之櫟憲先生此即是、又醫官傘溪岡氏及寶素堂、酌源堂、容安書院亦藏此本、又按、正德辛巳慎獨齋劉氏刊行本 肆修堂藏 末題江右金川復齋友善逸子余文達校謄、其行款字數全同元板、但板式狹小、

孫真人備急千金要方九十三卷、目錄一卷明嘉靖甲辰喬世寧刊本

首有馬理喬世寧序、板心有小丘山房、及喬氏世定刻行字、

按、此本据道藏本者、故分卷殊多、其文譌脫頗夥、又萬曆甲辰方中聲刊本以此本爲原、俱非佳刻、

千金翼方三十卷、目錄一卷元板 肆修堂藏

首載校正表、次自序、未有校正後序、卷尾有大德丁未良月梅溪書院刻梓十二字、每半板高六寸八分、幅四寸四分、十三行、行廿三字、

按、此本原係城東市醫白貞菴祕藏、天明中爲肆修堂物、詳載櫟憲先生撰醫中、文政己丑醫官數輩釀金摸刻以藏于醫學、蓋是書世唯傳王肯堂本、而譌字脫文不一而足、此本則稍爲完善、然校之諸書所引舛誤仍多、故新刊作攷異二卷以附于後、

又明王肯堂刊本 序曰至第四卷係明人補鈔 寶素堂藏

首有念西居士王肯堂新刊序、每卷題明翰林院檢討國史纂修官王肯堂重校、孫雲仍王廷鑑同校、每卷首捺張孟丙甫家藏醫書印、

按、此本總目外每卷首有子目、且卷中體式與元板異、字泰序曰、獲千金翼方於故友徐士彰諫議家、又云、若無他本讎校其烏焉帝虎之譌、灼然無疑者然後改正、不然寧仍其舊以俟它日得宋刻善本而更之、故

譌不可讀者時有、据此言則恐是傳鈔宋本者歟、檢張孟丙甫印篆法必是明印、則補抄亦出明人可知矣、又乾隆癸未金匱華希閣校刻本行款字數全與此同、蓋覆刻也、

外臺祕要方四十卷、目錄一卷北宋槧本 紀藩竹田純道藏

每卷首有林億等上進名銜、卷末有裴宗元校正、及趙子孟校勘名銜、或有右迪功郎張寔校勘字、每半版高六寸五分、幅四寸八分、十三行、行廿四字、板心有刻手姓名、每卷捺竹田定賢印、目錄首有上池印、

按、此本竹田氏奕世所傳、承應間視聽日錄載紀藩醫員藏是書、即此本也、嘉永己酉官下命郵致使於醫學影抄、凡二通、一納楓山、一藏醫學、亦大朝右文之所派及也、蓋宋槧醫籍存于皇國者頗多、然多南渡以後物、其北宋本如千金方猶有補刻、特此本真爲林億等經進之原刊、明諸家所不夢見者、而首尾完具毫無缺失、況晉唐經方特賴是書而存、則豈可不謂之天下之至寶也耶、

又按、楓山祕府所藏亦與此本同、但所存僅爲第三第

六第九第十一及第廿一、廿二、廿三、廿五、廿六、廿七、廿八凡十一卷、每卷有金澤文庫印記、又京師荻野元凱家藏零本卷二卷三卷七卷十二卷十六、十七十九、三十二、三十五、四十四凡十卷、卷十二後歸福井需藏、而紙墨尤精、蓋爲初印本、卷首有願神印記、

重刊唐王壽先生外臺祕要方四十卷、目錄一卷 明崇禎庚辰程衍道刊本

首載吳孔嘉等序及敬通序、每卷載宋人銜名、及新安程衍道敬通父訂梓、

按、此本首卷頁裏題云、此書肇集于唐再鑄于宋自元迄今未有刻板、不佞購得寫本、訛舛頗多、彈力校讐付諸剞劂、今以宋本比校誤字頗多、然宋本漫滅處此本亦漫滅、則可徵所謂寫本者蓋取原於宋本、不可與明代諸書謬誤錯出者同日而論也、又此本重刊凡有數通、行款狹小文字更陋、仍不著錄、

元和紀用經一卷 六體醫書中本

唐啓元子王永著、首有許寂序、末附十國春秋許寂

傳、及程永培跋、

大宋新修太平聖惠方一百卷、目錄一卷宋槧本、有缺補鈔

尾張藩藏

每半頁高七寸五分、幅五寸、十三行、行二十五六字、第一百卷末云、福建路轉運司今將國子監太平聖惠方一部一百卷二十六冊、計三千五百三十九板、對證內有用藥分兩、及脫漏差悞共有一萬餘字、各已修改開板並無訛舛、於本司公使庫印行、紹興十七年四月日、次有邵大寧宋藻陳日華黃訥范寅秩馬口官銜六行、按、此爲南宋槧本、每卷末有金澤文庫印、密行細字、字畫道勁殆逼汴京物、其所存凡五十卷、係第五第六第七十七第八第十廿五第廿六第廿九第三十第三十三第三十四第四十五第四十六第四十九第五十第五十一第五十二第五十三第五十四第五十五第五十六第五十九第六十第六十一第六十二第六十三第六十四第六十九第七十第七十五第七十六第七十七第七十八第七十九第八十第八十一第八十二第八十三第八十四第八十七第八十八第八十九第九十二第九十五第九十六第九十九第一百計五十卷其餘五十卷及目錄字行全同、蓋據宋本補足者、遂卷首頁格頂鈐御本二字朱印、乃駿府祕府舊本也、寬政甲寅大朝借之尾藩、使於醫座影摸一本以儲之延閣、噫是

書誠爲經方之淵藪、彼土則明以來失其傳、而特覓存於皇國、世間有鈔本、然譌脫不尠、今此本既幸蒙烈祖之寶愛、遇恭廟好生之深心、遂能發幽光以濟斯民之天札、其深仁厚澤豈可不感仰耶、聿修堂藏有宋本五卷、係第七十三第七十四第七十九第八十第八十一卷亦有金澤文庫印、蓋蚤經紛散者也、崇蘭館藏殘本五卷、亦有金澤文庫印、卷數有與尾藩本複者、蓋文庫所儲不止一部也醫方類聚所引亦同宋本、可據以校鈔卷、又愛日精廬藏書志載零本眼齒兩類三卷、而他書目未見著錄者、知其全帙固已佚于彼也、尾州聖惠方宋本百一冊、板本五、六、七、八、九、十、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百以上廿五本、寫本一、二、三、四、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、廿、廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、廿六、廿七、廿八、廿九、卅、卅一、卅二、卅三、卅四、卅五、卅六、卅七、卅八、卅九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百以上廿五本、外有序目一卷、通計百一冊又永正中舊鈔本 尾張藩藏(本イ)

第二卷末題云、以半井殿宗鑑家本書寫訖賴量、永正十一年三月日寫之施藥院使、下有押字他卷亦有跋、或云大僧都、押字或云永正十三年五月典藥頭、押字

按、此就宋本改其行款、而藥品修製概加節略者、然首尾完全、亦爲希世之珍、藍溪先生既上進影宋本、

更謄錄此本以傳于家、且跋曰、攷半井宗鑑爲和氣明

重、剃髮後號賴量、則其十三世祖嘗爲左京大夫施藥

院使、亦題治部卿大僧都者、其剃髮後所稱歟、

傳家祕寶脈證口訣并方三卷、(鈔本) 缺上卷及下卷治雜病方 宣師伊

夏子光通子之堂藏

宋宣德郎守殿中省尙藥奉御權太醫令充醫師上騎

都尉賜紫金魚袋孫用和集、每半板高五寸五六分、幅

三寸七分、十三行、行廿四字、無界行、

按、是書世久失傳、天保壬寅小島學古陪東叔法親王

西上時、徧訪故家而物色古本、所獲凡十數部、此其

第一種也、原係鈔本、密行細字、豈從宋板傳錄者歟、

未有青雲館主人跋、云、聞某家藏是書、頻請求之、惜

闕脈雜病諸方、然予意欲上梓他日更得全書而補闕

漏、所謂青雲館即伊良子氏某所自稱云、用和宋朝名

醫、故其所論著皆確言名方、爲有識所採用、真醫林

不可缺之瓊寶也、

蘇沈內翰良方十卷明版、不記刊行年月 楓山祕府藏

每半板高五寸七分、幅四寸一分、八行、行十六字、有

菊潭朱文印、欲使此民躋壽域朱文印、七字

按、此本享和壬戌十二月平安伊良子氏所獻、殊爲佳

刻、但脫林靈素序及沈括原序、

又按、是書乾隆中所刻凡三、其一程永培六醴齋醫書

中本、稱從舊刻印本授梓、蓋與此本同種、有靈素序、補刻沈氏原跋、

其一吳省蘭藝海珠塵中本、係武英殿永樂大典採輯

本、從聚珍版重刻者、釐爲八卷、乃非完帙、其一鮑廷

博知不足齋叢書中本、參合程本殿本以刊其誤、最爲

精善、

宋徽宗聖濟經十卷明施沛靈閣二集中本

宋辟雍生吳昶註、明元无子施沛較、是書無類可錄、姑列于此、

大德重校聖濟總錄二百卷、目錄一卷、元大德四年刊本 吉田

氏稱意館藏

首載大德重校魚養直序、次政和序、篇末有大德二年

七月開讀雕造申甫等三人官銜、及四年二月內畢工、在局提調官梁曾等五人官銜、每半版(八行十七字)、高七寸五分強、幅六寸二分強、板心記字數及刻手姓名、

按、此本吉田宗桂入明時所齎歸、其家譜稱、天文八年與遣明使僧策彥同往、留學五年治驗甚多、至十六年再往、適世宗有疾、宗桂措劑、不日亟癒、帝喜賞以書畫珍玩、此其一也、子孫能守不失、文政癸酉醫官子弟捐資活字印行、

又按、聿修堂亦藏零本、櫟窓先生曰、清程雲來撰是書、纂要云、大德重校聖濟總錄、元朝奉詔頒行者、大版大字、每卷首篇署元耶律楚材五字、今吉醫官及予家所藏本亦大版大字、然無耶律楚材字、原文書法端雅、蓋為宋版之舊、但每卷題目一行、書刻並劣、係于元人改刊無疑矣、今攷楚材以元太宗十五年卒、在大德二年前五十二年、則何由得有此五字、知程氏所見本妄人所加、非刻本之舊也、

又按、雲來稱、是書三副湊合、仍缺小兒方五卷、余於

祕閣內府江浙齊梁諸鑒古家遍訪無有藏本、欲補全而未備、同學項視菴搜求小兒今古方論補全五卷、議論簡要方法詳明、可稱全璧矣、是知彼土無有足本、又近日吳舶齋來乾隆五十年汪鳴珂刻本、鳴珂稱、得潭濱黃氏重鈔板行、後借鄭虹橋鮑以文藏本補湊云云、今取檢之、不啻文字頗有刪竄、其篇章亦多有私改、如小兒門填以後世方論、乃與纂要所載相合、則此為項視菴補本可知矣、

又按、存誠藥室嘗獲皇國二百年前鈔本、一遵元板樣式、或曰是翠竹先生真蹟、雖未知果然否、全部二百卷大抵一手渾成、正見古人勤苦非後輩所企及、仍附記之、

增廣校正和劑局方五卷南宋槧本 聿修堂藏
每半板高六寸七分、幅四寸六分、十一行、行廿一字、注字數不定、左右雙邊、板心間有闕人姓名、

按、此本卷第一諸風傷寒、第二一切氣至痼冷、第三積熱至瘡瘍傷折、第四婦人、第五小兒、

柳泂先生跋曰、宋太平惠民和劑局方、近世通行止于於宋季增添之本、而不唯大觀中陳師文等所重修者既

致遺佚、則併許洪註本不復可覩也、乙丑孟冬姬路大夫川合元昇鼎、購茲本於西京書坊、千里郵致以贈先君子、蓋其書五卷凡二十一門、錄方二百九十七道、乃與宋史藝文志、陳振孫書錄解題、王應麟玉海所載合、而附紹興續添諸家名方、則雖非汴都之舊本、其烟楮精潔實為南宋初所開雕、先君子得之球璧不啻、以為寶積之祕矣、按、茲本無序及目錄、出于不知於何人、考許洪註本序稱、諸家名方者為吳直閣所附、許作是序在于嘉定改元、則茲本修自吳直閣、而其為高孝兩朝間人可知也、陳氏書錄解題別載諸家名方二卷、稱福建提舉司所刊市肆常貨而局方所未收者、然則吳直閣所附豈即此歟、牛黃清心丸一方周公謹癸辛雜識嘗云、與山芋圓參錯、今徵之通行本、自

牛黃至蒲黃十九味、茲本則否、前八味為牛黃金箔麝香犀角末雄黃龍腦羚羊角蒲黃、後廿一味大與山芋

圓同、但有黃芩無地黃為異耳乃的符乎公謹之言、夫古人之制方

炮製增損斟酌量是慎、況至于方劑差謬其所繫不為細、故是先君子收儲醫經經方之書必貴真本者、豈類藏古玩家僅得柴密殘器奉為至寶耶、今若茲本又非徒宋雕可以珍重也、曬曝之餘敬識其由、併述先君子之意告諸子孫、子孫其永葆、文化十三年歲次丙子七夕、

太平惠民和劑局方十卷舊鈔本 聿修堂藏

首載陳師文等序、每葉十行、行十九字、每半葉高七寸、幅四寸九分、十三行、行廿四字、無界行、按、此為三百年前物、圖經本草等目錄有之、而今缺不存、序中宋勃興神聖神考主上考述、朝廷命遴朝將惠及熙豐字並提頭書、蓋取原於宋本者、則十卷本宜以此為冠也、

增廣太平惠民和劑局方十卷、指南總論三卷、圖經本草一卷元廬陵古林書堂刊本、缺總論上卷 聿修堂藏每半版高六寸一分、幅四寸九分、十三行、行廿二字、

首載陳師文等上表、首頁木格內題廬陵古林書堂六字、

按、此本冠增廣字、蓋據宋本者、且每方諸藥次第頗與宋本合、體式與元明諸本不同、則注本當以此為最善、享保中典藥頭橋親顯等奉教校刊、是書其所據野呂元丈藏增廣本者、殆似此本、又乾隆中張海鵬彙學津討源中有是書、亦全與此本合而時有缺脫、

又按、是書元以來刻本不一、元板則有余志安本、津修堂題增注字、第十卷末有大德、崇蘭館藏、第五卷末甲辰余志安刊于勤有堂記、有臨江錢氏本、有臨江新喻、香山錢氏、丁未春月、有高氏日新堂本、津修堂藏、目錄後題建安丙午校正梓行木記、有高氏日新堂本、高氏日新堂刊行十二字、午改其干支當是大德十年、序中宋主及朝字並提、有鄭天澤本、圖經本頭稍存宋本之體、已下諸刻蓋皆以此本為原、有鄭天澤本、圖經本目錄末題建安宗文書堂鄭天澤新刊十一字、其行款體式一與日新堂本同、致愛日精廬藏書志載靜修集稱、至順庚午孟秋宗文堂刻則此亦可類推、有不記年月本、為正統刊本所原、明板則有葉氏廣勤堂本、津修堂藏、首頁木格內題清江書堂四字、第一卷末有正刊元清江書、統甲子良月吉日三峯葉氏廣勤堂刊木記、當是葉氏重堂本者、有熊氏種德堂本、津修堂藏、目錄末有成化二年丙此亦翻刻清江書堂本者、有袁元熙本、題治城袁元熙汝和撰、元熙蓋明末人、是俗、朝鮮本則有活字本二通、其一據余志安本者、津修堂藏、

者蓋以此書錄解題作大醫局教授、餘同用是、知其時代姓名及治病之神異、而買兼之署重校定亦曉然矣、然此一卷乃全書之卷第三十、其日備急者特分門子目之一而已云云、自宋以來流傳已渺、日就殘失將致湮沈、尤宜亟為表、爰影摹開雕校讎竣事、述其梗槩如此、

類證普濟本事方十卷、類證普濟本事方後集十卷 宋槧本

缺九至十五補寫 楓山祕府藏

首有自序、序後云、寶祐癸丑良月夏淵余氏刊于明經堂、首云儀真許叔微述、後集首題云許學士親述、目錄後有建安余唐卿宅刻梓八字、每半版高六寸四分、幅四寸四分、十三行、行廿一字、

按、此本寬政中京醫堅田絨造所獻、實為罕觀之祕笈、懷仙閣藏宋槧後集十卷、全與此本同、今歸躋壽館、又按、是書前後集蓋本別行、故古鈔本少合併者、乾隆中王陳梁所刻止十卷、間有節文、

三因極一病證方論十八卷宋槧本 醫官河野氏藏

每卷有醫官河野氏印、享保中官刻據本校正、其一銅板本、津修堂藏、史載之方二卷乾隆御書樓無板書本 僅存一册、

按、此似傳抄於宋本者、阮氏四庫未收書、提要亦載之、

雞峯普濟方三十卷道光戊子汪士鍾刊本

汪士鍾序略曰、雞峯普濟方三十卷、每卷署馮翊買兼重校定、南宋槧本也、缺第二、三、六、八共、四卷目缺一至九葉、十卷缺第五葉、廿一卷缺第十五十六葉、廿二卷缺第四葉五葉廿五半葉以下、廿三卷缺一至十一葉、每卷有馮李項氏圖章、今歸余插架、考以行世收藏家各目並未著錄、考宋史藝文志子類醫家有張銳備急方一卷、馬端臨經籍考雞峯備急方一卷、引陳氏曰、產醫教授張銳撰、紹興三年為序、大抵皆單方也、又考夷堅志云、政和中蔡魯公之孫婦有孕、及期而病、國醫皆以為陽證傷寒、懼胎墮不敢投以涼劑、銳至曰、十日將生、何藥之能敗、仍以常法之藥且使倍服之、半日而兒生、病亦去云云、陳氏所謂產醫

〔宋〕青田鶴溪陳言無擇編、

每半板高四寸九分、幅三寸五分、十二行、行廿三字、板心舉字數、

按、此本小板小字、卷中宋字上空一格、蓋宋末刊本也、清人所見止傳鈔本、而皇國全然有此祕笈、亦足以貴重矣、河野氏家乘曰、文祿之役始祖通幸從筑前中納言隆景在軍、此其所獲云、

又按、是書更有元刊本、京師伊貝子氏藏、懷仙閣亦藏、此本明代所刻、頗為妄人改易、有舊鈔元南谿書院本、津修堂藏、按吉氏家藏印與上同種、如元祿癸酉刻本則誤字頗夥、未詳所据何本、又有道光二十三年蔡載鼎刊本、其序稱得舊鈔善本數部互相校讎、然竟不如皇國所傳之善也、

又按、四庫提要疑太醫習業中有廿一史之語、蔡刻亦作廿一史、今閱宋元諸本俱作三史、益知彼土傳本之不佳矣、

校正註方真本易簡方論三卷影永正舊鈔本 津修堂藏
按、此本所原蓋為元刊則由是春堂本、而以楊伯啓純德堂重刊本對校者、比之通行本文字殊佳、但其以注

文爲正文者係寫手誤混、宜加識別、卷末云、永正四天丁丑五月十二日書寫畢、

又按、聿修堂藏又有天正八年鈔本、併爲一卷、寬政中望三英所刻巾箱本亦然、

續易簡方論六卷、補註、約之按、此下當有舊鈔本某藏文、

宋 永嘉施發政卿撰、首載雨巖老人序、四行行每半板高六寸二分、橫四寸一分、十一字、字數不均、

按、此本有抄金澤文庫印、蓋據文庫宋板抄寫者、相其紙質似百餘年前物、天保年尙藥山本五流與後集合刻、

續易簡方後集五卷宋槧本 京師伊良子氏藏

宋 永嘉砥鏡老人盧祖常纂次、
續易簡方脈論一卷影宋本 寶素堂藏

宋 東嘉王暉養中撰、每半板高七寸二分、橫五寸五分、八行、行十八字、

按、是書從未聞其名、近日小島春沂從京師一醫得之、目錄跋並有缺頁、跋稱淳祐甲辰趙希邁、又有與

芮從叔父傍觀、此編爲之嘉歎二行、有中、庵印、所載係四診論說及證治方劑、而標以脈論、未審何解、

楊氏家藏方二十卷宋槧本 楓山祕府藏

首載淳熙五年三月自序、九行十、末載淳熙乙巳延璽跋、五字、每半板高七寸、幅五寸強、左右雙邊、行、行□□□、

按、祕府又有元版、卷九至十、四補寫、序後有阮仲猷刊于種德堂木記、是書四庫提要稱今未見、益可貴重也、

衛生家寶六卷、衛生家寶湯方二卷 影宋舊鈔本、卷一卷六湯方下卷缺 楓山祕府藏

首有淳熙十一年徐安國序、每半葉九行、行廿字、

葉氏錄驗方三卷影宋舊鈔本 楓山祕府藏

卷末有淳熙丙午葉大廉跋、及嘉泰甲子李景和跋、俱六、每半葉高六寸五分、幅五寸一分、十行、行十八字、板心有刻手姓氏、

備全古今十便良方四十卷影宋舊鈔本、缺十三卷至二十一卷 楓山祕府藏

首有慶元二年青山宋德之序、後有武夷口氏錄木于安樂堂記、每半葉高六寸五分、幅五寸、行行□□、

方氏編類家藏集要方二卷宋本、缺下卷 京師細柳坪藏

首有慶元丁巳自序、九行十、五字、每半版高八寸、幅六寸三分、十一行、行十五字、板心有刻手名、

按、是書囊傳鈔本誤字不少、小島學古西上日就柳坪畑氏影摹以歸、且曰、陳日華經驗方有云、方夷吾所編集要方刻之臨汀、臨汀閩地、閩本蠱惡、而此本乃大板大字、眞爲宋槧之佳者、恐不是臨汀所刻、

芝田余居士證論選奇方後集十卷宋槧、存卷二三四五餘缺 京師伊良子氏千之堂藏

每半葉高六寸一分、幅四寸三分、十行、行十九字、

按、是書世久無傳本、此亦係小島學古所鈔得、書錄解題有選奇方十卷青田余綱堯舉撰、

新刊續添是齋百一選方二十卷 元板 京師荻子元藏

首有慶元丙辰天台章楫序、目錄首有筐子、云、歲在

癸未端陽前一日建安劉承父謹咨、癸未即爲至元二十年、

按、是書囊唯傳鈔本、寬政己未醫官千田子敬將校刻行世、會子元應召來江戶言、藏有元板因改取此本以刊、且以陳造序文冠其首、事載于櫟窓先生跋中、

又按、躋壽館亦藏元板、係細川桃庵舊藏、不記刊行年月、比之前刻文字稍劣、

溫氏隱居助道方服藥須知一卷鈔本 首有嘉定丙子中秋日自序、

按、是書伊良子氏藏朝鮮刊本、此蓋傳錄者、亦載在胡文煥百家名書中、題云海上海上仙方前集、

醫說第九第十兩卷宋槧本 聿修堂藏

每半版高七寸二分、幅五寸、左右雙邊、九行、行十八字、版心下有刻手名、每卷首有王氏維楨、太華山讀書臺、乙未翰林三印、似得商、第十卷三十一頁倒捺古折東印、朱字圓橋、字體肥美、卷末載嘉定甲申彭方跋、嘉定甲申李

以制跋、開禧丁卯江疇跋、寶慶丁亥徐杲跋、以年歷推、之、當江疇次之徐則在後、

按、此本大板大字筆畫端雅、爲宋槧之絕佳者、但兩卷首末第九第十二字用別紙粘接、改作之上之下、蓋猾商獲零本爲此伎倆以欺人也、

又按、鄧初正本載淳熙十六年羅頌序、云、己酉歲季明攜以過我、且曰、書雖未成請姑爲序之、又云、季明盛年著書、嘉定甲申李以制跋云、季明今老矣、搜訪尙不輟、則相距實三十六年、當是季明晚年定本、顧定芳本載紹定改元諸葛與跋、云、校正其訛謬、將鈔梓以廣其傳、又云、與既爲辨其舛誤變其蕪類、而間以所聞於記錄者稍附益之、由此攷之、此本即紹定刊本而偶脫此跋者歟、

又十卷嘉靖甲辰顧定芳刊本 福井榕亭藏本

首有嘉靖甲辰馮彬及顧定芳序、未有彭方等四跋、與本及紹定改元諸葛與跋、

按、此本行款字數一同宋槧、而稍爲縮小、但宋本卷九災能養生條有良方二字、第十小兒初生不飲乳條有集驗方三字、而此本俱刪之以縮行數、蓋餘卷亦必

有此類、然要祖宋槧者、於今行中此爲最善、

又按、鄧初正及張堯直本載羅頌序、此本脫之、
又嘉靖癸卯鄧初正校刊本 京師高階經宣藏

首載嘉靖癸卯顧遂序、次淳熙己酉朝奉大夫權發遣鄂州事羅頌序、第一卷首有明江夏俊學羅練鄧正月初校、〔補註、按、鄧正〕劉永富郁文盛錄二行、每半葉十一行、行二十字、每卷捺江右杏泉鐘先廷茂印、

按、此本依宋本而改換行款字數以重刊者、大失宋本之體、然比之定芳本則文字更優、

又萬曆己酉張堯直重刊本 存誠藥室藏

首載堯直序、次顧定芳馮彬及羅頌序、羅頌即鄧初正本、羅頌此作頌字、第三五七卷捺啓迪院印、

按、此本依顧定芳本而改行款字數者、然比之顧本仍能存宋本之舊、皇國萬治二年亦依此本重刊、而脫張堯直序、每卷首填宋新安張景季明父著九字、文字間有誤、蓋坊間所刊爾、

又嘉靖丙午潘藩刊本 聿修堂藏

魏氏家藏方十卷卷三缺 宋槧本 聿修堂藏

首載寶慶丁亥自序、七行十三字、每半版高七寸六分強、幅五寸四分、左右雙邊、十行、行十九字、版心有大小字數及剗闕名氏、

按、是書大版大字楷法端正、真宋板之絕佳者、卷中有普門院朱印、第一卷末書正三位知家卿所作歎齡既至六句餘歌一首、屋代輪池弘賢、嘗鑒定爲聖一國師書、普門院爲國師所住、知此本爲其入宋時所持、歸、輪池曰、按、昔光明峯寺殿下將觀建東福寺以居國師而未落成、別造普門院令權住之、事見山城名勝志名蹟志元字釋書等書、國師求法於趙宋也、此書刊行已九年、此蓋自彼土齋來之物、而住普門之時印記、其後至弘長文永之間師年實六十餘矣、當時慨然有感、是歌而自書耶、後輪池西上日到東福寺、覽普門院寶什書畫中有國師真蹟數通、書法與此書所題正同云、

嚴氏濟生方十卷缺卷一六八十補寫 宋槧本 楓山祕府藏

首有寶祐癸丑自序、每半板高六寸二分、幅四寸二分、十行、行二十字、

按、此本序目有缺、懷仙閣亦藏宋本、第一卷宜從而補、

又按、世傳鈔本或有題增修字者、未知原刊爲何種、

首載嘉靖丙午潘藩南山道人翻刻跋、及癸卯張子立序、以諸葛與跋爲序文、卷首署宋新安張景季明集、卷首捺內庭藏書及王□二印、

按、此本不知何所原、而文字與諸本大異、其改張景爲張景殆似有所避、且諸門亦頗有補入、豈翻刻諸葛與附益本者歟、

又朝鮮國活字擺印本 聿修堂藏

此本全與潘府本同、蓋據以活字擺印者、佚南山道人卷首副紙裏面有朝鮮人題書、曰、嘉靖三十九年八月日內

賜承政院左副承旨柳昌門醫說一件命除謝恩都承旨臣李判五行、卷首捺宣賜之記朱印、

活人事證方二十卷宋槧本 酌源堂藏

總目首墨篋內有信甫題言、次有嘉定丙子葉麟之序、八行、行十四字、序後有建安余恭禮宅刻梓木記、每半版高六寸五分、幅四寸二分、十一行、行廿一字、

活人事證方後集二十卷宋槧本 雲州侯藏
目錄首有題言、每半版十一行、行廿一字、

且卷中間有新增論方、知是淺人妄補茲不登載、嚴氏濟生續方一卷舊鈔本 醫官湯河氏藏

首有成淳丁卯良月自序、有金澤文庫印、印稍大、非北條氏物、蓋是近人作、

按、此本爛鈔多譌、柳泚先生據醫方類聚補二評十二方、始為完全、刻之于衛生彙編中、黎居士簡易方論十一卷鈔本 濟壽館藏

宋 肝江水月黎民壽景仁撰、首有景定改元包悛陳宗禮鄧垌序、開慶己未馮夢得序、景定元年陳謙亭序、按、此本蓋依元版抄寫者、濟壽館有元版零本、係崇蘭館舊藏、

仁齋直指方論二十六卷、小兒方論五卷、傷寒類書活人總括七卷、醫學真經一卷宋槧本 事修堂藏〔補註、約之按、事修第一第二小兒方論第三四五缺以崇蘭館藏本補鈔、

宋 三山名醫仁齋楊士瀛登父編撰、建安儒醫翠峯詹宏中洪道校定、首有景定甲子自序、目錄首有環溪書院刊行六字、小兒方論有景定庚申自序、真經有景定

壬戌自序、每半版高六寸三分、幅四寸四分、十四行、行二十四字、每卷首捺武田文庫印、朱文、

按、此本紙刻精良、當是景定原刻、据仁齋自序、初撰活人總括嬰兒指要、而直指方則最後所成云、又懷仙閣酌源堂並藏有朝鮮國活字刊本、體式一與此本同、又有明朱崇正附遺本、亦以宋槧為祖、此本乃澀江全善所獲以獻于醫學者、

太醫張子和先生儒門事親三卷元板 京師伊良子氏藏

首有昭陽單閣陰月晦日願齋引、末有甲辰冬十月朔寓齋居士後序、並行書 七行、每半版六寸八九分、幅四寸四五分、十一行、行廿五字、

按、吳勉學醫統正脈所收凡十五卷、以嘉靖中邵伯崖刊本為祖、今取此本及醫方類聚所引勘之、其第一至第三即為事親本書、其第四第五兩卷為治病百法、其第六至第八為十形三療、其第九為雜記十門、其第十為撮要圖、其第十一為治法雜論、其第十二為三法六門、其第十四為治法心要、其第十五為世傳神效名

方、蓋後人合為一書、而以事親為其統名也、事詳于醫賸中、其嘉靖中原刊則文字頗佳、櫟窻先生嘗借校之某氏者、

保命集三卷成化戊戌刊本 濟壽館藏
原病式一卷嘉靖戊子刊本 濟壽館藏

按、劉河間張易水李東垣諸家書收在東垣十書醫統正脈、而未有別本、茲不具列、唯宣明論一書浪華木孔恭兼葭堂藏有元板、柴田元篤嘗借校之、可以正譌脫矣、

蘭室祕藏三卷明初刊本 寶素堂藏
東垣先生試效方九卷明板 容安書院藏

首有王文博硯堅序、及硯堅述東垣老人傳、按、是書傳本甚稀、此本方不記刊行年月、卷中有萬曆中人朱批標記、蓋為明初刊本、

新刊風科集驗名方二十八卷元板 京師福井榕亭藏
北京太醫趙大中編修、覃懷儒醫趙子中傳習、大元國特賜皇極道院虛白處士趙素才卿補闕、首有閣復序、

序後有大德十年歲次丙午孟夏上旬有十日前湖廣官醫提舉願齋劉世榮願印寓杭鏗梓二行、又有安慶光華序、河中心庵趙素才卿跋、南谷杜天堅序、左斗元辰自跋、及元好問撰皇極道院銘、每半版高七寸口分、幅五寸口分、十行、行廿一字、

按、此才卿原書十集至元辰增廣為廿八卷者、恨今所存僅有序目錄、卷五六、十二、十七四卷耳、其於諸風證治引援諸家方論極為詳、編次贍則零殘編帙亦足貴重、

按齋曰、此本大板大字紙刻精良、元板中罕有其儔、又聿修堂藏有風科本草二卷、既見本草類、嶺南衛生方三卷、附錄一卷明板 濟壽館藏
首載萬曆四年鄒善序、正德八年羅榮序、捺東井文庫印、
澹寮集驗方十五卷鈔元板 酌源堂藏
元 汝川釋繼洪編次、首載曾子良序、草次自序、題至元癸未解制後五日、每半葉高七寸二分、幅六寸一二分、十行、行廿字、卷首有吉氏家藏印、

癸巳新刊御藥院方十一卷朝鮮國活字本 楓山祕府藏

首載至元丁卯河東高鳴序、目錄、末鐘樣頤真堂記、琴樣平陽府司家印二印、

按、是書樸憲先生審致為元許國楨所著、寬政戊午醫官千賀芳久活字印行、

衛生寶鑑二十四卷、補遺一卷弘治七年劉廷瓚刊本 聿修堂藏
首載永樂十五年胡廣序、至元辛巳硯堅序、又癸未王
輝敘、及上東垣先生啓、末有永樂十五年韓夷跋、補
遺劉廷瓚跋、

按、此本有前人標記、審其筆意似翠竹先生手書、又
聿修堂藏有一本、首載廷瓚跋、末有皇明歲次乙未明
德堂刊記、蓋係萬曆間重刻、
醫學元戎十二卷活字鈔本 聿修堂藏

〔元〕趙州教授兼提舉管內醫學王好古進之筌次、首有
嘉靖二十二年顧遂序及自序、末有嘉靖壬戌魏尙純
跋、

按、是書世多傳鈔本譌字不少、此本天保中京師一醫

就魏尙純刊本活字刷印者、原本藏在京師百百氏及

崇蘭館、立之藏嘉靖刊本、與京師百福井所藏同、而清四庫全書
之、體例頗為參差、蓋書帙之本、往往移易其舊式、今無原本可校、亦
姑仍原本錄之焉、然則藏此書者、不可不以貴、又不可以不諱也、
伊尹湯液仲景廣為大法四卷、附錄皆效方一卷 鈔本 聿
修堂藏

首有甲午夏六月王好古自題、末有嘉靖甲午戚賢跋、
曰、侍御屏崖王公觀風楚省爰出是集、命荆門守楊充
甫梓行、

濟生拔萃方十八卷元版 聿修堂藏

首載延祐二年杜思敬序、九行十每半版高六寸五分弱、
幅四寸四分弱、十二行、行廿四字、

按、楓山祕府向亦有此書、與此同種、原本塗抹異本アリ而此乃澀江全
善所獲以獻於醫學者、

類編經驗醫方大成十卷元版 寶素堂藏

〔元〕文江孫允賢編纂、首有「啓迪院印」、原本缺字每半版高六
寸一分、幅四寸一分、十四行、行廿四字、イナシ有啓迪院
印、

按、小島學古曰、熊均醫學源流曰、孫允賢文江人、元

仁宗延祐中選醫方集成、予先祖彥明公復選宣明拔
萃等方面附益之、是謂醫方大成、今此本無宣明拔萃
諸方、知是允賢原帙則當稱集成、而題云大成者蓋後
人所改也、又野間氏白雲書庫、及福井榕亭所藏、題
云南北經驗醫方大成、每門有宣明瑞竹拔萃諸方、即
彥明所附益也、又此本原缺三四兩卷、京師高階經
宣家藏明代刊本、今據鈔補之、其第四卷末題云集成、
乃偶存其舊題已、醫方類聚引醫方集成醫方大成南
北經驗方三書當考、〔子亦藏元板、題新編南北經驗醫方大成、
蓋與野間編并藏本同種歟、而版式寸分與
此本同、左右雙邊、但第九卷首題云、集成校改、末至偶存孫氏舊面者
也、丙子夏日無雨暑氣蒸過九十度、余性苦暑不能出遊、唯就涼處
粘裝古本、醫方大成亦其一、乃以故紙背
之以為粘帖、是亦閑中避暑之一手段也、〕

泰定養生主論十六卷明刊本 懷仙閣藏

〔元〕逸人洞虛子撰、首有王中陽自序、末有正德中徐
繁序、楊易冒鸞跋、

瑞竹堂經驗方十五卷明板 聿修堂藏

〔元〕竹堂先生薩謙齋經驗編集、明古杭瑞南道人高濂

深甫校刻、首有泰定丙寅王都中序、

按、此本舊為桂川月池國所藏、寬政乙卯月池活字印
行、

永類鈴方二十二卷朝鮮國活字本 楓山祕府藏

〔元〕碧山李仲南集成、青原孫允賢校定、首有延祐丙
辰滕寶序、至順二年自序、

按、懷仙閣所藏與此本同、崇蘭館藏有明初竹坪書堂
刊本、

世醫得效方二十卷、目錄一卷元版 醫官中川氏藏、第十九廿
兩卷補鈔、

〔元〕建寧路官醫提領陳志刊行、南豐州醫學教授危亦
林編集、江西等處官醫副提舉余賜山校正、首載至元
五年太醫院序次校正名氏、至元四年王充耘序、三年
亦林自序、四年陳志序、三年江西等處官醫提舉司申
太醫院劄子、以上間有
近人補鈔、每半板高六寸強、幅三寸七分

強、十一行廿二字、捺雷井文庫浦亭藏書二印、並宋
文、按、至元劄子曰、裝成一十二帙、此本十二冊蓋仿元

時舊式也、楓山祕府、佐伯侯所獻、雲州侯及寶素堂亦藏元板、又聿修堂藏有正德元年魏家重刊本、又朝鮮本三通、一小字整版、係元版覆刻、寶素堂藏、一大字整版、崇蘭館藏、一活字本、孫吉氏家藏印、聿修堂藏、並据元版而重刊者、

仁存孫氏治病活法祕方十卷鈔本、缺卷一、聿修堂藏、按、樸憲先生曰、是書嚮有同僚藏去者、蓋二百年前鈔本、所存第五卷以下僅六本、甲子冬請雲州侯治卿、邱見是書鏡本、亦恨缺第一卷、然文字端雅紙刻精妙、實元板也、遂貸歸騰鈔、雖未至完然、各病門類於是始具矣、但不知孫氏是何代人、熊均醫學源流曰、仁存孫氏治病方雖有板刻以行、未詳其年代出處、今考其書體例及論病集方之書亦為元人無疑矣、

十藥神書一卷、收在六體齋醫書中、首有至正乙酉至正戊子可久二序、本文首題葛可久編、末附平胃散四君子湯二方、卷尾有程永培跋、又二卷朝鮮國刊本、京師、首有寧獻王序及目錄、不載葛氏二序、卷首題古爾胡

雲翺家傳書林厚德堂重刊、此本分為二卷、體式與前本異、上卷末有崔知悌灸法、乃寧獻王刊行時所附、下卷載治傳屍勞蟲總法、諸蟲證狀藥方靈符、亦見急救仙方第十卷十一卷中、未知何人所錄、元祿庚午刊本、為一卷而分上下、體式略與此同、

以上衆疾方論

又按、元人方書又有艾元英如宜方、今所行本為明陳嘉猷所亂、題云回生捷錄、又有徐用和加減十三方本少可取、茲並不錄、又朱丹溪書概無別本、其心法等皆係後人所纂、亦不登載、

祕傳眼科龍木總論十卷、歷永廿七年舊抄粘葉本、購壽館藏、每半葉高七寸、幅四寸、七行、行十八字、第六卷末頁腦、有應永七年三月口口口、一行蠅頭細書、

第十卷後人所演、疑出元人手、是書從來唯傳明刻諸字甚多、得此本始可得讀矣、

又明隆慶改元刊本、福井榕亭藏

隆慶改元陝西布政司刊、都事邵武丘鳴鶴校、甘州左衛右所正千戶宋寶同校正、

按、此本全與應永本同、彼總目在總論之後、此則在前、殊為得體、其他皆不及彼之精善、應永本用圓字、是用丸字、後又有萬曆乙亥刊本、聿修堂藏、卷首有葆光道人祕傳眼科、

又按、醫方類聚所載龍樹菩薩眼論、是隋唐間物、與此不同、得効方有龍木論一卷、亦別一書、

以上「眼科」

劉涓子鬼遺方五卷、劉涓子治癰疽神仙遺論一卷、寶曆子刊本

按、此本首有尾府滕惟寅序、云、坊人林生刻于京師、攷是書史志及外臺所引皆十卷、而校之外臺頗有脫誤、然讀書敏求記曰、劉涓子鬼遺方五卷、是書極為

奇、祕收藏家罕見之、予別有劉涓子治癰疽神仙遺論一卷、與此同、是宋鈔皆宜別錄副本備之、此本卷數與此相符、而每卷載子目、似不失宋版體式、蓋亦出於宋本也、嘉慶本有龔慶宣序、此本偶脫之、神仙遺論首有東蜀刺史李頤錄一行、文獻通考謂作十卷、

又嘉慶庚申掃葉山房鐫本

按、此本比之寶曆本小有異同、係與周錫瓚本中藏經併刊者、

又顧修讀畫齋叢書中本

體式與前本同、俱不附神仙遺論、殆佚于彼也、

癰疽辨疑論上下卷古鈔本、下卷佚、寶素堂藏

宋明保義郎權殿司機宜李世英編、首有淳祐壬寅彌忠序、淳祐癸卯陳卓序、又有世英自序、

按、是書久無傳本、小島學古獲之、即外科會谷伯安舊藏、其下卷已佚、宗鑑撮要集載有節文、學古鈔而附之、宗鑑撮要集載稱、辨疑論天文七年借尾州學客杉江喜三、并外科慶福所藏而寫之、慶祐即伯安之祖、

〔宋〕寶唐習醫陳自明良甫編、首有趙汝暨序、及景定癸亥自序、

按、是書世唯傳熊均校本及薛已補注、熊本有二、其一順甲申種德堂原刻、其一正德戊辰葉元吳重刊、俱稀流傳、此本文字端正、真為陳氏原本、寬政丁巳醫官津輕意伯健刊而行之、校以醫方類聚及鹿門望氏舊藏朝鮮本、事詳其跋中、係傑憲先生代撰

又朝鮮國活字本 楓山祕府藏
按、此本蓋與鹿門舊藏相同、
外科精義二卷明初刊本 寶素堂藏

〔元〕醫學博士選充郎藥院外科太醫齊德之纂集、宣授保全郎陝西等路醫局提舉馬雲卿校正、

以上外科
產經二卷明臨沛靈蘭二集所收本

〔唐〕翰林學士賜紫金魚袋時賢撰、未有嘉定改元鄭汝明跋、
按、柳泚先生曰、熊宋立醫學源流曰、郭慶中作產後

二十一論、與唐時賢胎前十八論合、謂之胎產真經即是書也、蓋時氏原本十八問鄭汝明以博物妊娠所感說、孫思邈并楊崔等說郭氏廿一論十產論附為二卷、經効產寶三卷宋槧本 存誠藥室藏、首二頁舊人補鈔

〔唐〕節度隨軍管段撰集、每半板高六寸一分、幅四寸二分、十二行、行十八字、是書不記刊行年月、檢其板式為南宋本無疑、殷署名次有相國白敏中家藏善本一行、醫方類聚所引題目無經効二字、文字頗有異同、而此為劣、然從來未見傳本、亦是希世之珍、固不得不兼存也、
產育寶慶集二卷乾隆御書樓無板書中本

〔宋〕郭稽中撰、
按、是書收在李調元函海中、而此有調元跋、蓋從彼錄入者、
新編婦人大全良方二十四卷朝鮮國活字本、自序缺補鈔 存誠藥室藏

〔宋〕醫學臨川陳自明良甫編集、每卷首捺東井文庫印、

懷仙閣亦有藏本、

新刊婦人大全良方零本二卷 存廿三廿四二卷 古鈔本 寶素堂藏

每半面十二行、行廿四五字不一、
按、陳氏真本世唯有朝鮮國刊本、而此本亦未經後人增修、比之韓本小有異同、或是從元刊傳鈔者、雖僅僅零冊亦足貴重、

新編婦人良方補遺大全二十四卷 天順八年刊本 存誠藥室藏

〔明〕鼇峯熊宗立道軒補遺、每卷末捺瑞乾家藏印、卷首有片倉深甫小印、

濟世產寶論方二卷鈔本 幸修堂藏

首有嘉靖己未雙峯王子冲序、曰、南都雷氏子鳴大震類集詩書間、嘗檢閱得宋板醫書一帙云云、未有跋文、曰、吳郡均克明家藏宋板書也、又曰、嘉靖乙酉□□夏吉旦文會堂雷氏新刊、

胎產救急方一卷鈔本

〔元〕延平正心李辰拱編集刊、首有延祐二年自序、稱、

壯歲遊三山獲、從仁齋楊先生遊、先生所刊活人總括直指方論、醫學真經嬰兒指要家傳人誦、獨於胎產一科闕焉、遂採撫古今効驗方書為胎產救急方、板行施人、以續先生未盡之仁、
以上婦人

鷓鴣顯經二卷清御書樓無板書中本

按、是書亦收在李雨村函海中、與此有小異、又幼幼新書所援亦有是正此本者、如初生小兒一月內乳痢如血證一條、治孩子脫肛方二道、此本俱脫、尤宜從而錄補者、

錢氏小兒藥證直訣三卷清陳世倅仿宋本

首冠己亥冬月陳汝楫序及目錄、卷端頁面記照宋本重刊起秀堂梓、目錄後有宣和元年閣孝忠序、卷首題閣孝忠集、每半版八行、行十六字、書法端雅、字殆錢大、開卷悅目、其取原于宋本無疑、末附閣氏附方及仲陽傳一篇、又附刊董氏斑疹方論一卷、攷閣序是書分為上中下三卷、復取所著經驗方附後、此本卷第正與

其所言符、世多傳熊氏類證薛氏校註、俱頗有增修、此本特不失舊觀、真為可貴、然幼幼新書醫方類聚所引諸條、或有此本闕而熊本載之者、他可以彼訂此者極多、則此本未得稱精善也、又近得一小字別本、乃依是本更增入、諸方甚為麤俗、但陳氏是刻缺闕序、初頁亦或有全漏落者、有小字本始得補完、此可嘉也、類證註釋錢氏小兒方訣十卷明初小字刊本 崇蘭館藏

首有正統五年熊宗立序及目錄、每卷首題門人閻孝忠編集、鼇峯熊宗立類證、每半版十一行、行二十一字、不記刊行歲月、按、此本脈證治方皆以類編次、頗改換舊第、然小兒脈法條不治等數字此本小書、與新書類聚合、宋本大書轉失舊裁、黃承務子病瀉條後宋本剩有陸親宮中十大王一條、此本不載、新書亦不引、實係重複、瀉黃散論石膏條、羌活膏論雞舌香條、蟬蛻散論羊角條、宋本皆漏落、諸如此類、是本尤見長、他文字異同與新書類聚所引合、其可據以訂宋本之誤者亦多、意者熊所原、蓋為宋時善本、攷是書宋本

分三卷、此為閻氏舊裁、此本十卷似後來分析者、然宋志藝文略並云八卷、讀書後志亦云、錢氏小兒方八卷、閻孝忠方附于後、書錄解題作三卷、蓋指陳氏所原宋本歟、此本第一至第八錢氏所撰、其他兩卷屬閻氏附方、則亦與宋志諸書所言合、蓋宋時所傳不止一本、故二本取原各異、則始不可得偏廢也、小方脈科徒知宋本可貴、而不知此本亦為佳種、茲表出之、

是書又有明初大字刊本、崇蘭館藏、未見、正德戊辰存德書堂重刊本、原本未見、酌源堂藏、世傳舊抄概依是諸本、而更有薛氏校注本數通、一嘉靖辛亥原刊一十六種本、一萬安方既引之、則知皇國舊有其書、今取校之、如白本俱改竄頗多、又有武英殿刊本、未見、

董氏小兒斑疹備急方論一卷陳世傑本小兒直訣附刊
[宋]東平董汲及之論次、首有東平十柳居士孫準甫序及自序、未有元祐癸酉錢乙後序、

按、此實為痘書之嚆矢、而世久無傳本、然梶原性全萬安方既引之、則知皇國舊有其書、今取校之、如白虎湯石膏四兩下有未研以綿裹煎若不以綿裹則留積於腸胃中損脾胃廿一字、最有關係而此本脫之、

幼幼新書四十卷、目錄一卷明人墨書真本 楓山祕府藏

首有門人李庚紹興二十年序、末有紹興上章敦牂石才孺後序及樓瑋跋、每卷首舉子目、

樓憲先生跋曰、此劉氏真本也、明萬曆間一妄男子肆意刪改之、弇州王氏序而傳焉、以故原書晦尚矣、幸家君借完帙於祕府、乃明人墨書、每卷首尾有二印、曰、中山世裔、曰、和陽劉氏奕世儒醫、豈其方明氏之後歟、家君命弟子靜毅叔士頌士恕門人數輩鈔而得之、世啞科僅獲刊落之餘、猶以為至寶、今觀此本又復如何、

按、此本校之宋槧審本行數正相同、知是明人從宋槧謄錄者、又有萬曆中陳履端刊本、刪却居半、所謂一妄男子者也、

又第三十八一卷宋槧本 肆修堂藏

每半版高七寸一分、幅四寸六分、左右雙邊、十行、行十六字、版心有剗闕名氏、卷首捺頤神印、與荻野本外臺所捺同、按、此本紙質與荻野本外臺相同、其為宋槧無疑、惜

乎所存僅此、

全嬰方論二十三卷宋槧本、缺第一第二兩卷 福井榕亭藏

每半版十一行、行廿字、約略高六寸、幅四寸二分、柳泮先生跋曰、此書宋本西京太醫博士福井榕亭所藏也、已卯閏月繕寫以被貽焉、來書稱、其板式類乎、宋槧而闕第一第二兩卷、故不詳成于何人手、頁面書墨有宋鄭端友著端友淳祐中人也字、是亦不知何據、余覆曰、此語出於熊均醫學源流、而觀末卷記常

所治病、有紹興庚戌乾道壬午文、則知端友為高孝兩朝間人、而稱淳祐當是淳熙訛字、其為宋槧不容疑云、此書著錄於明文淵閣書目者一部四冊、闕李瀕湖本草綱目、又載其方而後流傳遂晦、醫家莫併其目而知者、余閱其方論援證該備、間述新見與劉方明幼幼新書足以駢行、則是不唯罕觀之祕冊、抑亦小方脈科不可少之書也、聞榕亭藏書之富豪擁百城、而關山隔絕無由一見、余每為耿耿、及今得此書千里錄寄以濟同好、其為志可以感戴矣、夫此書原有所闕、則榕亭

意當有楚弓之憾、余將爲之搜求以合劔光報榕亭惠
祝之志、乃併識於卷尾爲他日鈔補張本、

小兒衛生總微論方二十卷弘治己酉朱臣刊本 聿修堂藏

首有弘治二年范吉及朱臣序、俱題以保幼大全、朱序
曰、保幼大全即小兒衛生總微論方別名也、又有嘉定
丙午何大任序、曰、余先君有小兒衛生總微論方二十
卷、家藏甚久、今六十餘載矣、不知作者謂誰、末有李
延壽跋、李弘治時人

陳氏小兒病源方論四卷明正德戊辰陳氏存德堂刊本 酌源堂藏

按、元祿癸酉刊本依此本、是書既經熊氏類證分卷、
亦失宋時之舊況、是本非熊氏原刊、訛謬不少、然元
祿本訛字更多、得據以訂正焉、四庫未收書、提要載影宋鈔、亦四卷可疑

陳氏集驗小兒痘癩方論一卷舊抄本 實素堂藏

首有元統三年朗嘉泰序、及魏君用題辭、本文首有陳
氏小序、末附皇慶元年魏君用鈔梓記二則、

按、熊氏類證分爲二卷、改竄頗多、此蓋從元藥本鈔
者、文字異同多、與醫方類聚相合、則知未經後人增
訂者、

類證陳氏小兒痘疹方論二卷舊抄本

按、今行元祿刊本據正德戊辰陳氏存德堂重刊本、文
字多誤、此猶從成化原刊鈔過者、京師狄野氏藏成化刊本、保東福寺玉峯和尚藏、

又有痘疹大全本薛氏校註本數通、改竄更多、清刊小字本附于小兒直訣、後亦依校註本

活幼心書三卷明修元板 小野氏養閑齋藏

首有和尼赤廉公亮吳剛中羅宗之楊仲叔序、及自序
二篇、又附劉安仁萬世用何琦無名氏諸跋、及天順己
巳世榮識語、宣德庚戌陳安跋、及傳授師派助修書姓
名、又有宣德十年王仲勉重修誌記、今讀其文又勘其
板式、實就舊板而加修補者、則真爲元代刊本、世榮
編輯原書也、又有享保甲寅三宅利庵校刊本、序跋篇

目及卷尾世榮識語俱從刊落、然近時流傳漸渺、未知
世之啞科有知此等本者否、每卷首尾捺大司馬圖書、
大司馬之章、東海郡圖書印、徐氏良士子孫寶之諸
印、又有吉氏家藏印、

新刊演山省翁活幼口議二十卷舊抄本 高階經宣藏

首有石峯熊槐序、每半頁十行、行廿一字、

又舊鈔本 竹洞後人人見友雪藏

又明盛端明手澤本 高階經宣藏

首有景泰四年李實序、末有嘉靖二十二年夏六月二
十五日臈完集錄、嘉靖癸卯夏四月朔王華山人盛端
明書三十三字、每半面八行、行十六七字、

又嘉靖刊本 京師伊其子氏藏

首有嘉靖乙巳書林葉一蘭序、五行十卷首記書林葉氏
作德堂新刊、每半版十二行、行二十字、

以上小兒

養生類纂二十二卷抄本 聿修堂藏

宋榕庵周守忠纂集、明鄉貢進士錢塘、縣知縣樵陽

謝頰校正重刊、首有成化甲午謝頰重刊序、
按、此本係影抄成化刊本者、每半面十二行、行廿六
字、

養生月覽二卷同上

首有嘉定十五年周守忠自序、每卷周謝署名及行款
字數一與前書同、亦是影抄謝刻者、聿修堂又藏舊鈔
本一通、行款亦同、卷首有澗松印、

三元參贊延壽書五卷明修元板 聿修堂藏

首有至元辛卯李鵬飛自序目錄、後附人說一篇、每半
版十二行、行二十三四字至六七字、疎密不定、卷末
有□□□□歲次己卯孟秋空同體玄子劉淵然重刊于
京城冶城朝天宮西山道院記、空闕四字、蓋重修時刪却、聿修堂又藏
朝鮮國刊本、體式行款略與此本同、末有皇明正統參
年歲次戊午孟秋重刊于全州府記、

壽親養老新書四卷鈔本

元敬直老人鄒鉉編次、玉臆黃應紫點校、首有大德
丁未危徹孫、及黃應紫序、其一卷係宋陳直書、故鄒

黃署名後曰、養老奉親書承奉郎泰州與化縣令陳直撰次、

按、高階氏藏元末明初刊本、百百氏藏朝鮮國刊本、俱未見、

山居四要四卷朝鮮國刊本 懷仙閣藏

〔元〕汪汝懋編輯、陳止善校正、徐仁文繕寫、首有至正庚子錢塘楊彝序、每半板十行、行廿字、

按、高階氏藏有嘉靖庚子刊本、合刻加減十三方、

以上養生

經籍訪古志卷第八終 シナ

澤信道、堀川濟輩也、此輩每月一二次預卜夜而會于綠汀、綠汀者本所綠町多紀樂春院元之別莊也、諸子環坐披閱古本、爲之論定會、會後開宴各乘醉而歸、二州橋上踏月詠詩、此是三十年前之事、當時無遲卒之警、馬車之轟光景、與今日大不同、偶憶舊事因書于此矣、
府下醫中之藏書家、以化政間爲盛矣、而其最者爲二劉曲直瀨、次之者小島寶素、久志本綠漪、伊澤蘭軒、與住草堂輩不遑枚舉、余也少時家無一書冊、然與此諸先生相交相親、故所見所聞頗爲宏博、每聞有一奇籍、雖十里之遠亦百計而檢閱、其新古優劣一一記之、故撰醫籍訪古志之際、醫學館主多紀曉湖君柳帶子 桂山孫、與余日日對座、細細攷究、遂爲之編述也、
訪古字面出宋史鄭樵傳、云游名山大川搜奇訪古、遇藏書家必借留讀盡乃去、此書曩者守敬楊氏以重價得一本甚愛之、余曰、此本係偷抄其誤不少、原本一部在我手宜校正、其後未及校正而分手、頃子梁姚先生奉孫麒徐公之命將活字刷印此書、徐乳羔先生亦贊成之、而子梁

經籍訪古志跋 シナ

余平生無他好、刀圭餘暇唯癖嗜古本、壯歲與迷庵掖齋諸老遊、徧閱其所藏舊笈、又與寶素蘭軒交、相與鑒別書之雅俗、亦唯匆忙之際僅止于此而已、無能究本末、星紀漸隱舊交凋落、余亦老矣、每慨同好日希古本亦日晦、追念疇昔不堪悵然、遂德憑諸子有斯書之舉、而諸子哀錄惟勤、各部頓成、足以嘉惠後學焉、噫使諸友而在誰不快絕哉、茲跋數言以誌其喜、丙辰歲十月之望、三松老人丹波元堅、時年六十二、

安政四丁巳閏五月十日與原籍校比一過

森約之

文久三癸亥舉聚幾望宵三更一讀過竟

核華道人 森約之

原本此跋ナシ
此跋中所謂諸子者、謂澀江全善、森立之、海保元備、伊

先生實首任其事也、因令余校正、余不堪并喜、逐一就原本校之、併記前文以換跋文云、乙酉春分後三日森立之立夫、書于水谷街角之容膝屠蘇、

官版書籍解題略凡例

一此書惟に經史子集の四部に分ちて、門目を區別せずと雖も、諸家の書目及び史志四庫全書等によりて次序をなせり、門目無しと雖も實に有が如し、一作者の爵里及び事蹟をあげ、其人品學問の傳統を詳にす、最も名位顯著にして、人々知る所のものは略す、其詳かならざるは、姑く闕て他日の致をまつ、

一宋元の藁本及び諸家精校の善本を以て官刻せしめらる、よりにて其書の源流を題下に註書せり、通志堂經解本を覆刻あるは、其書後に成徳校訂の字あるを以て別に標記せず、

一四書五經小學の正文は通行本に同じく、人々の知る所なれば、解題をなさざるなり、又扶桑略記、孝義錄等の書は、四部の外なるを以てこゝに列せず、

一官刻の書、逐年校刊合めらるれば、またこれに次ぎて續記收入すべきなり、
天保十五年甲辰春月
江都 榎山精一堯陳甫識

官版書籍解題略上

經類
榎山精一堯陳譯
四冊

○易傳四卷二程全書原本
宋の伊川程子撰す、元符二年の自序あり、程子紹聖四年涪州に編管し、元符三年峽州に遷る、則涪州を編管するの後に成るべしと云へり、世に善本なし、楊時校正を加へて始て完たしと、詳に時が跋語に見えたり、程子は邵子の數を信せず、故と邵子は數を以て易を言ふ、程子此の傳はすなはち理を言つて、一天道を闡き、一に人事に切なりと云へり、是の書、明の徐必達校正を加へ、楊時が跋語を刪り去る、
○朱文公易說二十三卷
宋の朱鑑編す、鑑字は子明、朱子の嫡長孫なり、廢を以て迪功郎に補せられ、官は湖廣の總領に至る、朱

子初め易傳を作る、王弼の本を用ひ、後易の本義を作る、始め呂祖謙の本を用ゆ、その易傳は散佚して傳はらず、是の書は、朋友の論難と門人の辨説と語録中に散見せるを、鑑これを輯め、以て本義の闕を補へり、放佚を收拾して以て考證に備へたり、またその家學を世々にすと云べし、

二冊
○易學啓蒙通釋二卷
宋の胡方平撰す、方平字は師魯婺源の人なり、方平の學は董夢程に出で、夢程の學は黃榦よりいで、榦は朱文公の壻なり、故に方平及びその子の一桂、篤く朱子の説を守ると云、この書は朱子の易の啓蒙の旨を發明せり、朱子は程傳によりて専ら理を明にする事を主とし、又邵子の數を以て其の偏を補へり、易の理たゞこの書を著はして數をいへるなり、後の人本義を置て、此の書を假借せば、推衍支離に至るべし、朱子の本旨にあらず、方平がこの書、また専ら數學をひらきて、朱子の書にもとづきて詮釋せり、取

る所の諸書、凡て黃榦、董鑑、劉燾、陳埴、蔡沈、蔡淵の六家みな朱子の門人なり、又蔡模、徐幾、翁泳の三家、模は蔡淵の子、幾と泳とはみな淵の門人なり、故に衍説する所なほ他家の宗を離るゝに至らず、これ亦啓蒙を讀もの考ふべき所なり、

○易本義附錄纂疏十五卷

四冊

元の胡一桂撰す、一桂字は庭芳、雙湖と號せり、婺源の人なり、景定甲子、郷の薦を領して禮部に試みられて第せず、郷里に教授して以て終ると云、是の編は朱子の本義をもつて宗とし、文集語録の易に及ぶものを附して附録と云ひ、又諸儒の易説の本義に合ふものを纂して纂疏と云、その去取は一に朱子を以て本となすと云り、

○周易本義通釋十二卷

七冊

元の胡炳文撰す、炳文字は仲虎、雲峰と號す、一桂の子なり、嘗て信州の道一書院の山長となり、再び蘭溪の學正に調せられて赴かず、是の書、朱子の本義

によりて折中し、また諸家の易解を探りて發明せるなり、初め精義と名づけ、のち繁冗を刪り、約して通釋と名を改むと云、

○周易本義辨證五卷

二冊

清惠棟撰す、棟字は定宇、長州の人なり、古文周易十二篇、上象以下これを傳と云ふ、相傳て孔夫子の撰する所と云ひ、漢人十翼を作ると稱し、鄭康成始て象象を以て經文に連らね、王弼また文書を以て乾坤の二卦に附せり、程傳これによる、朱子の本義を作るや、東萊の呂氏によりて、經二卷、傳十卷を作りて、象曰、象曰、文言曰の諸後に増せる文を刪りさつて、是において殺亂の書また明なり、明の永樂中に大全を修し、朱子の卷次を割裂して、程傳の下に附し、後來士人また程傳をすて去りて習らはず、よつて坊間つひに大全の本を取りて、程を刊り、朱を存じて、程の次第を以て次第をなせり、相傳へてあらためず、これを正すものなし、清の康熙中に周易

折中を編次す、一に本義によれり、棟また折中に遊ひ、朱子の舊に復すと云へり、音訓の備はらざるは、説文廣韻の諸書を以て補へり、其經文は古文によりて正し、本義の備はらざるものは、語類及び程傳を以て補ふと云、其餘の辨證等の始末は凡例に詳なり、

○尙書集傳纂疏六卷

六冊

元の陳樸撰す、樸字は壽翁、定宇と號す、休寧の人なり、宋亡の後、隱居する事三十八年、延祐甲寅二年六十三、また出て試に應じ、浙江の郷の試みにあたる、病を以て會試に及ばずして家に終る、年八十三、この編は蔡傳の意を疏通し、また諸家の説を纂輯して纂疏と名づく、又蔡傳の本は、朱子の指授に出づるを以て、第一卷に朱子訂正の目を毎條の下に標して、朱子の説を以て諸家の前に冠らせ、まゝ己が意を附して愚謂と云を以てこれが考を分てり、是の書の作は、すなはち蔡傳におひて増補する所あり

て、駁正の所なしと云、

○尙書輯錄纂註六卷

五冊

元の董鼎撰す、鼎字は季亭、鄱陽の人なり、朱子の學を黃榦に授けたり、鼎が族兄の夢程榦に従つて學べり、鼎は兄の夢程に従ひ、其緒論を聞けり、故に自敘に朱子の再傳を得たりと云へり、是の編は蔡傳を以て宗とせり、集傳の後に續に朱子の語録、および他書に載する朱子の語を以てして、これを輯録といひ、又諸説の相ひ發明せるものを採りて、末に附して纂註と云へり、自序に、集傳は既に朱子の訂定せる所なれば、自ら著すと異なる事なし、又朱子の一經を薈萃すには、朱子を以て主となすと云へり、是の書の意主は、吳澄の序文及び凡例に詳に見えたり、

○詩童子問十卷

五冊

宋の輔廣撰す、廣字は漢卿、潛齋と號せり、呂祖謙に従つて游べり、後また朱子に従ひて講學せり、すなはち世に稱する所の慶源の輔氏なり、是の編の大

旨は、詩經の集傳に羽翼し、平日朱子に聞ける所の説を述ぶるを以て童子問と云へり、卷首に大序小序を載せ、尙書周禮論語等の詩を説けるを採りて、おのおの註釋をつくり、又諸儒の辨説を録して、以て詩を讀の法を明かにせり、書中經文を載せず、只その篇目を録し、章を分かち、訓詁をなせり、末一卷は唯に叶韻を論せり、

○詩傳遺説六卷

三冊

宋の朱鑑撰す、是の編は、宋の理宗端平乙未のとし、鑑承議郎を以て興國軍に知たりし時に成る所なり、蓋し朱子の集傳を重刊せるにより、文集語録に載するところの詩を論せるの語を取り、集傳を發明するに足れるを聚めて編せしゆゑに、遺説と云へり、其書のはじめに綱領、つぎに序辨、つぎに六義、これに繼に風雅頌の論を以てし、終に逸詩、詩譜、叶韻の義を以てし、朱子の説を以て朱子の盡さざるの義を明せり、尙ほ易傳を編する所の例なり、詩傳重刊のこ

とは鑑が自序に見えたり、

○詩集傳名物鈔八卷

八冊

元の許謙撰す、謙字は益之、金華の人なり、延祐中に講學を以て一時に名あり、白雲先生と稱するものはなり、謙學を王柏に受けて、諸經を研究し、亦古義に明かなり、故に此の書の考る所の名物音訓すこぶる根據ありて、集傳の闕を補と云へり、書中實に多く陸氏の釋文及び孔氏の正義を採用すと雖ども、一家を守らざるを以て、名づけて鈔と云るなり、

○詩傳通釋二十卷

八冊

元の劉瑾撰す、瑾字は公瑾、安福の人なり、その學問の淵源は朱子より出づ、故に是の書の大意、集傳を發明するにあり、輔廣が詩の童子問と同じし、陳啓源毛詩稽古編を作る、駁詰する所多し、廣が書みな文に従つて其義を演じて、駁する所はたゞに訓解の辭のみ、瑾が是の書はかねて故實を辨訂せり、ゆゑに駁する所はたゞに考證の語多しと云へり、

○儀禮圖十七卷附旁通圖一卷

八冊

宋の楊復撰す、復字は茂才、信齋と號せり、福州の人なり、是の書は紹定元年戊子に成る、自序に稱す、趙彥肅特牲少の二禮の圖を作りて、朱子に質せり、朱子冠婚の圖及び堂室の制度を併せて考る事を得ば佳なるべしと言へるにより、復原本を師意に従ひ、よりて十七篇の經文を録し、舊文を節取し、其意を疏通し、おのゝ儀節陳設の方位を詳にし、かくるに圖を以てせり、凡て二百有五、また宮廟門、冕弁門、牲鼎禮器門を分つて、圖を作る事二十有五、名づけて儀禮旁通圖と云て、後に附せり、

○禮記集說補正三十八卷

九冊

清の納蘭性德撰す、性徳と成徳に作る、字は容若、滿洲正黃旗の人なり、康熙丙辰の進士にして、官は乾清門の侍衛に至る、是編は陳澠が禮記集說の疎舛の甚だしきにより、條析をなしてこれを辨せり、凡て澠がのこす所のものはこれを補といひ、誤る所のも

のこれを正と云、皆經文を列し、次に澠が説を列し、

考證を引て其失を著はせり、補正する所なきは、經文と澠が説とを載せず、頗る宋元明の人鄭註孔疏を論ずるを取り、また異同を立て、大抵詰訓と名物とを考ふるもの十に三四、義理と是非とを辨するもの十に七八なり、澠が注は多く義理を以てす、故に文にしたがひて駁詰するもの亦多きなり、陳氏が云ところの得失を計り較する事を免がれざるときは、澠が註を讀もの、又この編を廢すべからざるものなり、

○大戴禮記十三卷武英殿聚珍版原本 四冊

漢戴徳撰す、隋書經籍志に大戴禮記十三卷、漢の信都王の傳戴徳撰すと、崇文總目に云十卷三十五篇と、中興書目に云、今存する所たゞに四十篇と、晁氏讀書志に云三十九篇より始り、四十三、四十四、四十五、六十一の四篇逸して、兩の七十四ありと、其餘の諸子の書目たがひに異なり、周に始て盧辨の註あり、是の書正文と註に合せて訛りありて、誦をなすことあたはず、

然るに永樂大典本の内わづかに二十六篇を、各韻の下に散見せると、今の各本および古籍の中に戴記を撫引せる文を以て參互校訂して、下に案語を附せり、

○大戴禮記補註十三卷

四冊

清の孔廣森撰す、廣森字は驛軒、曲阜の人なり、大戴の全篇八十有五、いまに存するもの四十篇にたらずして、章句も溷淆し、文字も譌り多し、唯に北周の盧辨はじめて註を作ると雖ども、其第一第二第七第九第十二すべて五卷舊註の既に逸せり、よつて己が意を以て博く群書を考へ、衆説を會して、訓詁にそなふと云、又各篇目を隋志より以下異同を考へ、諸子百家に質定して、考證を附せり、

○春秋釋例十五卷

十五冊

晉の杜預撰す、預が事蹟は晉書本傳に詳かなり、是の書は、經の條貫は必ず傳に出づ、傳の義例は總て凡に歸す、左傳に凡と稱するもの五十、その別四十有九、みな周公の垂法にして、史書の舊章なり、仲

尼よつてこれを修して以て一經の通體をなせり、書すと稱して書せず、先に書す、故に書して言はず、書すると稱せずしてこれを類と云、みな新舊を起し、大義を發する所にして、これを變例と云、また舊史に書せざる所、たましく仲尼の意に合ふものあり、仲尼すなはち義の互に比較するに非すとせば、則褒貶あきらかならず、故に別に諸例を集む、地名譜第曆數あひともに部をなし、先に經傳數條を列し、以て其餘をかね通じて、傳に述る所の凡の繁に及べるは、更に己が意を以てこれをのべて、釋例と名づけたり、明より以來この書久しく佚せり、惟り永樂大典の中に

なほ三十篇、ならびに唐の劉賈が原序を存せり、其六篇は釋例ありて經傳なし、餘また多く脱文あり、よつて孔穎達が正義および諸書に釋例を引ける文を撮ひとりて、之を補ふと云へり、

○春秋名號歸一圖二卷附年表一卷 一冊

僞蜀の馮繼先撰す、この書に列する所の人物名氏、周

魯齊晉楚鄭衛秦宋陳蔡曹吳邾杞莒滕薛許の小國を雜へて二十國なり、文獻通考に云、昔し丘明傳に、春秋列國君臣の名字において其稱を一にせず、多きもの或は四五に至る、始め學ぶものその紛錯の記し難きを憂ふ、繼先その同じきものを集めて一百六十篇をつくると云、今の本、その一人を一條となし、百六十篇なるものなし、蓋し岳珂九經を相臺に雕印せるとき、刻本の譌錯の多きを以て、刊定し移し易る所にして、繼先の舊本には非ざるなり、附刻の年表は撰人の名氏なく、何人の作なるを知らず、春秋二十國の年表なり、この書繼先の撰となし、通志堂經解中に誤りて合刻せるなり、

○春秋左氏傳補註十卷

三冊

元の趙訪撰す、訪字は子常、休寧の人なり、黃澤に従つて易象春秋の學を受けたり、黃澤の説を尊信し、春秋は左氏を以て主とし、註は杜氏を以て宗とせり、左氏の及ばざるは公羊穀梁の二傳を以て之を通せし

め、杜の及ばざるは陳傳良が左傳章旨を以て之を通せり、是の書ひとり杜解に補ひあるのみならず、左傳において、聖人の言はざるの旨灼然として見るべしと云へり、

○孝經鄭註一卷知不足齋叢書本 一冊

漢の鄭玄註す、古文孝經世に傳本ありて、今文孝經佚して傳はらず、特り群書治要中に鄭註を收めたり、前に古文孝經の唐山に佚せしを、太宰純が音訓本の海外に流傳して、鮑廷博が叢書中に刊せり、是の書彼に佚して亦傳本なし、よつて尾張の岡田挺之なるもの、治要中より抄出して、其經文の全たからざるは註疏本を以て補へりと云、寛政癸丑の秋胡嗣に附せり、清の嘉慶辛酉の年鮑氏の手に入る、又藏鏞堂撰する孝經鄭氏解及び洪頤煊が鄭註補證を連刻し、また叢書中に入れ、其來由を廷博記し、阮元題して之を傳へたり、且て鮑阮の記中に群書治要をもつて、吾邦の書となす、その治要の唐書藝文志に載するを知

らざるが故に、信誦あひ半ばせり、

○鄭志三卷、補遺一卷 一冊

隋書經籍志に鄭志十一卷、魏の侍中鄭小同撰す、鄭記六卷は鄭玄の弟子撰すと、後漢書の玄が本傳に、門生相ともに撰すと稱す、玄が弟子に答るに、論語によりて鄭志八篇を作ると、劉知幾が史通に、亦玄が弟子師説を追論し、及び應答するもの、之を鄭志と云と稱せり、疑ふらくは追録のものは諸弟子の編にして、帙を成すものは則小同なり、後漢書は其始に原づき、隋書は其終を要すればなり、八篇を分ちて十一卷となすを見れば、諸弟子の舊本に非ざるなり、崇文總目に著録せず、すなはち全く北宋の初に佚せるなり、此の本三卷なれば、また誰氏より出る事を考る所なし、補遺は清の乾隆中諸書を採蒐して修する所なり、

○六經正誤六卷

四冊

宋の毛居正撰す、居正字は誼父、衢州の人なり、免

解進士晃の子なり、晃かつて増註禮部韻略及び禹貢指南を著はせり、居正その家學を受け、六書を研究せり、嘉定十六年國子監に詔ありて、經籍を刊正令めらる、事に當るもの、居正を聘して校讎を司らしむ、已に四經を釐定し、たましく居正目疾を以て罷め歸る、其禮記及び春秋三傳つひに成らず、然れども校する所の四經、また工人の煩を憚り、墨本を詭竄して以て有司版の誤を改めざるもの、十にして二三なり、居正すなはち校正する所の字を集めて、此の編を補ひ成せり、楊萬里ために序を作り、其始末を述る事甚だ詳かなり、是の書異同を校勘し、謬誤を訂正す、毎に經學に補ひあり、

○經傳釋詞十卷 清經解本

三冊

清の王引之撰す、引之は高郵の人なり、語辭の釋は爾雅に肇りて、一編の成書あるは、東嘉の盧以緯が助語辭わづかに一卷ありて、明の錢塘の胡文煥これを得て萬曆中に刊せり、清に至りて古絳の張文炳盧字

該釋六卷ありて、東萊博議の卷末に附刻せり、其書起語、接語、轉語、襯語、束語、歇語と云ふ、凡て虛字六篇に分てり、以緯が撰になぞるふるにや、密なりと雖も、引之が此書の精確なるに及ばず、嘉慶二年の自序に、其詞の發句助句のもの昔人實義を以てこれを釋せり、往々詰難して病をなすを見る、よつて九經三傳より周秦西漢の書に及び、凡て助語の文あまねく探討をなし、字を分て編次せり、凡て百六十字、前人の及ばざる所のものはこれを補ひ、誤解のものはこれを正し、曉りやすきものは略して論せずして、古人の意を伺ひ測りて、學者の採釋に備と云へり、此の書古經を解するに裨益ある、前人の發せざる所にして、例を推して最も證明なり、

○四書纂疏二十六卷

十三冊

宋の趙順孫撰す、順孫字は格庵、括蒼の人なり、順孫の父雷は考亭の門人、滕先生璠に師とし事ふ、よつて家庭に得るものなり、則順孫は朱子を距る事三傳な

り、此の書つぶさに朱子の説を引きて集註を羽翼せり、旁ら引ける所のもの、唯に黃榦、輔廣、陳淳、陳孔碩、蔡淵、蔡沈、葉味道、胡泳、陳埴、潘柄、黃士毅、真德秀、蔡模十三家みな朱子の學を爲すものにして、他にわたらざるなり、疏を以て名づくるは、穎達公彦が疏の體に陪せりと云へり、

○四書通旨六卷

六冊

元の朱公遷撰す、公遷字は克升、樂平の人なり、至正中特恩を以て校官を授けられ、金華の郡庠を主とると云、是の編は、四書の文を條を分ち、或は長きを析しきて、類を以て九十八門となし、門ごとに又語意の相近きものを綴り列らねて、一々異同を辨じ、分けて右某の義を明せりといへり、昔し程子かつて是の法を以て學者に教へたり、公遷其意を推し廣めて、この書を成せりと云へり、

○四書輯釋十四卷

十四冊

元の倪士毅撰す、顧氏日知錄に云、朱子大學中庸章

句或問、論語孟子集註を作れり、後黃氏に論語通釋ありて、其語録を取り、朱子の章句の下に附せるは、すなはち真氏祝氏の附録を爲すに始り、後また蔡氏の集疏、趙氏の纂疏、吳氏の集成ありて、觀るもの其泛濫なるを病めり、此において陳氏四書發明を作れり、胡氏四書通を作る、陳櫟の門人倪氏二書を合せて一つとなし、頗る刪正して輯釋と名づけたりと云、明の永樂中に胡廣等勅を奉じて大全を輯す、倪氏の書つひに廢し、世に傳本なし、幸に元刻の本存せるを以て、重鐫をなす所にして、亦この書再び世に明なり、

○四書章句附攷四卷

一冊

清の吳志忠撰す、志忠は吳縣の人なり、朱子の四書に註するや、畢生の心力を盡され、臨終の數日の前なほ改正あり、但その本の世に行はるゝの早きを以て、其定本のもの少し、よつて註本の異なるある所なり、是に於て志忠あまねく宋元の古本の四書及び

疏釋の書、朱子章句集註の最後改定の本、及び傳寫の誤らざるものを求めて定本を作れり、又諸本により異同を訂して、是の附攷を作れり、大學に於て八十九條、中庸に於て百十九條、論語に九百四十六條、孟子に六百七十六條を得たり、山井鼎が七經考文、阮元が十三經考勘記の體に倣へり、この附考の成に及び、刻に附するのとき、志忠の父英が、章句集註の定本の最も要なるものをととりて、辨一卷を爲り、卷首に辨せり、此附攷辨は志忠の校刊せる四書章句集註の後に附刻せる所なるを、今只に其附攷定本を割裂し、官刻せらるゝ所なり、

○重修玉篇三十卷

四冊

梁の顧野王撰す、梁の大同九年顧氏黃門侍郎兼大學博士たりしとき撰する所なり、唐の上元元年富春の孫強増加の字あり、宋の大中祥符六年に陳彭年、吳銳、邱雍等が重修の本凡そ五百四十二部、舊と一十五萬八千六百一言、新增五萬一千一百二十言なり、新

舊合せて二十九萬九千七百七十言、註四十萬七千五百三十字、この書張士俊が宋槧の本を、汲古閣の毛氏に得て校讎を加へ、開雕する所にして、前の野王の序一篇、この書を呈する啓一篇、後に神珙が反紐の圖、及び分毫の字様ありて、朱彝尊これに序せり、

○千祿字書一卷

一冊

唐の顔玄孫撰す、玄孫は果卿の父、真卿の諸父なり、官は滁沂濠の三州の刺史に至り、祕書監を贈らる、大曆九年真卿の湖州に官するときに、是の編を石に勒し、開成四年に楊漢公また蜀中に摹刻せり、其後宋の寶祐丁巳に、陳蘭孫なるもの、湖本を以て始めて木に鋟ばめり、清の馬曰璐宋本を得て翻刻す、則この本なり、是の書は章表書判の爲に作れり、故に千祿と云へり、其例は四聲の隸字を以てし、又二百六部に字の後先を排比して、字ごとに俗通正の三體を分ち、其中虫蟲、鬲圖、商商、凍凍の兩字の如き、上は俗下は正と爲すの類を列せり、

○五經文字三卷

一冊

唐の張參撰書す、參は代宗の時の人なり、唐書儒學傳の序に、文宗五經を定め石に刻す、張參等こゝに諱文を正すとあるは誤なり、後漢書に喜平四年春三月、諸儒に詔ありて、五經文字を石に刻し、大學の門外に立つとあり、參の書名こゝに取れり、

○九經字樣一卷右同卷

唐の玄度撰書す、玄度は開成中に翰林侍詔に官す、唐會要に大和七年二月玄度に勅し、石經の字體を覆定せしめらる、十二月國子監の講論堂の兩廊に、石經の九經、玄度が字樣を創立すと、蓋しこの時に起る、凡て四百二十一字、五經文字に倣ひ七十六部と爲すと云、五經文字の末に附し、二書相ひたすけて行ふ、當時石經九經の後に列すと云、これ唐の開成石經中の一種なり、

按するに、五經文字は開成より六十二年まへ代宗の大曆十一年に、國士子業張參、漢の石經と説文